

平成29年度

授 業 計 画

(シラバス)

東 北 大 学 歯 学 部

If you teach a person what to learn,
you are preparing for the past.

If you teach him how to learn,
you are preparing him for life.

Houle 1967

平成29年度歯学部学年暦

(2017. 4~2018. 3)

(1学期週数) 15 16 15 14 15

(2学期週数) 15 16 16 16 16

4月	日	月	火	水	木	金	土	10月	日	月	火	水	木	金	土
		1	1	2	3	4	5	6
2	3	4	5	6	7	8	8	8	9	10	11	12	13	14	
9	10	11	12	13	14	15	15	15	16	17	18	19	20	21	
16	17	18	19	20	21	22	22	22	23	24	25	26	27	28	
23	24	25	26	27	28	29	29	29	30	31	
30	
5月	日	月	火	水	木	金	土	11月	日	月	火	水	木	金	土
	...	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13	13	5	6	7	8	9	10	11	
14	15	16	17	18	19	20	20	12	13	14	15	16	17	18	
21	22	23	24	25	26	27	27	19	20	21	22	23	24	25	
28	29	30	31	26	27	28	29	30	
...	
6月	日	月	火	水	木	金	土	12月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3		1	2
4	5	6	7	8	9	10	10	3	4	5	6	7	8	9	
11	12	13	14	15	16	17	17	10	11	12	13	14	15	16	
18	19	20	21	22	23	24	24	17	18	19	20	21	22	23	
25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30	
...	31	
7月	日	月	火	水	木	金	土	30年1月	日	月	火	水	木	金	土
	1		...	1	2	3	4	5	6
2	3	4	5	6	7	8	8	7	8	9	10	11	12	13	
9	10	11	12	13	14	15	15	14	15	16	17	18	19	20	
16	17	18	19	20	21	22	22	21	22	23	24	25	26	27	
23	24	25	26	27	28	29	29	28	29	30	31	
30	31	
8月	日	月	火	水	木	金	土	2月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5		1	2	3
6	7	8	9	10	11	12	12	4	5	6	7	8	9	10	
13	14	15	16	17	18	19	19	11	12	13	14	15	16	17	
20	21	22	23	24	25	26	26	18	19	20	21	22	23	24	
27	28	29	30	31	25	26	27	28	
...	
9月	日	月	火	水	木	金	土	3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2		1	2	3
3	4	5	6	7	8	9	9	4	5	6	7	8	9	10	
10	11	12	13	14	15	16	16	11	12	13	14	15	16	17	
17	18	19	20	21	22	23	23	18	19	20	21	22	23	24	
24	25	26	27	28	29	30	30	25	26	27	28	29	30	31	
...	

(5年次2学期前期週数) 8 10 10 10 9

注1) _____ : 全学教育授業日 - - - - - は集中講義日 _____ はクォータの境界を示す

■ : 祝日等の休業日 (6月22日は創立記念日)

注2) ■ : 1~4年専門授業日 ■ : 1~4年専門補講試験日 □ : 入学試験等 (予定)

青字 : 5年専門授業日 赤字 : 5年専門補講試験日

※入学式は4月5日(水)、オリエンテーションは4月6日(木)に行う。(4月6日(木)は3年生のみ休講)

※6月22日(木)は創立記念日であるが、全学教育科目及び臨床実習のみ授業を行う。

※オープンキャンパスは7月25日(火)・26日(水)に行う。

平成29年度歯学部学年暦

全学教育科目(年間30週)

1学期(1, 3セメ) 16週(第1クォータ8週、第2クォータ8週)

2学期(2, 4セメ) 16週(第1クォータ8週、第2クォータ8週)

専門教育科目(1～4年:年間30週)

1学期 15週+補講試験期間2週

2学期 15週+補講試験期間2週

専門教育科目(5年:年間35週以上)

1学期 15週+補講試験期間2週

2学期前期 10週+補講試験期間1週

2学期後期 10週以上(臨床実習)

(参考) *5年次2学期前期は登院判定前まで, 2学期後期は臨床実習開始後。

*5年次2学期後期及び6年次の授業期間に関しては, 臨床実習総責任者がこれを取り決める。

全学教育科目(1～2年次)

1学期 4月7日(金)～8月4日(金)

2学期 10月 2日(月)～12月22日(金)及び 1月4日(木)～ 2月5日(月)

専門教育科目(1～5年次)

1学期 4月 4日(火)～ 7月24日(月)[1年次学生は4月6日にオリエンテーション実施予定]

5年次共用試験 CBT: 7月13日(木) OSCE: 7月22日(土)

補講試験期間 8月21日(月)～ 9月 1日(金)

1～4年次 2学期 10月 2日(月)～12月25日(月)、1月4日(木)～ 2月 2日(金)

補講試験期間 2月 7日(水)～ 2月20日(火)

5年次 2学期前期 9月 4日(月)～11月10日(金)

補講試験期間 11月13日(月)～11月24日(金)

5年次 2学期後期 11月27日(月)～12月25日(月)、1月4日(木)～ 3月16日(金)、
3月26日(月)～3月30日(金)(予定)

専門教育科目(6年次)

4月 4日(火)～ 7月21日(金)、8月14日(月)～10月13日(金)(予定)

臨床実習修了認定試験 10月17日(火)～11月2日(木)(予定)

<参考>

全学教育	4/7	8/4	10/2	12/22	1/4	2/5
1～4年 専門	4/4	7/24	8/21 9/1	10/2	12/25	1/4 2/7 2/20
5年	4/4	7/24	8/21 9/1	9/4	11/10	11/27 12/25 1/4 3/16 3/26
6年 (予定)	4/4	7/21	8/14	10/13	11/2	

: 授業期間
 : 補講期間又は試験期間

授業計画（シラバス）の作成にあたって

大学における学術研究の成果は、真理の探究という人間本来の知的創造活動によって獲得された人類の知的資産であり、大学における教育は、それらを共通の資産として用いることが許された知的伝達活動である。我々は常に、それらの知的資産を吟味し、時に修正し、新たに積み重ね、さらに拡げていく責務を背負っている。それゆえに大学における教育・研究には、新たな真理を求める自由思考が許されるのであり、また大学は教育する側と教育を受ける側が一体となってその努力を行う場でなければならない。そこに学問の進歩があり、東北大学の研究第一主義の真の意味が生み出される。

歯科医学は顎口腔領域を直接の治療対象として全身の健康福祉に貢献する健康科学（health science）の一分野であるが、その教育の基礎となる知的資産は、すべからく先達の必死の努力によって獲得されたものである。確かに、歯科医学が直接の対象とする治療域そのものは広くなく、またそれに関する授業科目も直ちに健康に関係するものばかりではない。しかし、それが全身の健康に関わる役割はおそらく身体の器官のなかで最たるものといえよう。それも単に肉体的な健康のみならず、精神的な健康にまで深く関わることを思えば、我々が担う歯科医療の役割は極めて大きいことを認識すべきである。このような背景を有するがために、歯科医学を構成する学問領域は臨床治療科目のみならず、それを支援する多様な基礎科目を擁するものとなっている。我々はそれらのそれぞれが必要とする知的資産を学生に効率よく伝達し、その実践化のなかで学生が将来において人類の健康福祉に寄与することを期待している。

このシラバスは、教員がそれぞれの担当科目を教授するうえで、また学生が歯科医学を学習するうえで、それぞれの科目の縦横の連携の理解を容易にするために作成されたものである。それぞれの科目の教育目標はもとより、それらの教育項目とその教育順序の中から、関連する知識の統合や整合性を求めて授業や学習の効果を挙げるものとして活用されたい。しかし、このシラバスは授業科目間の連携を示しても、歯科医療に携わる者として具備すべき全ての要素を網羅したものではない。言うまでもなく、歯科医師には人類の健康福祉に貢献するうえで必須の条件となる人間愛の精神が要求されることを忘れるべきではない。この重要な精神の涵養はとくに専門教育の場で意識的に行われるものではなく、平成5年度よりスタートした6年一貫教育の理念のなかで全学教育科目の履修を含めて学生が自らの努力で培っていくものである。

医聖ヒポクラテスの箴言にあるように、人生は短く学は遙かであり、機は逸し易く試みは過ち多く、そして判断は至難であることが、我々が携わる医療の厳しい現実であることを心に銘記して、教員・学生ともに一人の真摯な歯科医学徒として授業に取り組んで欲しいと願っている。

学部名： 歯 学 部

1. カリキュラムポリシー

歯学部は、医療人、研究者としての基本的素養、すなわち豊かな教養と人間性、高い倫理観を備え、「科学する心」を持って知的探求を行い得る高度専門職業人としての歯科医師、教育研究者を育成養成することを目標とし、基礎歯学と臨床歯学の統合を希求する「臨学一体」を基本理念としています。

歯学部では、これらの目標、理念に基づき、以下の方針でカリキュラムを実施しています。

1. 入学直後の1年次には、歯学を勉学する意欲の動機付け（early motivation）と歯科医療現場の早期体験（early exposure）を支援します。
2. 豊かな教養と人間性、高い倫理観を涵養するため、全学教育科目と専門教育科目間の有機的な連携を重視します。
3. 専門教育科目では、「臨学一体」を基盤とするカリキュラムを通して、科目間の有機的な連携を重視します。
4. 「臨床実習」に先立って、基礎系の研究分野で実施する、英文論文抄読から研究立案、実施、発表に至る一連の研究過程を経験する「歯学基礎演習・基礎研究実習」を通して「科学する心」を育みます。
5. 5、6年次では、「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」を基盤とする診療参加型の「臨床実習」を通して、次代を担いうる高度専門職業人を育成します。

2. ディプロマポリシー

歯学部にて6年以上在学し、全学教育科目49単位以上、専門教育科目152単位以上【共用試験（CBT・OSCE）を含む】、合計201単位以上を取得し、豊かな教養と人間性、高い倫理観を身に付けた学生について卒業を認定します。

目 次

1. 歯学部の教育理念	1
2. 歯学部授業科目表	2
3. 平成29年度学事予定表	3
4. 平成29年度授業時間割表	4
5. 科目別教育目標及び授業計画	6
6. 歯学部・歯学研究科教員名簿	168
7. 歯学部・歯学研究科学生相談室	174
8. オフィスアワー	175
9. 歯学部・歯学研究科建物案内	177

1. 歯学部教育理念

東北大学歯学部は、昭和40年の創設以来、「論理的な思考」にもとづき全ての事象に対して常に発展的に考究することを教育理念とし、歯学の進歩発展と人類の健康福祉に貢献することを使命としている。また、本学部の教育方針は、単に歯科医師の養成にとどまらず、研究第一主義にもとづいた論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにある。

上記の教育を実践するため、本学部では平成5年度の教養部廃止に伴う東北大学の教育改革に呼応し、進学課程と専門課程の区分を廃止し、入学から卒業までの新カリキュラムによる6年一貫教育を全国の国立大学歯学部にも先駆けて導入した。また、平成12年度の大学院重点化以降、大学院教育に連動する学部教育編成を行うとともに、大学院教育の充実に伴い飛躍的に活性化した研究成果を学部教育にフィードバックしている。さらに、平成13年に提示されたモデルコアカリキュラムを導入し、現在の歯学部授業科目は導入科目、コア科目、アドバンス科目、臨床実習の4つに区分されている。授業達成度の評価手段として、各学年における定期試験のほか、5年次の臨床実習開始前には全国共用試験であるCBT(Computer Based Testing)により歯学知識の修得度が確認される。同時に客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination)により基本的な臨床能力が確認される。

現在、本学部の教育の特徴としては、①1年次における、歯学を勉学する意欲の動機付け(early motivation)を支援し、歯科医療の現場を早期に体験(early exposure)する「歯学概論」と「歯科臨床入門」の開講、②専門教育科目間の有機的連携を重視したカリキュラムの編成、③5年次には、基礎系分野研究室に所属し研究を行う「歯学基礎演習」および「基礎研究実習」の実施、④基礎系と臨床系複数分野の「合同講義」の実施、⑤各臨床系教員の連携指導のもとに行われる「一口腔一単位」を基盤とした「臨床実習」、などが挙げられる。

さて、歯学部学生が最初に学習すべきことは、歯科医学を志す歯学生としての認識と使命感である。歯学部における教育では、学生が真理探究や知識の統合などの楽しさを学び、学問に対する自発的な興味と意欲を高め、主体的に学習する習慣が身につくような指導を心掛けている。また、歯学生としての最終段階では、医療人としての「人間形成」を図ることを心掛け、医療に従事する者には必須の資質であるべき生命に対する畏敬の念や人間に対する思いやりを備えるよう指導している。

医療人として、また研究者、教育者としての基本的素養と高い倫理観・豊かな人間性を習得し、卒業後の人生に活かしてほしい。諸君、「志を高くもて！」

3. 平成29年度歯学部・歯学研究科学事予定表

区分		日程		
		学部		大学院
		全学教育科目	専門教育科目	
入学式		4月5日(水)		
オリエンテーション(1年)		4月6日(木)		4月5日(水)
1学期授業	第1クォーター	4月7日(金)～6月8日(木)	4月4日(火)～7月24日(月) (1年～5年)	修士:4月～9月
	第2クォーター	6月5日(月)～8月4日(金)	4月4日(火)～7月24日(月) (6年)	博士:4月～9月
第1学期Web履修登録(確認訂正含む)		4月7日(金)～4月20日(木) Web入力・確認	—	—
履修登録		4月7日(金)～4月20日(木) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	4月中旬
学生定期健康診断		5月19日(金)		
創立記念日(休業)		6月22日(木)※全学教育、臨床実習のみ授業を行う		
夏季休業 学期末休業		8月7日(月)～9月29日(金)	歯学部学年暦参照	—
大学院入学試験(1次)		—	—	7月中旬
オープンキャンパス		7月25日(火)～7月26日(水)		
補講及び試験		—	8月21日(月)～9月1日(金)	—
2学期授業(冬期休業前まで)	第3クォーター	10月3日(月)～12月22日(木)	・10月2日(月)～12月25日(月)及び1月4日(木)～2月2日(金)(1年～4年) ・9月4日(月)～11月10日(金)、 11月27日(月)～12月25日(月)、 1月4日(木)～3月16日(金)及び 3月26日(月)～3月30日(金)(5年) ・8月16日(金)～10月17日(火)(6年)	10月～12月
	第4クォーター	11月28日(火)～2月5日(月)		
第2学期Web履修登録(確認訂正を含む)		10月2日(月)～10月16日(月) Web入力	1・2年次学生は、Webで入力を行う。3年次以上の学生は、履修登録不要(教務係で一括登録する)	10月中旬
医学部・歯学部 合同慰霊祭		10月26日(木)		
研究テーマ選定会議 (大学院博士1年)		—	—	9月～10月
博士論文予備審査 (大学院博士4年)		—	—	10月
大学祭		11月3日(金・祝)～5日(日)		
臨床実習修了認定試験 (6年)		—	10月16日(月)～11月2日(木)	—
5年生登院資格発表		—	11月24日(金)予定	—
博士論文提出締切 (大学院修士2年・博士4年)		—	—	12月上旬
大学院入学試験(2次)		—	—	12月中旬
冬期休業		12月27日(水)～1月3日(水)	12月26日(火)～1月3日(水) (1年～4年)	—
2学期授業(冬期休業後)		1月4日(木)～2月2日(金)	1月4日(木)～2月2日(金) (1～4年)	1月～3月
大学入試センター試験 実施に伴う休講		1月12日(金)	—	—
補講及び試験		—	2月7日(水)～2月20日(火) (1年～4年)	—
学部入試(AO)		—	2月中旬予定	—
卒業・修了認定発表		—	2月15日(木)予定	—
学部入試(前期日程)		—	2月25日(日)・26日(月)	—
学期末休業		2月6日(火)～	2月21日(水)～(1～4年)	—
遺骨返還式		3月2日(金)		
進級判定発表		3月22日(木)予定		—
学位記授与式		—	3月27日(火)	—

※日程は、予定であり変更の場合もあるので注意すること。

平成29年度授業時間割表

前期

4月4日(火)～7月24日(月) 1, 2, 3, 4, 5年
4月4日(火)～7月21日(金) 6年

曜	学年(セメ)	1講時(8:50～10:20)	2講時(10:30～12:00)	3講時(13:00～14:30)	4講時(14:40～16:10)	5講時(16:20～17:50)
月	1(1)	歯学概論(A1講)		全学教育科目(Ⅲ内)		
	2(3)		全学教育科目(Ⅲ内)			
	3(5)	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)	感染と免疫(A3講) 菅原	歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講・B2実) 高田(雄)		
	4(7)	口腔保健発育学Ⅱ(B1講) 小関	口腔保健発育学Ⅱ(B1講) 小関	社会歯科学(B1講) 小関		
	5(9)		補講	口腔機能回復学ⅡB(B4講・B3実・B4実) 服部		
	6(11)		臨床実習B	臨床実習B		
火	1(1)		全学教育科目(Ⅲ内)	全学教育科目(Ⅲ内)		
	2(3)		全学教育科目(Ⅲ内)	人体の構造(B1講・B1実) 市川		
	3(5)	病理総論(B2講・B2実) 熊本	口腔の機能/生体の機能-応用(A1講) 戸田	口腔の機能/生体の機能-応用(A1講・A2実) 戸田		
	4(7)	口腔病態外科学Ⅲ(B1講) 高橋(哲)	口腔病態外科学Ⅲ(B1講) 高橋(哲)	口腔修復学ⅠB(B3講・B3実・B4実) 齋藤		
	5(9)	アドバンスⅡ・Ⅲ(再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ)(B3講・B2実) 笹野(泰), 鈴木		口腔修復学ⅠB(B3講・B3実・B4実) 齋藤		
	6(11)		臨床実習B	PBL(B2講)/補講等		
水	1(1)		全学教育科目(Ⅲ内)	全学教育科目(Ⅲ内)		
	2(3)	人体の構造(B1講・B1実) 市川		特別講義・補講等(B2講)		
	3(5)	病理総論(B2講・B2実) 熊本	口腔病理(B2講・B2実) 熊本	特別講義・補講等(B1講)		
	4(7)	特別講義・補講等(B3講)	口腔機能回復学Ⅲ(B3講・B3実・B4実) 根本	口腔機能回復学Ⅲ(B3講・B3実・B4実) 根本		
	5(9)	隣接医学(A1講)	隣接医学/PBL(A1講)	合同講義(A1講)/災害歯科医療学(A1講)/補講(A1講)/PBL/PBL/基礎研究実習		PBL
	6(11)		臨床実習B	臨床実習B		
木	1(1)		全学教育科目(Ⅲ内)	全学教育科目(Ⅲ内)		
	2(3)		全学教育科目(Ⅲ内)	全学教育科目(Ⅲ内)		
	3(5)	歯科生体材料の科学Ⅱ(B2講) 高田(雄)	くすりの科学(B2講) 若森	生体分子の科学Ⅱ(A3講・A3実) 高橋(信)		
	4(7)	特別講義・補講等(B1講)	口腔修復学Ⅱ(B4講) 江草	口腔修復学Ⅱ(B4講・B3実・B4実) 江草		
	5(9)	隣接医学(A1講)	隣接医学(A1講)	医の倫理・社会の倫理(B1講)/補講(B1講)/PBL/PBL/基礎研究実習		PBL
	6(11)		臨床実習B	臨床実習B		
金	1(1)		歯科臨床入門	全学教育科目(Ⅲ内)		
	2(3)	人体の細胞と組織/人体の発生(B1講・B2実) 笹野(泰)		人体の構造(B1講・B1実) 市川		
	3(5)	くすりの科学(B2講) 若森		感染と免疫(A3講) 菅原		
	4(7)	口腔保健発育学Ⅱ(A1講) 北浦, 猪狩		口腔機能回復学ⅠB(B3実・B4実) 佐々木		
	5(9)	口腔病態外科学ⅣB(A3講) 正木	アドバンスV(口腔病態科学Ⅱ)(A3講) 高橋(哲)	総合歯科学(B3講・B3実・総合歯科診療室) 菊池		
	6(11)		臨床実習B	臨床講義B(A1講)		

*5年次のPBLは「歯学基礎演習」と「歯学臨床ゼミ」の2科目を10週間(各5週)行う。時間割の詳細は授業計画参照のこと。

なお、終了後の5週は1コマを隣接医学に、残りの4コマを補講等に充てる。

*金曜日午後のB2講義室は、研修医の講義で使用する。ただし、試験期間にあたる8月以降はA3講義室を使用する。

*金曜日午後のB3講義室・B3実習室は、総合歯科学で使用しない日に口腔機能回復学ⅠBで使用する。

平成29年度授業時間割表

10月 2日(月)～ 2月2日(金) 1, 2, 3, 4年
 9月4日(月)～11月10日(金)
 11月27日(月)～12月25日(月) 5年
 (※臨床講義Aと臨床実習Aは11月下旬～)
 8月15日(火)～10月13日(金) 6年

後 期

曜	学年(セメ)	1講時(8:50～10:20)	2講時(10:30～12:00)	3講時(13:00～14:30)	4講時(14:40～16:10)
月	1(2)	全学教育科目(川内)			
	2(4)			生体の機能(A3講) 戸田	
	3(6)	感染と免疫(A3講・A3実) 菅原		口腔病理(B2講・B2実) 熊本	
	4(8)	口腔病態外科学II(B2講) 高橋(哲)	口腔修復学II(B4講・B3実・B4実) 江草	口腔修復学II(B4講・B3実・B4実) 江草	
	5(10)	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B
火	1(2)		全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	
	2(4)	口腔の細胞組織と発生(B2講・B2実) 笹野(泰)		生体分子の科学I(A3講・A3実) 高橋(信)	
	3(6)	口腔機能回復学IA(B4講・B4実) 佐々木		口腔修復学IA(B3講・B3実・B4実) 齋藤	
	4(8)	アドバンスIV(口腔病態科学I)(A1講・B3実) 高橋(信)	アドバンスI(生体材料学)(A1講) 高田(雄)	口腔病態外科学I(B2講・B2実) 笹野(高)	
	5(10)	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A	隣接医学(B1講)/基礎研究実習/臨床実習A
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B
水	1(2)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	
	2(4)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	
	3(6)	口腔修復学IA(B3講・B3実・B4実) 齋藤	口腔修復学III(B3講・B3実・B4実) 齋藤	口腔修復学III(B3講・B3実・B4実) 齋藤	
	4(8)	口腔病態外科学II(B2講) 高橋(哲)	口腔機能回復学IIA(B2講) 服部	特別講義・補講等(B2講)	
	5(10)	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	
木	1(2)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	
	2(4)	歯のかたち(B1講・B1実) 市川		歯科生体材料の科学I(B2講・B2実) 高田(雄)	
	3(6)	口腔保健発育学I(B2講・A2実) 小関		くすりの科学(A3講・A2実) 若森	
	4(8)	口腔保健発育学III(B3講・B3実・B4実) 福本		口腔保健発育学III(B3講・B3実・B4実) 北浦	
	5(10)	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床実習B	
金	1(2)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	全学教育科目(川内)	
	2(4)			人体の細胞と組織(B2講・B2実) 笹野(泰)	
	3(6)	口腔保健発育学I(B1講) 北浦、福本		特別講義・補講等(～11月B1講 12月～A1講)	
	4(8)	口腔病態外科学IVA(B2講) 正木	口腔病態外科学II・III(B2講) 高橋(哲)	口腔機能回復学IIA(B3実・B4実) 服部	
	5(10)	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	臨床シミュレーション実習(B3講・B3実)/基礎研究実習/臨床実習A	基礎研究実習/臨床実習A	
	6(12)	臨床実習B	臨床実習B	臨床講義B(A1講)	

*5年次臨床シミュレーション実習が実施されない時間は、基礎研究実習を実施する。
 *木曜日2年次開講の「歯のかたち」、「歯科生体材料の科学I」は時間を変更する場合がありますので、教員の指示に従うこと。
 *金曜日午後のA3講義室は、研修医の講義で使用。

5. 科目別教育目標及び授業計画

授業科目	開講 semester	時間数	授業細目	代表担当教員	頁	科目番号
歯学概論	1	30		学部長	9	DDE-DEN201J
歯科臨床入門	1	30		総括副院長	10	DDE-DEN202J
人体の構造	3	180	A. 人体解剖学総論(歯を含む) B. 体幹・体肢 C. 頭部・頸部(「歯のかたち」(4semester)内で実施する)	笹野 泰之	11	DDE-DEN211J
歯のかたち	4	60	各論(講義) 各論(実習)		14	DDE-DEN212J
人体の発生	3	30	人体の発生	笹野 泰之	15	DDE-DEN213J
人体の細胞と組織	3-4	30-60	講義(総論・各論) 実習		16	DDE-DEN214J
口腔の細胞組織と発生	4	60	講義 実習		18	DDE-DEN215J
生体分子の科学 I	4	60	生体構成分子の構造と機能 物質代謝 遺伝情報の発現と制御 遺伝情報の分子機構	高橋 信博	20	DDE-DEN216J
生体分子の科学 II	5	90	口腔構成分子の構造と機能 口腔エコシステムと口腔疾患 栄養生化学 生化学実習 口腔生化学実習		24	DDE-DEN221J
生体の機能	4	60	生理学の基礎 体液と血液の生理学 循環生理学 呼吸生理学 消化と吸収の生理学 神経生理学の基礎 自律神経生理学 筋生理学	戸田 孝史	29	DDE-DEN217J
口腔の機能	5	60	感覚生理学 口腔・顔面の感覚生理学 高次神経機能生理学 体温・排泄の生理学 運動生理学 下顎の運動生理学 内分泌・生殖・代謝生理学		37	DDE-DEN222J
生体の機能-応用	5	30	味覚閾値の測定 咀嚼能率の測定 血圧の計測 皮膚感覚点の計測 唾液分泌量の測定 誘発筋電図の記録 カエル坐骨神経活動電位の記録		44	DDE-DEN223J
歯科生体材料の科学 I	4	60	歯科生体材料科の基礎 歯科生体材料基礎実験	高田 雄京	45	DDE-DEN218J
歯科生体材料の科学 II	5	90	歯科生体材料の成形 歯科生体材料 歯科生体材料実習		47	DDE-DEN224J
くすりの科学	5-6	90-60	くすりの科学総論 神経系、循環器系、腎臓に作用する薬物 炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物 歯科臨床薬理学・硬組織薬理学 くすりの科学実習	若森 実	50	DDE-DEN225J

授業科目	開講 セメスター	時間数	授業細目	代表担当教員	頁	科目番号
感染と免疫	5-6	90-60	微生物学入門	菅原 俊二	55	DDE-DEN226J
			細菌学総論			
			細菌学各論			
			ウイルス学			
			免疫学			
			口腔感染症			
			微生物学・免疫学特論			
			細菌学実習			
口腔微生物学実習						
病理総論	5	60	病理総論	熊本 裕行	64	DDE-DEN227J
口腔病理	5-6	30-60	歯・歯周組織の病理 顎口腔の病理		65	DDE-DEN228J
口腔修復学 I A	6	90	保存修復学入門	齋藤 正寛	66	DDE-DEN301J
			保存修復学総論			
			保存修復学各論－審美修復			
			保存修復学各論－金属材料による修復 成形修復法実習			
口腔修復学 I B	7	60	メタルインレー修復法実習		69	DDE-DEN311J
口腔修復学 II	7-8	90-90	冠・橋義歯学総論	江草 宏	70	DDE-DEN312J
			クラウンブリッジの咬合, 診査・診断			
			歯冠修復治療の術式			
			審美的歯冠修復法			
			ブリッジ			
			冠橋義歯術前の診査・診断実習			
			5 全部鑄造冠実習			
			レジン前装冠の支台歯形成実習			
			鑄造による支台築造実習			
			臨床シミュレーション実習(支台歯形成)			
⑥5④ブリッジの支台歯形成実習						
暫間被覆冠実習						
口腔修復学 III	6	90	歯内治療学 歯内治療学実習およびアドバンス講義	齋藤 正寛	76	DDE-DEN302J
口腔機能回復学 I A	6	60	歯・周囲組織欠損による障害とその治療 欠損歯列の診査・診断と治療方針 可撤性部分床義歯補綴学	佐々木 啓一	78	DDE-DEN303J
口腔機能回復学 I B	7	60	可撤性部分床義歯治療学1 可撤性部分床義歯治療学2 可撤性部分床義歯治療学3		81	DDE-DEN313J
口腔機能回復学 II A	8	90	加齢歯科学総論 加齢歯科学各論 全部床義歯補綴学総論 全部床義歯補綴学各論 顎口腔機能回復学 全部床義歯補綴学実習1		服部 佳功	84
口腔機能回復学 II B	9	60	全部床義歯補綴学実習2 顎口腔機能回復学実習	88		DDE-DEN331J
口腔機能回復学 III	7	90	歯周病学 歯周病学実習・アドバンス講義	根本 英二	89	DDE-DEN315J
口腔保健発育学 I	6	60	環境学	小関 健由	91	DDE-DEN304J
			疫学・栄養学			
			社会衛生学 衛生学実習			
口腔保健発育学 I (口腔の発育)	20	40	小児の心身の発育	福本 敏	95	
			歯列・咬合の発育と発育障害 小児の齶蝕・歯周疾患			
口腔保健発育学 I (口腔の発育)	20	20	咬合形成に関わる生物学 顎・顔面・頭蓋部の成長発育	北浦 英樹	101	

授業科目	開講 semester	時間数	授業細目	代表担当教員	頁	科目番号
口腔保健発育学Ⅱ	7	60	歯口の健康	小関 健由	103	DDE-DEN316J
う蝕とその予防						
歯周疾患の予防と疫学						
歯科保健と社会						
口腔保健発育学Ⅱ (障害者歯科)	20	障害児・者の歯科治療	猪狩 和子	108		
口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正治療)	40	矯正歯科診断学 矯正歯科治療学 不正咬合	北浦 英樹	109		
口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の 理論と実践)	8	60	小児歯科疾患の予防法	福本 敏	113	DDE-DEN317J
小児歯科疾患の治療法						
咬合誘導						
小児期咬合管理の治療学実習						
口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・矯正歯科治療学実習)	60	矯正診断学実習(1)	北浦 英樹	117		
矯正診断学実習(2)						
矯正診断学実習(3)						
矯正治療学実習(1)						
矯正治療学実習(2)						
口腔病態外科学Ⅰ (口腔診断・放射線学)	8	60	放射線物理学 放射線生物学 画像診断学 画像診断学実習 口腔診断学	笹野 高嗣	122	DDE-DEN318J
口腔病態外科学Ⅱ	8	75	口腔顎顔面外科学概論 口腔顎顔面の変形(先天性・発達性・後天性) 口腔顎顔面の嚢胞・腫瘍・腫瘍様疾患 口腔顎顔面外傷・粘膜病変 口腔顎顔面の神経疾患・顎関節疾患 口腔顎顔面の機能的再建 顎顔面外科と行動科学 顎顎顔面外科学とリハビリテーション	高橋 哲	127	DDE-DEN319J
口腔病態外科学Ⅲ	7-8	60-15	口腔外科領域の先天的・後天的な各種疾患、臨床検査学 症候群、インプラント-口腔疾患と全身疾患 手術学総論・各論一偶発症		129	DDE-DEN320J
口腔病態外科学ⅣA	8	30	歯科麻酔学Ⅰ(臨床生理と麻酔・全身管理の基礎)	正木 英二	132	DDE-DEN321J
口腔病態外科学ⅣB	9	30	歯科麻酔学Ⅱ(麻酔・全身管理の臨床)		133	
社会歯科学	7	60	医の原則と社会との関わり 歯科の歴史と現在の医療 医療保障と歯科	小関 健由	134	DDE-DEN231J
隣接医学	9-10	100-80		医学系研究科教員	137	DDE-DEN333J
総合歯科学	9	60	態度・臨床技能実習(1) 態度・臨床技能実習(2)	菊池 雅彦	138	DDE-DEN334J
アドバンスⅠ(生体材料学)	8	30	生体材料学	高田 雄京	140	DDE-DEN801J
アドバンスⅡ(再生・創建医歯学Ⅰ)	9	30		笹野 泰之	141	DDE-DEN811J
アドバンスⅢ(再生・創建医歯学Ⅱ)	9	30		鈴木 治	141	DDE-DEN812J
アドバンスⅣ(口腔病態科学Ⅰ)	8	30	インバイティブ基礎歯学コース	高橋 信博	142	DDE-DEN813J
アドバンスⅤ(口腔病態科学Ⅱ)	9	30	口腔と全身	高橋 哲	143	DDE-DEN814J
アドバンスⅥ(口腔の生体防御)	9	30	口腔機能と生体防御 疾患と免疫			DDE-DEN802J
合同講義	9	90		五十嵐 薫	145	DDE-DEN815J
歯学基礎演習	9	50		笹野 泰之	147	DDE-DEN819J
歯学臨床ゼミ	9	50		服部 佳功	148	DDE-DEN818J
基礎研究実習	10	220		基礎系分野	149	DDE-DEN820J
臨床シミュレーション実習	10	100	アドバンスト・インレー修復法 画像診断学実習 歯科矯正学 歯科補綴治療の基礎	菊池 雅彦	151	DDE-DEN821J
臨床講義A	10	40	(臨床実習要項参照)	臨床実習総責任者	153	DDE-DEN401J
臨床講義B	11-12	60-40			154	DDE-DEN411J
臨床実習A	10	360			155	DDE-DEN402J
臨床実習B	11-12	540-360			156	DDE-DEN412J
歯学海外研修					157	DDE-DEN901J

授業科目	歯学概論		授業担当	○歯学部長 佐々木 啓一				
授業細目			責任者	歯学部教務委員長 若森 実				
曜日一時限	月-1・2	対象年次 学期	1年次 1セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN211	
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：導入科目として、新入生に将来の歯科医師として学ぶ自覚を持たせる。</p> <p>概要：東北大学歯学部・歯学研究科と病院および今後学ぶ基礎歯学と臨床歯学の概要を各分野の教員が紹介する。</p>							
学習の到達 目標	<p>一般目標：将来の歯科医師として学ぶ自覚を持つ。</p> <p>個別目標：</p> <p>(1) 東北大学歯学部・歯学研究科と病院の概要を学ぶ。</p> <p>(2) 基礎歯学科目の概要を学ぶ。</p> <p>(3) 臨床歯学科目の概要を学ぶ。</p>							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	歯学とは					佐々木啓一	
	2	これからの歯科医療					高橋 哲	
	3	口腔生態系という小宇宙					高橋 信博	
	4	痛みと神経					戸田 孝史	
	5	硬組織の生まれ方と治り方					笹野 泰之	
	6	歯・顎骨・顔面の欠損の病態と治療					佐々木啓一	
	7	歯科生体材料学					高田 雄京	
	8	次世代の保存修復治療 ～歯の再生医療～					齋藤 正寛	
	9	口の病気をいかに予防するか					小関 健由	
	10	歯科矯正治療					北浦 英樹	
	11	歯学（口腔科学）としての顎顔面・口腔外科学					高橋 哲	
	12	歯科口腔麻酔学					正木 英二	
	13	個人の尊厳と社会の安全を守る歯科法医学					鈴木 敏彦	
14	総合歯科診療学					菊池 雅彦		
アドバイス	・4月10日（月）～5月22日（月）の7週で実施する。（1週あたり2回実施。）必ず出席すること。講義の順番は変更になることもある。							
予習・復習	・復習を兼ねるレポートの提出を必須とする。							
テキスト・教材・参考書等	担当教員が適宜紹介する。							
成績評価の方法	出席及びレポート提出に基づいて教務委員会で判定する。							

授業科目	歯科臨床入門		授業担当	○高橋 哲 総括副病院長			
授業細目			責任者	服部 佳功			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	1年次 1 Semester	講義室名	各診療科	科目番号	DDE-DEN202J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科医師の業務を理解させ、歯科医師としての将来像の確立を促す。 概要：歯科医師の職責や基本的資質を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：歯科医師の職責を理解する。 個別目標：① 病院の機能を説明できる。 ② 歯科医師の職責を説明できる。 ③ 歯科医師に求められる基本的資質を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	オリエンテーション (6月5日(月) 10:30～ B1講義室で行う)					授業担当責任者
	2～7	<p>・6グループに分かれ、下記診療科を見学する。(6月9日(金)～7月14日(金)の6週。7月21日を予備日とする。)</p> <p>① 保存修復科/歯内歯周療法科 ② 咬合修復科/咬合回復科 ③ 顎口腔外科 ④ 総合歯科/口腔機能回復科・高齢者歯科治療部 ⑤ 小児歯科/障害者歯科/矯正歯科 ⑥ 予防歯科/口腔診断科</p>					各診療科部 授業担当者
アドバイス	<p>(1) 病院が病者のための場であることを理解すること。 (2) 清潔な白衣を着用し、身だしなみに気をつけること。 (2) 医療者にふさわしい立ち居振る舞いを心がけること。 (3) 開始時間を厳守し、決して遅刻しないこと。 (4) 小児抗体検査を受診すること。抗体がない場合、少なくとも麻疹のワクチンを接種しない限り、受講を認めない。</p>						
予習・復習	<p>アーリー・エクスポージャー型授業は、スタディプログラム型のそれと異なり、内容が事前に設定されていず、予習は不要である。学生は現場で、主体的に臨床の現実を感じ取るよう努めねばならない。また自己研鑽に向けた意欲や態度が歯科医師に求められる基本的資質の一つであることを意識し、現場で生じた疑問は、当日の質問や復習により自己解決することを望む。</p>						
テキスト・教材・参考書等	オリエンテーション時にシラバスを配布する。清潔な白衣を用意すること。						
成績評価の方法	担当教員の評価を集計して教務委員会で判定する。						

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之			
授業細目	A. 人体解剖学総論		責任者	口腔器官構造学分野			
曜日一時限	火-3・4 水-1・2 金-3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号	DDE-DEN211
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：献体制度や人体の基本構造について理解させる。</p> <p>概要：献体制度や人体の方向・部位について説明を受け、器官系の構成要素と器官の基本構造を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：人体解剖学における総論的内容を理解する。</p> <p>個別目標：① 献体制度の概要について説明できる。 ② 人体における方向用語や部位の用語を正しく用いることができる。 ③ 骨・筋・内臓・脈管・神経・感覚器の基本構造を概説できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～2	A-1 解剖学概説				市川 博之	
	3～12	A-2 骨学・筋学総論				鈴木 敏彦 佐藤 匡	
	13～19	A-3 内臓学総論				市川 博之	
	20～32	A-4 神経学（脳実習を含む）・脈管学総論				清水 良央	
	32～34	試験				教室員全員	
アドバイス	<p>「人体の構造」の全てに共通する留意事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 学習を進める上である程度の基礎的事項は記憶しなければならないが、教科書的な記述の全てを丸暗記するのではなく、目の前の実際の人体の姿を客観的に観察し、個体の構造や変異について理解することが肝要である。 ● 解剖学実習で用いるご遺体は、全て本人の生前の意思による献体である。医療従事者育成のために深い理解を示されたご本人と家族の期待に背かないよう、高い倫理観を持って実習に臨んでほしい。 						
予習・復習	<p>授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。人体に関する用語は多岐にわたり、その構造は複雑であるが多い。毎回の授業後の復習が必須である。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂 実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂</p>						
成績評価の方法	<p>筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。筆記試験は、①運動器 ②脈管・神経 ③内臓 ④体肢 ⑤体幹 ⑥ 頭頸部に分けて行う。</p>						

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之			
授業細目	B. 体幹・体肢		責任者	口腔器官構造学分野			
曜日一時限	火-3・4 水-1・2 金-3・4	対象年次 学期	2年次 3セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号	DDE-DEN211
授業の目的 と概要	目標と目的：体幹・体肢の構造について理解させる。 概要：体幹・体肢を構成する骨・筋・関節・内臓・脈管・神経の構造を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：人体を構成する骨・筋・臓器の基本構造を理解する。 個別目標：① 上肢・下肢の骨・筋・関節・脈管・神経について説明できる。 ② 体肢の骨・筋・関節・脈管・神経について説明できる。 ③ 胸部及び腹部内臓の名称と位置を説明できる。 ④ 頭蓋骨の形と構造とを説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～18	B-1 上肢				鈴木敏彦・佐藤匡 他 教室員全員	
	19～28	B-2 胸部及び腹部				佐藤匡 他 教室員全員	
	29～50	B-3 下肢				佐藤匡 他 教室員全員	
	51～56	B-4 頭部離断（頭蓋骨を含む）				佐藤匡 他 教室員全員	
アドバイス	「人体の構造」の全てに共通する留意事項： ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 学習を進める上である程度の基礎的事項は記憶しなければならないが、教科書的な記述の全てを丸暗記するのではなく、目の前の実際の人体の姿を客観的に観察し、個体の構造や変異について理解することが肝要である。 ● 解剖学実習で用いるご遺体は、全て本人の生前の意思による献体である。医療従事者育成のために深い理解を示されたご本人と家族の期待に背かないよう、高い倫理観を持って実習に臨んでほしい。						
予習・復習	授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。人体に関する用語は多岐にわたり、その構造は複雑であるが多い。毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂 実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂						
成績評価の方法	筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。筆記試験は、①運動器 ②脈管・神経 ③内臓 ④体肢 ⑤体幹 ⑥ 頭頸部に分けて行う。						

授業科目	人体の構造		授業担当	市川 博之			
授業細目	C. 頭部・頸部		責任者	口腔器官構造学分野			
曜日・時限	木-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号	DDE-DEN211
授業の目的 と概要	目標と目的：口腔を含む頭頸部の立体的構造と機能を理解させる。 概要：頭頸部を構成する骨・筋・関節・内臓・脈管・神経の構造を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔を含む頭頸部の立体的構造とそれらの機能を理解する。 個別目標：① 頭頸部の骨格筋・脈管・神経その他の構造物について説明できる。 ② 頭部と頸部との連絡を説明できる。 ③ 口腔の体表解剖学的構造を説明できる。 ④ 口腔粘膜の深部にある構造物とその位置関係を説明できる。 ⑤ 平衡聴覚器・視覚器の構造を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～2	C-1 顔面浅層				清水良央・佐藤匡 他 教室員全員	
	3～6	C-2 顔面深層				清水良央・佐藤匡 他 教室員全員	
	7～8	C-3 口腔・咽頭・喉頭・鼻腔				佐藤匡 他 教室員全員	
	9～10	C-4 平衡聴覚器				佐藤匡 他 教室員全員	
	11～12	C-5 視覚器・上顎洞				佐藤匡 他 教室員全員	
	13～14 15～16	C-6 特別講義 C-7 試験				非常勤講師 教室員全員	
アドバイス	「人体の構造」の全てに共通する留意事項： ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 学習を進める上である程度の基礎的事項は記憶しなければならないが、教科書的な記述の全てを丸暗記するのではなく、目の前の実際の人体の姿を客観的に観察し、個体の構造や変異について理解することが肝要である。 ● 解剖学実習で用いるご遺体は、全て本人の生前の意思による献体である。医療従事者育成のために深い理解を示されたご本人と家族の期待に背かないよう、高い倫理観を持って実習に臨んでほしい。						
予習・復習	授業や実習に使用する資料の一部は前日までに配布するので、予習を行うことが望ましい。人体に関する用語は多岐にわたり、その構造は複雑であるが多い。毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	参考書：伊藤 隆、解剖学講義、南山堂 実習書：浦良治：実習人体解剖図譜、南江堂						
成績評価の方法	筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。筆記試験は、①運動器 ②脈管・神経 ③内臓 ④体肢 ⑤体幹 ⑥ 頭頸部に分けて行う。						

授業科目	歯のかたち		授業担当	市川 博之			
授業細目	各論（講義・実習）		責任者	口腔器官構造学分野			
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	B1講義室 B1実習室	科目番号	DDE-DEN212
授業の目的 と概要	<p>目標と目的：歯のかたち・歯列・咬合について理解させる。 概要：それぞれの歯における構造の名称やかたち、歯列・咬合や、それらの変異を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：個々の歯の形態ならびに歯列、咬合について理解する。 個別目標：① 三表徴などに従って左右の歯を識別する方法を説明できる。 ② 全ての歯について、個々の歯の形態的特徴を説明できる。 ③ 歯列弓の湾曲について説明できる。 ④ 上下顎の歯の基本的対咬関係を説明できる。 ⑤ 前歯部および臼歯部の咬合様式を分類できる。 ⑥ 接触点および隣在歯間の空隙について説明できる。 ⑦ 主な歯や歯列の変異形態について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	歯の鑑別の手順、切歯				市川 博之 佐藤匡 他	
	3・4	犬歯				市川 博之 佐藤匡 他	
	5・6	小臼歯				市川 博之 佐藤匡 他	
	7～10	大臼歯				市川 博之 佐藤匡 他	
	11・12	乳歯				市川 博之 佐藤匡 他	
	13・14	歯列・咬合 ・歯の変異				市川 博之 佐藤匡 他	
	15	鑑別実習				市川 博之 佐藤匡 他	
アドバイス	歯科医療に携わるものにとって、歯の形態的特徴に基づいて個々の歯を鑑別できることは基本中の基本である。確実な学習を望む。						
予習・復習	授業や実習に使用する資料は、授業初日に配布するので、これを用いて予習を行うことが望ましい。歯に関する用語は数多く、その形も複雑で、個人差もある。毎回の授業後の復習が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	教科書は特に指定しない。随時、参考書等を紹介する。						
成績評価の方法	筆記試験および平常点（出席、実習態度等）による。						

授業科目	人体の発生		授業担当	笹野泰之			
授業細目	人体の発生		責任者	顎口腔形態創建学分野			
曜日一時限	金-1, 2	対象年次 学期	3 セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN213J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：個体の発生の仕組みと人体諸器官の発生を理解させる。 概要：各種疾患の病態を根本から理解するための礎として、人体と多細胞生物の発生を細胞や分子のレベルで学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：人体および多細胞生物の発生機構を理解する。 個別目標：① 個体発生と器官発生を概説できる。 ② 発生機構を細胞や分子のレベルで概説できる。 ③ 器官発生と先天異常を概説できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	導入 及び 概説					大隅典子 (医学系研究科)
	2, 3	発生学概要・モデル生物、 遺伝と遺伝子・発生研究技術					大隅典子 (医学系研究科)
	4, 5	細胞分裂、細胞分化					若松義雄 (医学系研究科)
	6, 7	初期発生 1, 2					若松義雄 (医学系研究科)
	8, 9	器官発生 1, 2					若松義雄 (医学系研究科)
	10, 11	脳の発生、顔面の発生、感覚器の発生					若松義雄 (医学系研究科)
	12, 13	神経堤細胞					大隅典子 (医学系研究科)
	14	幹細胞生物学					大隅典子 (医学系研究科)
	15	特別講義					外部講師
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校程度の生物学の知識があることが望ましい。全学教育科目「生命科学C 人体の構造と機能そして環境」「生命と自然 からだの生物学」等で学んだ内容を復習しておくこと。 ● 3セメスターで受講する「人体の細胞と組織 総論」での理解が重要となるので、「人体の発生」の授業開始前に十分に復習しておくこと。 ● 細かい単語の暗記は必要ないが、発生の仕組みを感覚的に理解してもらいたい。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織」の「総論」の復習が、「人体の発生」の予習に繋がる。 ● 授業の復習を欠かさないこと。 						
テキスト・教材・参考書等	「エッセンシャル発生生物学」Jonathan Slack 著、大隅典子訳 羊土社 「人体発生学」南山堂 「ラングマン人体発生学第10版」メディカル・サイエンス・インターナショナル						
成績評価の方法	筆記試験で評価する。再試験は1回に限って実施する。						

授業科目	人体の細胞と組織		授業担当	笹野泰之				
授業細目	A. 講義 (総論・各論)		責任者	顎口腔形態創建学分野				
曜日・時限	金-1,2 火-1,2 金-3,4	対象年次 学期	3セメスター 4セメスター	講義室名	B1講義室 B2講義室 B2実習室	科目番号	DDE-DEN214J	
授業の目標並びに目的と概要	<p>目標と目的：全身を構成する細胞と組織の形態と機能を理解させる。</p> <p>概要：総論で人体の基本単位である細胞と組織について学び、各論で細胞と組織がどのように器官を構築し人体を構成するのかについて学ぶ。</p>							
学習の到達目標	<p>一般目標：どのように細胞が組織を、また組織が器官を構築するのかを理解する。</p> <p>個別目標：① 細胞、組織、器官の関係が概説できる。 ② 細胞と組織の形態と機能の特徴が説明できる。 ③ 器官の全体像から微細構造までを役割をふまえて説明できる。</p>							
1 6 授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1、2	(総論) 細胞					笹野泰之	
	3	(総論) 上皮組織					笹野泰之	
	4	(総論) 結合組織					笹野泰之	
	5	(総論) 血液・骨髄					笹野泰之	
	6	(総論) 骨・軟骨組織					笹野泰之	
	7	(総論) 筋組織					笹野泰之	
	8、9	(総論) 神経組織 1、2					天野 修 (明海大学 歯学部)	
	10	(各論) 中枢神経					八木沼洋行 (福島県立医科大学 医学部)	
	11	(各論) リンパ組織					中村雅典 (昭和大学 歯学部)	
	12	(各論) 循環器系					笹野泰之	
	13	(各論) 皮膚					笹野泰之	
	14、15	(各論) 内分泌系 1、2					笹野泰之	
	16	(各論) 消化器系 1					牛木辰男 (新潟大学 医学部)	
	17、18	(各論) 消化器系 2、3					中村 恵	
	19	(各論) 呼吸器系					笹野泰之	
	20	(各論) 泌尿器系					中村 恵	
21、22	(各論) 男性生殖器系 1、2					笹野泰之		
23、24	(各論) 女性生殖器系 1、2					中村 恵		
25	(各論) 視覚器					中村 恵		
26	(各論) 平衡聴覚器					中村 恵		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 3セメスターに受講する「総論」での理解が特に重要となる。不明な点は教員に積極的に質問すること。基本となる「総論」の知識が身につけば、4セメスターに受講する「各論」の理解が深まる。 ● 「人体の細胞と組織 講義 (総論・各論)」は「人体の細胞と組織 実習」と関連させながら学習すること。 ● 「人体の細胞と組織」の理解には全身解剖学の知識が不可欠である。授業科目「人体の構造」をしっかり勉強すること。 							
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校程度の生物学の知識があることが望ましい。全学教育科目「生命科学C 人体の構造と機能そして環境」「生命と自然 からだの生物学」等で学んだ内容を復習しておくこと。 ● 下記で紹介するテキスト等を読み、予習、復習をすること。「入門組織学 改訂第2版」は細胞組織学のエッセンスが平易な言葉で説明されているので理解し易く、高等学校で生物学を大学受験科目として履修しなかった学生に特に薦めたい。 							
テキスト・教材・参考書等	<p>「入門組織学 改訂第2版」牛木辰男 (南江堂)</p> <p>「組織学」伊藤隆・阿部和厚 (南山堂)</p> <p>「標準組織学：総論・各論」藤田尚男・藤田恒夫 (医学書院)</p>							
成績評価の方法	<p>3セメスターと4セメスターのそれぞれの学期末で実施する試験の成績を総合して評価する。再試験は1回に限って実施する。「講義 (総論・各論)」と「実習」の両方の合格をもって、「人体の細胞と組織」の単位取得を認める。</p>							

授業科目	人体の細胞と組織		授業担当	笹野泰之				
授業細目	B. 実習		責任者	顎口腔形態創建学分野				
曜日・時限	金-1,2 火-1,2 金-3,4	対象年次 学期	3セメスター 4セメスター	講義室名	B2実習室	科目番号	DDE-DEN214J	
授業の目標並びに目的と概要	<p>目標と目的：全身を構成する細胞と組織の形態と機能を理解させる。</p> <p>概要：組織標本を肉眼と光学顕微鏡を通して観察し、組織構造を学ぶ。その際、顕微鏡像をスケッチし、自分の目で組織の特徴を捉え、所見をまとめる能力を養う。</p>							
学習の到達目標	<p>一般目標：どのように細胞が組織を、また組織が器官を構築するのかを理解する。</p> <p>個別目標：① 細胞、組織、器官の関係が概説できる。 ② 細胞と組織の形態と機能の特徴が説明できる。 ③ 細胞と組織の顕微鏡像の特徴が説明できる。</p>							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	光学顕微鏡の使用法					笹野泰之、中村 恵	
	2	上皮組織、結合組織					笹野泰之、中村 恵	
	3	血液・骨髄					笹野泰之、中村 恵	
	4	骨・軟骨組織					笹野泰之、中村 恵	
	5	筋組織					笹野泰之、中村 恵	
	6	神経組織、中枢神経					笹野泰之、中村 恵	
	7	リンパ組織					笹野泰之、中村 恵	
	8	循環器系					笹野泰之、中村 恵	
	9	皮膚					笹野泰之、中村 恵	
	10	内分泌系					笹野泰之、中村 恵	
	11~13	消化器系					笹野泰之、中村 恵	
	14	呼吸器系					笹野泰之、中村 恵	
	15	泌尿器系					笹野泰之、中村 恵	
	16	男性生殖器					笹野泰之、中村 恵	
	17	女性生殖器					笹野泰之、中村 恵	
	18	視覚器					笹野泰之、中村 恵	
	19	平衡聴覚器					笹野泰之、中村 恵	
	アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織 実習」の学習には「人体の細胞と組織 講義（総論・各論）」の理解が不可欠。 ● 学習範囲が膨大なので、講義と実習の両方に出席して地道に学習することが授業を理解する上で最も効果的。 ● 「An Atlas of Histology」を教科書として指定する。実習には必ず持って来ること。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎回「人体の細胞と組織 講義（総論・各論）」の予習をした上で講義に臨み、それに続く実習に取り組むこと。 ● 実習後に該当する「人体の細胞と組織 講義（総論・各論）」の復習をすると理解が深まり、効率的な学習となる。 							
テキスト・教材・参考書等	「An Atlas of Histology」Shu-Xin Zhang (Springer)							
成績評価の方法	実習試験で評価する。再試験は1回のみ実施する。実習への2/3以上の出席を「人体の細胞と組織」の単位取得要件とする。スケッチ提出を授業への取組みとして評価する。「講義（総論・各論）」と「実習」の両方の合格をもって、「人体の細胞と組織」の単位取得を認める。							

授業科目	口腔の細胞組織と発生		授業担当	笹野泰之			
授業細目	A. 講義		責任者	顎口腔形態創建学分野			
曜日-時限	火-1, 2 金-3, 4	対象年次 学期	4セメスター	講義室名	B2講義室 B2実習室	科目番号	DDE-DEN215J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口腔を構成する細胞と組織の形態と機能および発生を理解させる。併せて、口腔に関する導入科目として、将来の口腔医療の専門家として学ぶことを意識付ける。</p> <p>概要：構造・機能と発生を学ぶことを通して、人体における口腔細胞組織の特徴を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔がどのような細胞組織から構成され、また、どのように発生するのかを理解する。</p> <p>個別目標：① 細胞、組織、口腔諸器官の関係が概説できる。 ② 口腔の細胞と組織の形態、機能および発生の特徴が説明できる。 ③ 口腔諸器官の全体像から微細構造までを役割をふまえて説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1、2	口腔の細胞組織 総論				中村 恵	
	3、4	口腔の発生 総論				中村 恵	
	5	総論まとめ（学習到達度確認テスト等）				中村 恵	
	6、7	エナメル質・象牙質・歯髄 1、2				笹野泰之	
	8、9	セメント質・歯根膜・歯槽骨 1、2				笹野泰之	
	10、11	歯肉・口腔粘膜、舌、唾液腺 1、2				笹野泰之	
	12	顎関節				笹野泰之	
	13	顔面と口腔の発生				笹野泰之	
	14、15	歯の発生と成長 1、2				笹野泰之	
16、17	関連研究紹介				笹野泰之 中村 恵		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織」で習得する知識が必要である。特に3セメスターで受講する「総論」での理解が重要となるので、「口腔の細胞組織と発生」の授業開始前に十分に復習しておくこと。 ● 「口腔の細胞組織と発生 講義」は「口腔の細胞組織と発生 実習」と関連させながら学習すること。 ● わからない点は教員に積極的に質問すること。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織」の「総論」の復習が、「口腔の細胞組織と発生」の予習に繋がる。 ● 授業の復習を欠かさないこと。 						

授業科目	口腔の細胞組織と発生		授業担当	笹野泰之			
授業細目	B. 実習		責任者	顎口腔形態創建学分野			
曜日一時限	火-1, 2 金-3, 4	対象年次 学期	4 セメスター	講義室名	B 2 講義室 B 2 実習室	科目番号	DDE-DEN215J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口腔を構成する細胞と組織の形態と機能および発生を理解させる。 概要：組織標本を肉眼と光学顕微鏡を通して観察し、口腔の組織構造を学ぶ。その際、顕微鏡像をスケッチし、自分の目で組織の特徴を捉え、所見をまとめる能力を養う。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔がどのような細胞組織から構成され、また、どのように発生するのかを理解する。 個別目標：① 細胞、組織、口腔諸器官の関係が概説できる。 ② 口腔の細胞と組織の形態、機能および発生の特徴が説明できる。 ③ 口腔をつくる細胞組織の顕微鏡像の特徴が説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1、2	エナメル質・象牙質・歯髄 1、2				笹野泰之 中村 恵	
	3、4	セメント質・歯根膜・歯槽骨 1、2				笹野泰之 中村 恵	
	5、6	歯肉・口腔粘膜、舌、唾液腺 1、2				笹野泰之 中村 恵	
	7	顔面と口腔の発生				笹野泰之 中村 恵	
	8、9	歯の発生と成長 1、2				笹野泰之 中村 恵	
	10～13	実習総括				笹野泰之 中村 恵	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織」で習得する知識が必要である。特に3セメスターで受講する「総論」での理解が重要となるので、「口腔の細胞組織と発生」の授業開始前に十分に復習しておくこと。 ● 「口腔の細胞組織と発生 講義」と「口腔の細胞組織と発生 実習」と関連させながら学習すること。講義と実習の両方に出席して地道に学習することが授業を理解する上で最も効果的。 ● わからない点は教員に積極的に質問すること。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 「人体の細胞と組織」の「総論」の復習が、「口腔の細胞組織と発生」の予習に繋がる。 ● 実習後に該当する「口腔の細胞組織と発生 講義」の復習をすると理解が深まり、効率的な学習となる。 						
テキスト・教材・参考書等	「口腔組織・発生学」第2版 脇田、前田、中村、網塚 編（医歯薬出版） 「Oral Anatomy, Histology and Embryology 4 th Edition」Berkovitz, Holland, Moxham 編（Mosby, Elsevier）						
成績評価の方法	実習試験で評価する。再試験は1回のみ実施する。実習への2/3以上の出席を「人体の細胞と組織」の単位取得要件とする。スケッチ提出を授業への取組みとして評価する。「講義」と「実習」の両方の合格をもって、「口腔の細胞組織と発生」の単位取得を認める。						

授業科目	生体分子の科学 I (生体分子の構造と機能)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	生体構成分子の 構造と機能		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	私たちヒトをはじめ生物の身体を形作り存在ならしめる「生体構成分子」である核酸、タンパク質、糖質、脂質の構造を、分子レベルで学び、その分子構造から生体構成成分の機能を理解することを目標とする。なお、核酸の分子構造とその機能については授業細目「遺伝情報の発現と制御」で学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：生命を構成する基本物質について理解する。 個別目標：① アミノ酸とタンパク質の構造および機能について説明できる。 ② 糖質の構造および機能について説明できる。 ③ 脂質の構造および機能について説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	生化学序論：歴史と概要				高橋信博	
	2	タンパク質の構造				鷺尾純平	
	3	タンパク質の機能				鷺尾純平	
	4	糖質の構造				鷺尾純平	
	5	糖質の機能				鷺尾純平	
6	脂質の構造				鷺尾純平		
アドバイス	●具体的な授業日程については授業初回に周知する。 ●本授業内容の理解には、基本的な物理、化学、生物学の修得を必要とする。一見複雑な生体構成分子も、生体においては理にかなった構造をとっており、優れた機能を発揮している事実を理解したい。						
予習・復習	「一般医化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学 I (生体分子の構造と機能)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	物質代謝		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	私たちヒトをはじめ生物は生存に必要なエネルギーを「化学反応」によって得ている。この一連の化学反応を「物質代謝」あるいは「代謝」といい、代謝反応は「酵素」によって制御される。本授業では、エネルギー産生の仕組みと、主要なエネルギー産生基質である糖質と脂質の代謝過程、さらに、多様なアミノ酸代謝過程を理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：生命を構成する基本物質について理解する。 個別目標：① 生体内におけるエネルギー利用について説明できる。 ② アミノ酸とタンパク質の代謝について説明できる。 ③ 糖質の代謝について説明できる。 ④ 脂質の代謝について説明できる。 ⑤ 酵素の機能と主な代謝異常について説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	生体エネルギー論					高橋信博
	3・4	酵素と酵素反応論					高橋信博
	5・6	糖代謝経路					高橋信博
	7・8	電子伝達系と酸化的リン酸化					高橋信博
	9・10	糖質の代謝分解と合成および糖質代謝との相関					高橋信博
	11・12	タンパク質代謝と代謝回転					高橋信博
	13・14	アミノ酸の代謝分解と合成および代謝疾患					高橋信博
アドバイス	●本授業の理解には、基本的な物理、化学の知識を必要とする。一見複雑な代謝反応も物理、化学の原則に沿った巧妙な化学反応からなっており、生物とは効率の高いエネルギー機関であることを理解したい。						
予習・復習	「一般医化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学 I (生体分子の構造と機能)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	遺伝情報の発現 と制御		責任者	口腔生化学分野			
曜日・時限	火・3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	生物の特徴は、「物質・エネルギーの流れ」と「情報の流れ」を持つことである。情報の流れの中心となるものは遺伝子であり、その本態は「核酸（DNA）」である。本授業では、核酸の構造やゲノムという遺伝子の基礎に始まり、DNA複製、そして転写、翻訳といった、一連の遺伝情報が読みとられタンパク質として遺伝子情報が発現する過程を理解することを目標とする。さらに、近年長足の進歩が見られる遺伝子工学、遺伝子診断、遺伝子治療の基礎を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：遺伝子と遺伝について理解する。 個別目標：① 遺伝子（染色体）の構造とセントラルドグマについて説明できる。 ② DNAの複製と修復の機序について説明できる。 ③ 転写と転写調節の機序について説明できる。 ④ 翻訳の機序について説明できる。 ⑤ 遺伝性疾患の発生の機序について説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	核酸の構造、合成と分解				鷲尾純平	
	2・3	DNAの複製と修復				鷲尾純平	
	4・5	RNAの合成（原核細胞と真核細胞の転写）				鷲尾純平	
	6・7	タンパク質の合成（翻訳）				鷲尾純平	
	8	タンパク質の修飾と分泌				鷲尾純平	
	9・10	遺伝子工学・遺伝子診断・遺伝子治療				佐藤拓一 (新潟大学)	
アドバイス	●現代の最先端生命科学の1領域である遺伝子も、これまで学んできた生化学の知識から十分理解することが可能である。しかし、その理解には論理的思考力や洞察力が求められる。						
予習・復習	「一般医化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂） 参考書：ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	情報伝達の分子機構		責任者	口腔生化学分野			
曜日・時限	月—1 木—3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN216J
授業の目標 並びに目的 と概要	生物は、遺伝子という時空を越えた情報伝達に加え、短期間の情報伝達である細胞内、細胞間、そして組織・臓器間の情報伝達によって統合されている。本授業では、その機構と特徴を分子レベルで理解し、それが身体の分化・発育、外的刺激に対する恒常性維持等の多くの生命現象と関連していることを理解する。さらに、情報伝達の異常がその原因のひとつとなる癌について理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：細胞のコミュニケーションについて理解する。 個別目標：受容体を介するホルモン、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	情報伝達の基本システム				鷺尾純平	
	2	各種ホルモンの情報伝達システム				鷺尾純平	
	3	アポトーシス				鷺尾純平	
	4	サイトカインネットワーク				鷺尾純平	
	5・6	がんの生化学				本橋ほづみ (加齢医学研究所)	
アドバイス	●現在進展が著しい生化学の一領域である情報伝達機構も、これまで学んできた生化学の知識で理解することが可能である。しかし、情報伝達の統合的理解には組織・臓器に関する「解剖学」「組織学」「生理学」との知識の統合が必要である。						
予習・復習	「一般医化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	口腔構成分子の 構造と機能		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	月-1 木-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	本授業では、顎顔面口腔領域を形作る諸器官・組織の構造と機能を分子レベルで理解することを目的とする。とくに歯学の対象となる歯、歯周組織、口腔粘膜、顎骨・筋、唾液等を生化学的に学ぶことを通して、歯学学問領域の重要性とその特徴を学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔構成分子の構造と機能について理解する。 個別目標：① 血液循環について説明できる。 ② 赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能について説明できる。 ③ 腎臓と尿路の構造と機能について説明できる。 ④ 唾液の性状と役割について説明できる。 ⑤ 骨格筋の構造と機能について説明できる。 ⑥ 結合組織の線維要素と細胞要素について説明できる。 ⑦ 炎症に関与する細胞の種類と機能について説明できる。 ⑧ 硬組織石灰化の基本的機序について説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	全身と口腔組織の血液循環、血液成分、老廃物処理機構					高橋信博
	3	唾液					高橋信博
	4・5	筋と神経					高橋信博
	6	結合組織と歯周組織					高橋信博
	7	結合組織の代謝動態					高橋信博
	8	炎症反応					高橋信博
	9・10	歯と硬組織					高橋信博
	11・12	硬組織の代謝					高橋信博
アドバイス	●口腔の生化学を学ぶためには、これまでに学習した生化学一般の理解に加え、解剖学、組織学、生理学等、基礎系科目全般にわたる科目の理解が必要となる。これら基礎系科目で学習した内容の統合的理解によって、はじめて口腔を含めた生命体の理解が可能となる。						
予習・復習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーバー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信 博			
授業細目	口腔エコシステムと 口腔疾患		責 任 者	口腔生化学分野			
曜日-時限	月-1 木-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯学領域で頻繁に遭遇する疾患、う蝕と歯周病は、口腔全体を生態系として捉えることで理解が容易になる。本授業では、口腔全体をホスト（歯、粘膜、唾液等）とパラサイト（口腔共生微生物叢）からなる1つのエコシステム（生態系）として捉え、これら口腔疾患や口腔関連疾患の発症機序を理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔エコシステムと口腔疾患について理解する。 個別目標：① 口腔エコシステムについて説明できる。 ② 歯の硬組織の疾患、歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態について説明できる。 ③ 歯周疾患の病因と病態について説明できる。 ④ 他の口腔関連疾患について説明できる。						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔エコシステムと口腔周囲器官				高橋信博	
	2・3	う蝕				高橋信博	
	4・5	歯周病				真柳 弦	
	6～8	その他の口腔関連疾患（口臭症、顎顔面口腔領域感染症など）				鷺尾純平	
アドバイス	●具体的な授業日程については授業初回に周知する。 ●口腔を1つのエコシステム（生態系）として捉える考え方は新しく、今後の歯学の方向の1つと思われる。とりわけそのエコシステムの構成メンバーである莫大な数のパラサイト（口腔共生微生物叢）は、私たちホストと巧妙なバランスをとりながら共存しており、その理解は口腔のみならず全身の健康を考える上で重要である。						
予習・復習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	栄養生化学		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	月-1 木-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	ヒト体内で生じる物質代謝を健康科学から見れば、栄養学となる。私たちヒトは、「栄養」として口から物質を取り込み、そこからエネルギーと必要な物質を得ている。本授業では、三大栄養素とビタミン・ミネラルの役割を栄養生化学的に理解し、さらに口腔の健康に関わる食物について理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：三大栄養素とビタミン・ミネラルの役割を栄養生化学的に理解する。 個別目標：① 生体内におけるエネルギー利用について説明できる。 ② 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現すビタミン欠乏症とその症状について 列挙できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	全体代謝と栄養（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）				安彦友希	
	3・4	食事と口腔疾患				安彦友希	
アドバイス	●日常何気なく使っている「栄養」の意味を理解するためには、これまでに学んできた生化学の知識とその考え方が不可欠である。将来、臨床に関わるものの常識として栄養学を確実に修めて欲しい。さらに、食事と口腔疾患との関わりについて理解を深めて欲しい。						
予習・復習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版） 参考書：ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信 博			
授業細目	生化学実習		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	月-1 木-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	本実習は、生化学・分子生物学実験法の原理・手技を理解し、実践することを通して、実験科学の基礎を学ぶことを目標とする。さらに、得られた実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表する力を修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：生化学・分子生物学実験法の原理・手技について理解する。 個別目標：①生化学・分子生物学実験法の原理・手技について説明できる。 ②実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表することができる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	実習概論：生化学的研究の基礎理論				高橋信博	
	2・3	生化学実習機器概論：生化学実験機器の基礎原理				鷲尾純平 他	
	4・5	生化学実習Ⅰ：生体分子の分離定量法（比色法と分光スペクトラム）				鷲尾純平 他	
	6・7	生化学実習Ⅱ：生体分子の機能（タンパク質の酵素機能）				鷲尾純平 他	
	8・9	生化学実習Ⅲ：分子生物学（核酸抽出とPCR）				鷲尾純平 他	
アドバイス	●実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。						
予習・復習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：実習書 参考書：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体分子の科学Ⅱ (口腔エコシステムの科学)		授業担当	高橋 信博			
授業細目	口腔生化学実習		責任者	口腔生化学分野			
曜日-時限	月-1 木-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室 A3実習室	科目番号	DDE-DEN221J
授業の目標 並びに目的 と概要	本実習は、生化学実習での修得内容を応用し、口腔生化学、とりわけう蝕や歯周病といった口腔疾患に関する実習を行うことを通して、歯学研究の一端を体験し理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：口腔生化学に関する実験法の原理・手技について理解する。 個別目標：①口腔生化学に関する実験法の原理・手技について説明できる。 ②実験結果を論理的に考察し、再構成し、発表することができる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	口腔生化学実習Ⅰ：歯牙脱灰試験と無機質分析				鷲尾純平 他	
	3・4	口腔生化学実習Ⅱ：デンタルプラークの酸産生能				鷲尾純平 他	
	5・6	口腔生化学実習Ⅲ：唾液の機能（緩衝能と酸素活性）				鷲尾純平 他	
アドバイス	●実習では、個々人の取り組み方で得られるものが大きく異なる。自主的に実験し、考察し、発表することが重要である。また、実験を安全に成功させるためには、実験機器の取扱い等についての説明をよく聞き、十分理解しておくことが不可欠である。						
予習・復習	「一般医化学」および「口腔生化学」の該当箇所の通読を勧める。						
テキスト・教材・参考書等	テキスト：実習書 参考書：一般医化学（南山堂）、口腔生化学（医歯薬出版）、ビジュアル生化学・分子生物学（日本醫事新報社）、ヴォート生化学（東京化学同人）、ハーパー生化学（丸善）						
成績評価の方法	授業科目終了後の筆答試験によるが、講義への出席率を加味する場合がある。						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	生理学の基礎		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：生理学という学問分野の特徴を概観した上で、その基礎となる一般的な細胞生理学の知識を習得させる。</p> <p>概要：生理学の研究史に続いて、全ての細胞が共通して持っている機能について解説する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：生理学における総論的内容を理解する。</p> <p>個別目標：① 生理学という学問分野の特徴を簡単に説明できる。 ② 細胞内小器官の働きや細胞膜の一般的性質を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	生理学序論				若森 実	
	2	細胞内小器官の機能				福島 秀文	
	3	エネルギー代謝				福島 秀文	
アドバイス	<p>「生体の機能」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること（初回に進行表を配布する）。 ● 生理学は、生命が維持される“しくみ”の理解を目指す学問であり、分子レベルから器官レベル、さらには個体レベルの行動発現に至る、多岐にわたる内容を含んでいる。解剖学や生化学の知識も必要となる。高校理科3科目、すなわち、物理、化学、生物の全てが関係する分野でもある。必要に応じて、高校理科の教科書、参考書に遡って予習、復習すると、一見遠回りなようでかえって学習効率が向上する場合もある。授業の中で高校理科項目との関連について随時説明する。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(細胞の構造とはたらき、生命活動とエネルギー、など)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験（再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う）						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	体液と血液の生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：植物機能の基礎となる体液、血液のはたらきについて理解させる。 概要：体液、血液の構成要素(成分)とそのはたらきについて解説する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：体液や血液の機能を理解する。 個別目標：① 体液、血液の構成要素(成分)と、その役割について説明できる。 ② 体液、血液のイオン組成について説明できる。 ③ 止血過程や血液型について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	体液(細胞外液と細胞内液)				工藤 忠明	
	2	血液				工藤 忠明	
	3	リンパ液、脳脊髄液				工藤 忠明	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 本細目は生体内部の恒常性の維持(ホメオスタシス)を考える上で重要である。循環、呼吸、尿生成、消化、などの植物機能を学習する際の基礎となる。 ● 血液は、“流動性のある器官”と考えるべきものであり、多様な細胞や物質が含まれて循環している。体液は、血液との物質交換により恒常性が保たれている。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物体内の輸送系など)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	循環生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：循環機能における心臓と血管の役割について理解させる。 概要：心臓、血管系の構造を確認した後、それぞれの機能について解説する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：循環機能における心臓と血管の役割を理解する。 個別目標：① 心臓のポンプ作用を構造に基づいて説明できる。 ② 心臓の自動能を支える興奮伝導系について説明できる。 ③ 心筋活動電位の発生機序(分子機構)の特徴を説明できる。 ④ 心電図の基本原理解、心電図波形について説明できる。 ⑤ 血圧を決める因子、血圧調節のしくみについて説明できる。 ⑥ 循環調節に関与する神経系、ホルモンについて説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	血液循環、心機能、心電図				戸田 孝史	
	2	血管、血圧調節				戸田 孝史	
	3、4	循環調節、特殊部位の循環				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 心臓のポンプ作用を理解するためには、心臓の構造の理解が必須である。 ● 心筋活動電位の特徴を知るためには、神経や骨格筋の活動電位と比較してみるのがよい。波形の違い、イオン機構の違いに注目すること。 ● 心電図波形を理解するためには、心臓内部での興奮伝播の方向が時々刻々と変化する様子が立体的に頭の中に想起できるとよい。 ● 循環の維持においては、心臓のみならず血管系が極めて重要な役割を担っていることに留意すること。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物体内の輸送系など)、物理(流体の運動、力学的仕事、電気物理学)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	呼吸生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：呼吸機能の意義、呼吸運動やガス交換のしくみについて理解させる。 概要：呼吸器系の構造を確認した後、呼吸の4要素、すなわち、換気、分布、拡散、循環について順を追って解説し、最後に呼吸運動を調節するしくみについて説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：呼吸機能の意義、呼吸運動やガス交換のしくみについて理解する。 個別目標：① 呼吸運動を司る駆動系(神経、筋、肺、胸郭)について説明できる。 ② 肺気量分画、死腔量、肺胞換気量について説明できる。 ③ 肺胞気や血液中のガス組成(ガス分圧)について説明できる。 ④ 呼吸調節に関与する神経系について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	呼吸器、呼吸運動				戸田 孝史	
	2	肺胞換気、ガス交換				戸田 孝史	
	3	呼吸調節				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 健常者の安静呼吸時には、呼吸運動に使われるエネルギーが少なくすむようなしくみが備わっている。 ● 呼吸は、循環と密接な関連があることに注目する。呼吸運動に目が奪われがちであるが、ガス交換と血液循環が正常に機能して初めて呼吸が成立する。 ● 呼吸が生体内の恒常性の維持にどう関わっているか、を考える。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物体内の輸送系、動物の呼吸系など)、物理(流体の運動、力学的仕事)、化学(ガス分圧、緩衝系)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	消化と吸収の生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：消化管における消化、吸収のしくみについて理解させる。</p> <p>概要：消化管の構造を確認した後、消化管の運動や、各栄養素が消化される過程(消化酵素の役割を含む)について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：消化管における消化、吸収のしくみについて理解する。</p> <p>個別目標：① 消化管の神経系(腸管神経系と外来性自律神経系)について説明できる。 ② 消化管の運動について説明できる。 ③ 消化液(唾液含む)の分泌機序を説明できる。 ④ 唾液の役割を列挙して説明できる。 ⑤ 三大栄養素の消化、吸収過程と、それに関連する消化酵素を説明できる。 ⑥ 排便の神経・筋メカニズムを説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔内の消化と唾液				千葉 美麗	
	2	消化、吸収と排便				千葉 美麗	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 消化管機能の自律性、すなわち外来性神経の指令がなくともかなりのことができる、ということに注目する。 ● 消化には、管腔内消化と膜消化があることに留意する。 ● 消化管のタンパク質分解酵素では、管腔内に外分泌されて初めて活性化されるものが多い。その意義を考える。 ● 消化管ホルモンの内分泌と、消化液の外分泌を区別すること。 ● 排便には、体性神経と自律神経の両者が関与する。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物の栄養など)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	<p>筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)</p>						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	神経生理学の基礎		責任者	口腔生理学分野			
曜日・時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：神経細胞膜における興奮現象と神経細胞間の情報伝達について理解させる。 概要：細胞膜の基本的性質(膜を介するイオン等の移動)に引き続き、興奮性膜における活動電位の発生のしくみ、軸索における興奮伝導、シナプスにおける興奮伝達について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：神経細胞膜における興奮現象と神経細胞間の情報伝達について理解する。 個別目標：① 膜を介する電気化学的勾配、Nernst 式について説明できる。 ② 静止電位と、その発生機序を説明できる。 ③ 活動電位の時間経過と、そのイオン機構を説明できる。 ④ 代表的なイオンチャネルの構造と機能を説明できる。 ⑤ 神経軸索に沿った興奮伝導のしくみを説明できる。 ⑥ シナプスにおける情報の伝達とその統合のしくみについて説明できる。 ⑦ シナプス伝達の分子機構(伝達物質の受容体含む)について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	神経細胞膜の性質				若森 実	
	2	膜の興奮現象				若森 実	
	3	興奮の伝導				若森 実	
	4	興奮の伝達、神経回路				若森 実	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 生命維持の根幹に関わる重要細目であり、十分理解を深める必要がある。 ● 高校理科の電気物理(電流、電圧、抵抗、容量など)を復習しておくとうい。 ● 薬理学などで、薬物、毒物の作用機序を学習する際の基礎知識として役立つ。 						
予習・復習	予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物の神経系)や物理(電気物理)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	自律神経生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：生体内の恒常性を自動的に維持する神経系のしくみについて理解させる。</p> <p>概要：自律神経系の解剖学的な構成を確認した後、自律神経の遠心路と求心路の機能について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：生体内の恒常性を自動的に維持する神経系のしくみについて理解する。</p> <p>個別目標：① 自律神経系の構成について説明できる。 ② 二重神経支配と拮抗性支配について説明できる。 ③ ②の各器官への具体的作用について説明できる。 ④ ②があてはまらない器官について説明できる。 ⑤ 自律神経遠心路の神経伝達物質と受容体について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	交感神経系と副交感神経系				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 自律機能は、自律神経系と内分泌系が車の両輪のように担っているが、後者は「くすりの科学」の授業細目として実施される。 ● 交感、副交感神経の各器官への作用については、“交感神経はエネルギーを使って仕事をする方”、“副交感神経はエネルギーを蓄える方”と理解すると、各器官ごとに逐一記憶しないで済む。 ● 自律神経遠心路の神経伝達物質と受容体に関する知識は、各種薬物や毒物の作用機序を理解する際に必要となる。 ● 体性神経と自律神経が協調して実際の機能を担うことが少なくない(呼吸、体温調節、排尿や排便)。 						
予習・復習	予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物の神経系)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	筋生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN217J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：筋収縮の様式、収縮の分子機構について理解させる。 概要：まず骨格筋について説明を行う。筋の構造を確認した後、筋収縮の型の種類、収縮の分子機構について説明する。最後に、骨格筋、心筋、平滑筋の3者について、収縮機構などの違いについて説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：筋収縮の様式、収縮の分子機構について理解する。 個別目標：① 筋の線維構造(“入れ子構造”)と内部膜系の構造について説明できる。 ② 筋収縮の型(単収縮、強縮、等尺性、等張性収縮など)について説明できる。 ③ 筋収縮の分子機構と、筋節の“長さ-張力関係”について説明できる。 ④ 筋線維の構造と機能に基づく分類と、筋の疲労について説明できる。 ⑤ 筋紡錘の役割と、その感度を調節するしくみについて説明できる。 ⑥ 骨格筋、心筋、平滑筋の構造や機能の共通点、相違点について説明できる。</p>						
授業 計画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	筋の構造				戸田 孝史	
	2	筋収縮のメカニズム				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 生理学授業細目「神経生理学の基礎」と、解剖学の筋の構造の細目をよく復習しておくこと。筋収縮の分子機構の理解に必須である。 ● 骨格筋についてまず理解を深めた上で心筋や平滑筋をながめ、共通点、相違点を検討するとよい。 ● この細目で扱う筋の疲労とは、主観的な“疲労感”をいっているのではない。 ● 骨格筋には、筋紡錘という感覚受容器が備わっていることに注目する。 ● 平滑筋については、『ガイトン生理学』や『ポロン ブールペーパー生理学』が詳しく、図も充実している。原書の英文も非常に読みやすい。 ● 口腔生理学の咀嚼筋機能の理解に必須の細目である。 						
予習・復習	予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(生命活動とエネルギー(筋収縮))が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	感覚生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日・時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：感覚機能全般に通ずる事項と各種感覚機能の役割や機序について理解させる。 概要：感覚機能全般に共通する事項や心理物理学的法則を説明した後、各種感覚を受容する末梢機序や感覚情報処理の中枢機序について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：感覚機能全般に通ずる事項と各種感覚機能の役割や機序について理解する。 個別目標：① 感覚の種、閾値、心理物理学的法則について説明できる。 ② 各種感覚を受容する末梢機序(受容器など)や感覚情報処理の中枢機序について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	感覚総論				戸田 孝史	
	2	体性感覚				戸田 孝史	
	3	視覚				戸田 孝史	
	4	聴覚				戸田 孝史	
	5	前庭感覚				戸田 孝史	
アドバイス	<p>「口腔の機能」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本科目には全身生理学に関する細目も含まれている。授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること(初回に進行表を配布する)。 <p>細目「感覚生理学」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種感覚の受容機構について比較をし、類似点、相違点を検討するとよい。 ● 受容された感覚情報のごく一部が意識にのぼり知覚されることに注意する。また、物理化学的な刺激の強さと知覚の大きさとの関係は一定ではない。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	口腔・顔面の感覚生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日・時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的： 口腔機能に関連した感覚種の役割や受容機序について理解させる。 概要： 口腔感覚に関する総論的説明をした後、各種口腔感覚を受容する末梢機序や感覚情報処理の中枢機序について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標： 口腔機能に関連した感覚種の役割や受容のしくみについて理解する。 個別目標： ① 口腔体性感覚の特徴について説明できる。 ② 歯根膜感覚の受容機構について説明できる。 ③ 歯髄と象牙質の痛みの受容機構について説明できる。 ④ 痛みと鎮痛に関わる末梢・中枢機序を説明できる。 ⑤ 味覚・嗅覚に関わる末梢・中枢機序を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔感覚総論、歯根膜感覚				戸田 孝史	
	2	歯髄と象牙質の痛み				戸田 孝史	
	3	筋と顎関節の感覚				戸田 孝史	
	4	痛みと鎮痛				戸田 孝史	
	5・6	味覚・嗅覚				工藤 忠明	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 細目“感覚生理学”の体性感覚を復習しておくこと。 ● 歯髄や歯根膜と他の身体部位の体性感覚との類似点や相違点に注目する。 ● 化学感覚(味覚、嗅覚)の障害は食欲、延いては全身の健康状態にも影響を及ぼすため、その受容機構の理解は重要である。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	高次神経機能生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日・時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：高次脳機能とそれを支える脳部位について理解させる。</p> <p>概要：大脳皮質と脳幹との関係、脳波の成立機序、睡眠覚醒について説明する。さらに言語、学習、記憶について説明する。理解を深めてもらうため、随時、研究史にも言及する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：高次脳機能とそれを支える脳部位について理解する。</p> <p>個別目標：① 睡眠の分類と脳波との対応について説明できる。 ② 睡眠覚醒の発現に関与する脳部位について説明できる。 ③ 言語中枢に関する全体論、局在論、古典的言語野の位置を説明できる。 ④ 記憶の種類、記憶の記銘や保持に関連する脳部位を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	睡眠・覚醒、脳波				戸田 孝史	
	2	言語、脳機能の全体論と局在論				戸田 孝史	
	3	学習と記憶				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 知覚、認知、運動発現、高次脳機能などを司る大脳皮質は、脳幹からの入力があつて初めて賦活される。 ● 脳波とは何か、脳波で確実にわかることは何か、について正しい理解をする。 ● 言語機能に関する大脳皮質連合野(古典的言語野など)の位置を理解する上で、一次運動野、一次感覚野の位置がわかっている必要がある。 ● “学習と記憶”の項目は、生理学のテキストに加え、学習心理学や臨床医学分野の神経心理学のテキストを参照すると理解が深まる。 						
予習・復習	予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	体温・排泄の生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5 Semester	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：腎臓における尿生成、排尿と、体温調節のしくみについて理解させる。</p> <p>概要：腎臓の構造を確認した後、腎糸球体における濾過、尿細管での物質の再吸収や分泌、排尿の神経筋メカニズムについて説明する。体温調節では、体熱の産生・放散の末梢機序とそれを調節する中枢機序について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：腎臓における尿生成、排尿と、体温調節のしくみについて理解する。</p> <p>個別目標：① 腎血流の調節、腎糸球体における濾過について説明できる。 ② 腎尿細管の各部位における物質の再吸収と分泌を説明できる。 ③ 腎機能の調節(尿量の調節など)のしくみを説明できる。 ④ 排尿に関与する神経筋メカニズムを説明できる。 ⑤ 体温調節の末梢機序、中枢機序を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	腎臓の機能と排尿				若森 実	
	3	体温の調節機構				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 腎臓の構造に関する解剖学の細目を復習しておくこと。さらに、生理学「生体の機能」の“生理学の基礎”、“神経生理学の基礎”をよく復習し、拡散、浸透、濾過、ポンプ輸送などの物質の移動様式を再確認しておくことよい。 ● 体温調節では、「生体の機能」の“循環生理学”と“自律神経生理学”を復習しておくことよい。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(動物の恒常性の調節)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	運動生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：運動には様々な水準があること、さらにその発現を調節している脊髄や脳のしくみについて理解させる。</p> <p>概要：脊髄や脳の構成を確認した後、脊髄反射、姿勢の維持、リズム運動の発現、随意運動の企画と遂行について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：運動には様々な水準があること、さらにその発現を調節している脊髄や脳のしくみについて理解する。</p> <p>個別目標：① 脊髄反射(伸張反射、屈曲反射、交叉性伸張反射など)の神経回路と、それらの反射の機能的意義について説明できる。</p> <p>② 脳幹を介する姿勢維持に関係した反射について説明できる。</p> <p>③ 高次の運動中枢(一次運動野、運動前野、補足運動野)について説明できる。</p> <p>④ 運動調節における小脳、大脳基底核の役割を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	脊髄反射				戸田 孝史	
	2	姿勢の維持				戸田 孝史	
	3・4	随意運動				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 中枢神経系に関する解剖学の細目をよく復習しておくこと。 ● 脊髄反射弓は、少数のニューロンで構成される神経回路である。その学習を通して、反射にとどまらず一般的な神経回路の基本的性質について理解を深めると良い。 ● 高次の運動中枢(大脳皮質中枢)が複数あることの意義を考える。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。</p> <p>参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。</p> <p>参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	下顎の運動生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：顎、顔面、口腔領域で発現する運動の役割やその発現機序を理解させる。 概要：顎、顔面、口腔に関する筋や神経系の確認をした後、各運動の特徴やその発現機序について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：顎、顔面、口腔領域で発現する運動の役割やその発現機序を理解する。 個別目標：① 顎位、顎運動時の筋活動、運動の軌跡について説明できる。 ② 咀嚼運動時の顎運動パターン、咀嚼過程(咀嚼の各ステージ)、咀嚼運動の中枢リズム発生器について説明できる。 ③ 発声、吸啜、嘔吐に関わる神経・筋メカニズムについて説明できる。 ④ 嚥下の神経・筋メカニズムと誤嚥防止のしくみについて説明できる。</p>						
授 業 計 画	回 数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	顎運動、咀嚼運動				千葉 美麗	
	3・4	下顎反射				千葉 美麗	
	5・6	発声、吸啜(きゅうてつ)、嚥下(えんげ)、嘔吐(おうと)				千葉 美麗	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 解剖学の頭頸部の構造に関する細目と、生理学の細目、“運動生理学”をよく復習しておく必要がある。 ● 下顎反射(下顎張反射、開口反射)では、対応する脊髄反射が何であるかを考える。 ● 咀嚼運動や嚥下運動は随意的にも制御できるが、基本的な運動パターンは脳幹の神経回路網で形成、出力されることに注目する。 ● 誤嚥防止のしくみについてよく理解すること。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(外界の刺激と動物の反応、動物の行動)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	口腔の機能		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	内分泌・生殖・代謝生理学		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	火-2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN222J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：性腺と性ホルモン、女性の性周期や妊娠・分娩について理解させる。 概要：性腺、男性ホルモン、女性ホルモンについて説明した後、生殖細胞の形成、さらに、女性の性周期や妊娠時のホルモン分泌の変化について説明する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：性腺と性ホルモン、女性の性周期や妊娠・分娩について理解する。 個別目標：① 性腺の構造と男性ホルモン、女性ホルモンについて説明できる。 ② 生殖器の構造と機能、生殖細胞の形成過程について説明できる。 ③ 女性の性周期の背景にあるホルモン分泌の変化を説明できる。 ④ 妊娠時に胎盤から分泌されるホルモンの役割について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	生殖				工藤 忠明	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 内分泌(ホルモン)一般は、「くすりの科学」の細目として実施される。 ● 生殖器系の機能は内分泌系のホルモンのはたらきにより巧みに調節されていることに注目する。 ● 月経周期の各期と子宮内膜の変化、ホルモン分泌の変化の対応を理解する。 ● 妊娠期にのみ出現する胎盤は、“胎児の肺”であると同時に内分泌器官であることを理解する。 						
予習・復習	<p>予習を行うことが望ましい。毎回の授業後の復習は必須である。また、本細目の学習に必要な高校理科の関連事項として生物(個体の恒常性と調節、生殖細胞の形成と受精)が挙げられる。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>教科書：基礎歯科生理学(医歯薬出版)：全身生理学と口腔生理学の両者を一通りカバーしているが、内容をよく理解するためには他のテキストの参照が必要になることがある。 参考書：標準生理学(医学書院)：日本語で書かれた生理学テキストの中で最も詳しく書かれた本。折にふれて眺めてみるとよい。 参考書：人体の構造と機能(医学書院、マリーブ著)：看護学生向けのテキストであり、これだけでは不十分だが、人体機能の全体像を俯瞰する上では便利な好著かもしれない。図も絵本のように大きく見やすい。</p>						
成績評価の方法	筆記試験 (再試験は、必要と判断された場合に1回のみ行う)						

授業科目	生体の機能一応用		授業担当	戸田 孝史			
授業細目	生理学実験		責任者	口腔生理学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	3年次 5 Semester	講義室名	A1講義室 A2実習室	科目番号	DDE-DEN223J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：「生体の機能」と「口腔の機能」で学習した内容の一部について、実際に実験を行うことによって確認し、より深く生理学を理解させる。</p> <p>概要：各実習項目をローテーションですべて回り実習を行う。1週間後までに実習レポートを提出する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：「生体の機能」と「口腔の機能」で学習した内容の一部について、実際に実験を行うことによって確認し、より深く生理学を理解する。</p> <p>個別目標：① 各実習項目で行う実習内容について、各学生が説明でき実際に実験を行うことができる。</p> <p>② 座学で学習した知識を基に、実験データの解析や、結果の解釈を行うことができる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	味覚閾値の測定				分野全教員	
	3・4	誘発筋電図の記録				分野全教員	
	5・6	咀嚼効率測定				分野全教員	
	7・8	血圧測定				分野全教員	
	9・10	皮膚感覚点の計測				分野全教員	
	11・12	唾液分泌量の測定				分野全教員	
	13・14	カエル坐骨神経からの複合活動電位の記録				分野全教員	
	15	実習総括				戸田 孝史	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 各実習項目の担当教員から説明や注意を聞いた上で、あとは学生主体で積極的に取り組んでほしい。誘発筋電図の実習は、ヒト被験者の脛骨神経に電気刺激を加えるため慎重に行う必要があるが、内容をよく理解して実施する限り、極めて安全である。 ● 実習項目は変更される場合がある(実習開始に先立って進行表を配布する)。 ● 実験では、必ずしも座学の知識から予想される実験結果が得られるとは限らない。その違いの理由あるいは原因をよく考察してみる姿勢が大事である。 						
予習・復習	実習書などを事前によく読んでくることが望ましい。実習後のレポート作成を通して、座学で得られた知識を再確認すること。						
テキスト・教材・参考書等	<p>実習書(教員作成)</p> <p>基礎歯科生理学(医歯薬出版)</p> <p>生理学実習書(日本生理学会教育委員会監修、南江堂)</p>						
成績評価の方法	実習への参加とレポート(出席は3/4以上必要)						

授業科目	歯科生体材料の科学 I		授業担当	高田 雄京			
授業細目	歯科生体材料科の基礎		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日一時限	木-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスタ ー	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN218J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科治療で用いられる生体材料の構造と力学的、物理的、科学的、生物学的性質を学ぶ。						
学習の到達 目標	歯科治療で用いられる生体材料の構造と力学的、物理的、科学的、生物学的性質を理解し、説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	概 論					高田雄京
	3～6	機械的性質、レオロジー					高田雄京
	7～10	物理的性質、化学的性質、生物学的性質					高田雄京
	11～14	物質の構造、純物質と混合物の物理化学的性質					高田雄京
	15～20	金属材料、有機材料、無機材料					高田雄京
	21～24	複合材料・接着の基礎					高田雄京
	25・26	加工と熱処理					高田雄京
アドバイス	基礎教育科目の物理、化学、生物が基礎となっている。 10月～11月は1・2時限、12月以降は3・4時限に講義を行う。						
予習・復習	配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。演習問題等は必ず復習すること。						
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)、目で見る歯科理工学（医歯薬出版）等						
成績評価の方法	歯科生体材料の科学 I として一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）						

授業科目	歯科生体材料の科学 I		授業担当	高田 雄京			
授業細目	歯科生体材料基礎実験		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日・時限	木-3・4	対象年次 学期	2年次 4セメスタ ー	講義室名	B2実習室	科目番号	DDE-DEN218J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科生体材料の基礎的な性質を実験から学ぶ。						
学習到達目 標	実験を通して歯科生体材料の基礎的な性質を理解することができ、その成果を正しくレポートにまとめることができる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	引張試験				高田雄京、高橋正敏	
	3・4	合金の熱処理				高田雄京、高橋正敏	
アドバイス	実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。レポートを必ず提出すること。レポート未提出の場合も不合格となるので十分に注意すること。						
予習・復習	十分予習をしてから実験に臨むこと。実験・実習内容も定期試験に含まれているので、復習を兼ねてレポート作成に当たること。						
テキスト・教材・参考書等	実験テキストを配布する。現代歯科理工学(医歯薬出版)、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)						
成績評価の方法	歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験(再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。)						

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京			
授業細目	歯科生体材料の成形		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日一時限	月－3・4 木－1	対象年次 学期	3年次 5セメスタ ー	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN224J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科生体材料科学入門で学んだことを基礎に、歯科臨床における保存修復物、補綴物の形成加工法の理論と成型用材料の構造及び物性について学ぶ。						
学習到達目 標	歯科臨床における保存修復物、補綴物の形成加工法の理論と成型用材料の構造及び物性を理解し、説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	塑性加工、機械加工				高田雄京	
	3・4	鋳付・鋳造				高田雄京	
	5・6	印象用材料				高田雄京	
	7・8	石膏、模型材料				高田雄京	
	9・10	ワックス、原型材料				高田雄京	
	11・12	埋没材				高田雄京	
アドバイス	2年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっている。これを良く復習して理解し講義に臨むこと。						
予習・復習	配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。						
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等						
成績評価の方法	歯科生体材料の科学Ⅰとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）						

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京			
授業細目	歯科生体材料		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日一時限	月－3・4 木－1	対象年次 学期	3年次 5セメス ター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN224J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科生体材料科学入門で学んだことを基礎に、歯科臨床における保存修復物、補綴物などの歯科生体材料についての化学組成、特徴、物性、用途等を理論的に学ぶことを目的とする。						
学習到達目 標	歯科臨床における保存修復物、補綴物などの歯科生体材料についての化学組成、特徴、物性、用途等を理解し、臨床においてこれらの歯科生体材料を理論的に応用できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	成形歯冠修復用金属材料				高田雄京	
	3～6	修復・補綴用金属材料				高田雄京	
	7・8	修復・補綴用セラミックス				高田雄京	
	9～12	床用レジン				高田雄京	
	13・14	歯冠用レジン				高田雄京	
	15～17	コンポジットレジン				高田雄京	
	18・19	接着性レジン				高田雄京	
20・21	合着・充填材				高田雄京		
アドバイス	2年次の歯科生体材料の科学Ⅰが基礎となっている。これを良く復習して理解し講義に臨むこと。						
予習・復習	配布資料を事前に熟読し、参考書等で下調べをすること。また、講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめる習慣をつける。						
テキスト・教材・参考書等	現代歯科理工学（医歯薬出版）、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)、目で見える歯科理工学（医歯薬出版）等						
成績評価の方法	歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席率、筆記試験（再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。）						

授業科目	歯科生体材料の科学Ⅱ		授業担当	高田 雄京			
授業細目	歯科生体材料実習		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日一時限	月－3・4	対象年次 学期	3年次 5セメス ター	講義室名	B2実習室	科目番号	DDE-DEN224J
授業の目標 並びに目的 と概要	実験実習を通して、歯科臨床における保存修復物、補綴物など各種歯科生体材料を材料科学的に理解し、臨床応用できる基礎力を養う。						
学習到達目 標	歯科臨床における保存修復物、補綴物など各種歯科生体材料を実際に使用できる基礎的技術を身に付け、材料学的見地からその物性を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	石膏・接着材料				高田雄京、高橋正敏	
	3・4	合着・修復用材料				高田雄京、高橋正敏	
	5・6	埋没材				高田雄京、高橋正敏	
	7・8	印象材				高田雄京、高橋正敏	
	9・10	レジン				高田雄京、高橋正敏	
	11・12	鋳造				高田雄京、高橋正敏	
アドバイス	十分予習をしてから実験に臨むこと。実験は時間が延びることがあるので後の時間を空けておくこと。欠席が一回でもあると不合格となるので十分注意すること。						
予習・復習	十分予習をしてから実験に臨むこと。実験・実習内容も定期試験に含まれているので、復習を兼ねてレポート作成に当たること。						
テキスト・教材・参考書等	実験テキストを配布する。現代歯科理工学(医歯薬出版)、Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc)						
成績評価の方法	歯科生体材料の科学Ⅱとして一括で評価する。 レポート、出席、筆記試験(再試験は1度のみ。出席不足者には再試験受験資格を認めない。)						

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実			
授業細目	くすりの科学総論		責任者	歯科薬理学分野			
曜日-時限	木-2 金-1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：疾病の回復を促進する薬物の基本について理解させる。</p> <p>概要：くすりの歴史と薬理学の成立、薬物の適用法、薬物動態学、薬理作用を規定する要因、細胞内情報伝達系、薬物の連用と併用に関わる問題点、新薬の開発、薬物の有害性と安全性について学び、日本薬局方、薬事法、処方箋等について理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：薬理学における総論的内容を理解する。</p> <p>個別目標：① 薬理作用・作用機序の基本形式、薬理作用を規定する因子を説明できる。 ② 薬力学と薬物動態学の基本を概説できる。 ③ 薬物の連用と薬物の併用と相互作用を説明できる。 ④ 薬物の副作用・有害作用、医薬品適用上の注意を説明できる。 ⑤ 日本薬局方、薬事法を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～11	くすりの科学入門、薬理作用、用量と薬理作用、薬理作用機序、細胞内情報伝達系				若森 実、 野口 拓也	
	12～16	薬物の適用法、薬物動態学（薬物の吸収、分布、代謝、排泄（ADME））				若森 実	
	17～18	薬物の連用と薬物の併用と相互作用、薬力学				若森 実	
	19～20	薬物の副作用・有害作用、医薬品適用上の注意				若森 実	
	21～22	日本薬局方、薬事法、処方箋、ゲノム薬理学				若森 実	
アドバイス	<p>「くすりの科学」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学的知識、生理学的知識、生化学的知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。 						
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト：現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）</p> <p>参考書：イラストレイテッド薬理学 原書4版（Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey）、カッツング薬理学 原著10版（丸善）、New 薬理学改定第6版（田中・加藤編 南江堂）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics（Brunton編、McGraw-Hill）</p>						
成績評価の方法	筆記試験による（再試験は1回のみ）。						

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実			
授業細目	神経系、循環器系、腎臓、消化器系に作用する薬物		責任者	歯科薬理学分野			
曜日-時限	木-2 金-1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科医療を適切に行うために原因疾患に対応した薬物療法を理解させる。</p> <p>概要：化学的神経伝達物質、薬物受容体、細胞内情報伝達系等について理解した上で、末梢神経系に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、循環器系・呼吸器系・腎臓・消化器に作用する薬物、血液凝固に関わる薬物、ビタミン・ホルモン等の作用と作用機序、臨床応用について理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：各種疾患に対する薬物療法を理解する。</p> <p>個別目標：① 各種疾患の病因と病態を説明できる。 ② 各種疾患に用いる薬物とその作用機序を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～3	末梢神経系に作用する薬物（自律神経系に作用する薬物、神経筋接合部に作用する薬物）				若森 実	
	4～13	中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬・鎮静薬、麻薬性鎮痛薬、向精神薬、抗てんかん薬、中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬、脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬）				若森 実、 兼松 隆	
	14～18	循環器系・呼吸器系に作用する薬物、体液調節に関わる薬物、救急用薬剤				柳澤 輝行、 若森 実	
	19	止血薬、抗凝血薬				中村 卓史	
	20	消化器系に作用する薬物				千葉 美麗	
	21～22	ホルモンおよびホルモン拮抗薬				工藤 忠明	
アドバイス	<p>「くすりの科学」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学的知識、生理学的知識、生化学的知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。 						
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト：現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）</p> <p>参考書：イラストレイテッド薬理学 原書4版（Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey）、カッツング薬理学 原著10版（丸善）、New 薬理学改定第6版（田中・加藤編 南江堂）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics（Brunton 編、McGraw-Hill）</p>						
成績評価の方法	筆記試験による（再試験は1回のみ）。						

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実			
授業細目	炎症と感染、悪性腫瘍に用いる薬物		責任者	歯科薬理学分野			
曜日-時限	木-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：顎口腔領域の疾患に対応した薬物療法を理解させる。</p> <p>概要：腫瘍・炎症・痛み・発熱・アレルギーの発生機序について学び、化学療法薬、抗悪性腫瘍薬、ステロイド性・非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬、消毒薬、抗生物質、抗ウイルス薬、局所麻酔薬等の薬理作用、作用機序、臨床的用途について理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：上記疾患に対する薬物療法を理解する。</p> <p>個別目標：① 各種疾患の病因と病態を説明できる。 ② 各種疾患に用いる薬物とその作用機序を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～3	抗炎症薬および解熱鎮痛薬				中村 卓史	
	4	局所麻酔薬				中村 卓史	
	5～8	抗感染薬				吉田 卓史	
	9	免疫薬理学（免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬）				吉田 卓史	
	10～11	抗悪性腫瘍薬				中村 卓史	
	12	唾液腺に作用する薬物				中村 卓史	
	13	局所的抗感染薬（消毒薬）				中村 卓史	
アドバイス	<p>「くすりの科学」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学的知識、生理学的知識、生化学的知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。 						
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト：現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）</p> <p>参考書：イラストレイテッド薬理学 原書4版（Richard Finkel、Luigi X. Cubeddu、Michelle A. Clark、Richard A. Harvey）、カッツング薬理学 原著10版（丸善）、New 薬理学改定第6版（田中・加藤編 南江堂）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics（Brunton編、McGraw-Hill）</p>						
成績評価の方法	筆記試験による（再試験は1回のみ）。						

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実			
授業細目	硬組織薬理学 歯科臨床薬理学		責任者	歯科薬理学分野			
曜日・時限	木-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科医療を適切に行うために原因疾患に対応した薬物療法を理解させる。 概要：齲蝕予防薬、根管治療薬、歯周病治療薬、カルシウム調節ホルモン、骨粗鬆症治療薬、骨代謝に影響を与える薬物・ホルモン・成長因子等の作用、作用機序について理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：齲蝕予防・根管治療・歯周病治療時の薬物療法を理解させる。 個別目標：① 齲蝕予防に用いる薬物について説明できる。 ② 歯髄保存療法に用いる薬物について説明できる。 ③ 感染根管治療に用いる薬物について説明できる。 ④ 歯周疾患治療に用いる薬物について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	齲蝕予防薬・硬組織薬理学				中村 卓史	
	3	歯周病治療薬				中村 卓史	
	4	根管治療薬				中村 卓史	
	5・6	臨床薬理学（1）				梶岡 俊一	
	7・8	臨床薬理学（2）				原田 伸透	
アドバイス	<p>「くすりの科学」の全てに共通する留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業はシラバスの順序通りに行われるわけではないので注意すること。 ● 一般目標と個別目標は上の指定領域に書き切れないので、授業中に追加する。 ● 薬物の作用機序の理解には、既に学んだ解剖学的知識、生理学的知識、生化学的知識が必須である。 ● 薬物数は膨大であり丸暗記は非効率的である。薬物は構造や作用機序により分類されており、常に全体の中でのその薬物の位置付けを確認する必要がある。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 予習として解剖学、生理学、生化学の関連領域の知識を整理しておくこと。 ● 毎回の授業後の復習が必須である。 						
テキスト・教材・参考書等	<p>テキスト：現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版） 参考書：Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)、分子骨代謝学と骨粗鬆症（松本編、メディカルトリビューン社）、ビスホスホネートと骨疾患（Fleisch 著、森井監修、篠田・稲葉訳、医薬ジャーナル社）</p>						
成績評価の方法	筆記試験による（再試験は1回のみ）。						

授業科目	くすりの科学		授業担当	若森 実			
授業細目	くすりの科学実習		責任者	歯科薬理学分野			
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A2実習室	科目番号	DDE-DEN225J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：薬理作用機序を理解させる。 概要：各種薬物の薬理作用の発現を、動物実験を通して自分の目で観察し、その結果をまとめ考察する訓練を行う。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：薬理作用機序を理解する。 個別目標：① 動物実験における3Rを説明できる。 ② 実験動物を正しく取り扱うことができる。 ③ 薬理作用機序を説明できる。 ④ 実験ノートを正確に過不足なく記載、実験結果を正しく解析できる。 ⑤ 実験結果から結論に至るまで深く考察する習慣を身に付ける。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	実験動物の扱い方と薬物投与法（全身麻酔薬の効果）				教員全員	
	3・4	薬物の協力作用と拮抗作用（唾液分泌に影響を与える薬物）				教員全員	
	5・6	止血作用				教員全員	
	7・8	フッ化物の作用、消毒薬の効果				教員全員	
アドバイス	<p>薬理学における動物実験の重要性を理解する。 実験の目的を事前に十分に理解し実験を実施すること。 実験に際しては観察を丁寧に行い、記録することを心がける。 予期に反した結果を得た場合でも、その結果をありのまま受け止め考察する態度が必要である。</p>						
予習・復習	<p>薬理学実習用プリントは前日までに配布するので、必ず該当する項目をテキストや参考書で予習を行うこと。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>薬理学実習用プリント、薬理学実習書（松本・千葉・松本編、学建書院）、動物実験の手技手法（緒方監修、井上・松本編、共立出版）、現代歯科薬理学第5版（加藤・篠田監修、医歯薬出版）、Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (Brunton 編、McGraw-Hill)</p>						
成績評価の方法	<p>レポート、期末の筆記試験の一部として出題する（再試験は1回のみ）</p>						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	微生物学入門		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：現代の医療における微生物学の位置づけと概要を把握し、病原微生物学の歴史を理解させる。</p> <p>概要：微生物学の対象となる微生物の分類法、構造、生態ならびに性状に関して全体像を概観する。病原微生物学の歴史を通して、宿主-微生物関係・感染症の変遷について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：微生物学における概論を理解する。</p> <p>個別目標：① 微生物（細菌、真菌、ウイルス、原虫）を分類し、概説できる。 ② 病原微生物学の歴史を概説できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	微生物の世界				菅原俊二	
	3・4	病原微生物学の歴史				菅原俊二	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。						
予習・復習	高等学校の生物学に関して予め復習しておくことが望ましい。さらに下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法	筆記試験（5セメ）と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	細菌学総論		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：細菌の生態、共生・寄生関係および感染症予防を理解させる。 概要：細菌の自然界の中での生態、細菌の構造・機能、増殖・代謝、病原因子および細菌感染機構・感染予防法について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：細菌の生態、病原性および化学療法に関する微生物学を理解する。 個別目標：① 細菌の構造・機能、増殖・代謝、病原因子について、自然界での生態と宿主の中での病原性について説明できる。 ② 化学療法の定義、化学療法薬、薬剤耐性、歯科診療に際して留意すべき感染症、標準予防策、滅菌と消毒、細菌感染機構について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	細菌の構造と機能				多田浩之	
	3・4	細菌の増殖と代謝				多田浩之	
	5・6	細菌の遺伝/バクテリオファージ				多田浩之	
	7・8	細菌毒素（内毒素/外毒素）				菅原俊二	
	9・10	化学療法/院内感染対策/滅菌・消毒				多田浩之	
	11・12	細菌感染機構/感染症対策				多田浩之	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。						
予習・復習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。なお、細菌学各論における各種の病原微生物を理解するためにも、本講義を復習しておく必要がある。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法	筆記試験（5セメ）と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	細菌学各論 (含真菌学)		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ヒトに関連する代表的な病原微生物と感染症の特徴を理解させる。</p> <p>概要：臨床で一般的に見られる細菌・真菌による感染症に関連する微生物の性状・発症機序・病因について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：代表的な病原微生物と感染症の特徴を理解する。</p> <p>個別目標：①代表的な病原細菌（グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌）の性状・発症機序・病因について説明できる。</p> <p>②真菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマの性状・発症機序・病因ならびに一般的な細菌との相違について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	グラム陽性球菌（レンサ球菌、ブドウ球菌）				多田浩之	
	3・4	グラム陽性桿菌（ジフテリア菌、リステリア菌、バシラス属、クロストリジウム属、抗酸菌）				多田浩之	
	5・6	グラム陰性球菌（ナイセリア属、モクラセラ属） グラム陰性桿菌（腸内細菌科、ビブリオ科、らせん状桿菌、緑膿菌、百日咳菌、レジオネラ属、ブルセラ属、パスツレラ属）				多田浩之	
	7・8	真菌				多田浩之	
	9・10	スピロヘータ・リケッチア・クラミジア・マイコプラズマ				多田浩之	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。						
予習・復習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。なお、個々の病原微生物の理解には、細菌学総論の理解が必須である。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等						
成績評価の方法	筆記試験（5セメ）と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	ウイルス学		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ウイルスの性状およびウイルス感染症の特徴を理解させる。</p> <p>概要：医療従事者として必須のウイルス学の基本的な知識を身につけ、実際の臨床で遭遇する可能性があるウイルス感染症について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：ウイルスの性状およびウイルス感染症を理解する。</p> <p>個別目標：① ウイルスの生物学的特徴を説明できる。 ② ウイルスの構造を説明できる。 ③ ウイルスの増殖方法を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	ウイルス学総論				古瀬祐気 (医学系研究科)	
	3・4	ウイルス学各論 (RNAウイルス)				古瀬祐気 (医学系研究科)	
	5・6	ウイルス学各論 (DNAウイルス)				古瀬祐気 (医学系研究科)	
アドバイス	講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。						
予習・復習	下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後には配布資料を中心とした復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等	口腔微生物学・免疫学 (医歯薬出版)、戸田新細菌学 (南山堂) 等						
成績評価の方法	筆記試験 (5セメ) と出席により総合的に評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	免疫学		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日一時限	月-2 金-3・4	対象年次 学期	3年次 5・6セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：免疫学は生命科学の中で医学・歯学と密接に関わる領域である。免疫は病原微生物・抗原から宿主を防御する生体防御機構であることを理解させる。</p> <p>概要：免疫の根幹を成す免疫機構（自然免疫応答、抗原認識、獲得免疫応答）を中心に、最新の知見も含めて学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：免疫学における宿主の防御機構について理解する。</p> <p>個別目標：① 免疫の基本原則（抗原特異性・多様性・自己寛容・免疫記憶）を説明できる。 ② 免疫担当細胞の分類、役割について説明できる。 ③ 抗原認識の機序について説明できる。 ④ 自然免疫応答、獲得免疫応答の機序について説明できる。 ⑤ 過敏症・自己免疫疾患・移植免疫について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	免疫学概論				菅原俊二	
	3・4	免疫担当細胞				菅原俊二	
	5・6	自然免疫・補体				菅原俊二	
	7・8	抗原認識				菅原俊二	
	9・10	液性免疫				菅原俊二	
	11・12	細胞性免疫				菅原俊二	
	13～18	過敏症・自己免疫疾患・移植免疫・粘膜免疫・ワクチン				菅原俊二	
アドバイス	<p>講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。免疫学は多くの専門用語があることから教科書・プリントの暗記で対応する学生が多いが、免疫学の基本原理を理解し、免疫系を体系的に把握することが望ましい。</p>						
予習・復習	<p>高等学校の生物学に関して予め復習しておくことが望ましい。さらに下記テキスト等を予習した上で講義に臨み、毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>エッセンシャル免疫学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、免疫生物学（南江堂）、戸田新細菌学（南山堂）等</p>						
成績評価の方法	<p>筆記試験（6セメ）と出席により総合的に評価する。</p>						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	口腔感染症		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: う蝕と歯周病に関連する細菌の性状およびう蝕と歯周病の特徴について理解させる。</p> <p>概要: う蝕と歯周病は口腔の二大感染症である。う蝕と歯周病に関わる病原細菌の性状、病像・予防法について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 口腔細菌学におけるう蝕と歯周病に関わる細菌について理解する。</p> <p>個別目標: ① 口腔細菌叢の生態について説明できる。 ② う蝕に関わる細菌の性状、病像・予防について説明できる。 ③ 歯周病に関わる細菌の性状、病像・予防について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	口腔細菌叢				多田浩之	
	3・4	う蝕の細菌学・免疫学				多田浩之	
	5・6	歯周病、歯内疾患の細菌学・免疫学				多田浩之	
	7・8	口腔微生物と全身疾患				多田浩之	
アドバイス	<p>講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。</p>						
予習・復習	<p>細菌学総論の内容を再確認し、さらに下記テキスト等を予習した上で講義に臨むこと。毎回受講後にはテキストと配布資料を中心とした復習が必要である。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>口腔微生物学・免疫学（医歯薬出版）、戸田新細菌学（南山堂）等</p>						
成績評価の方法	<p>筆記試験（6セメ）と出席により総合的に評価する。</p>						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	微生物学・免疫学特論		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3講義室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：生体防御免疫に関する先端研究について理解させる。</p> <p>概要：生体防御機構の解明には多年にわたる医学・歯学研究の発展による貢献があるが、今なお多くの未解明な科学的課題があり、大学院ではその課題解決のため先端的研究が進められていることを学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：生体防御免疫に関する先端研究を学習し、微生物学・免疫学研究の重要性を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	疾患モデルと生体防御機構				石井直人 (医学系研究科)	
	3・4	粘膜での生体防御				野地智法 (農学研究科)	
	5	がんに対する生体防御				犬塚博之 (先端再生医学研究センター)	
	6	骨免疫学				福島秀文 (先端再生医学研究センター)	
アドバイス	微生物学・免疫学分野における先端研究に触れることで、これまで学んだ微生物学・免疫学と関連させて学習することで理解を深めて欲しい。						
予習・復習	受講に際して、これまで受けた講義の内容を再確認しておくこと。さらに、毎回受講後には、テキストと配布資料を中心とした復習が必要である。						
テキスト・教材・参考書等	資料を配布する。						
成績評価の方法	出席とレポートで評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	細菌学実習		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	集中実習	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3実習室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：細菌学研究の基本的な手技について理解させる。</p> <p>概要：細菌を扱うための基本的な手技および細菌を観察するための培養法・染色法について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：細菌を扱うための基本操作を理解する。</p> <p>個別目標：① 白金耳を用いた火炎滅菌法を修得する。 ② 細菌の接種法・培養法を修得する。 ③ グラム染色法を修得する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～4	グラム染色法				多田浩之 黒石智誠	
アドバイス	細菌を扱うための基本手技とグラム染色法は、細菌学研究の重要な基本手技となるため必ず出席すること。本実習では病原細菌を取り扱うため、実習前の説明をよく聞いた上で実習に臨んで欲しい。また、実習で得られた実験結果を考察してレポートを作成する過程で、科学論文における論理的思考を学んで欲しい。						
予習・復習	これまで学習した細菌学総論・各論の理解なくしては、実りある実習とならないため、実習前に細菌学の総復習を行っておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	実習書ならびに資料を配布する。						
成績評価の方法	出席とレポートに加えて、筆記試験（6セメ）により評価する。						

授業科目	感染と免疫		授業担当	菅原 俊二			
授業細目	口腔細菌学実習		責任者	口腔分子制御学分野			
曜日-時限	集中実習	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	A3実習室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口腔の病原細菌の性状について理解させる。</p> <p>概要：う蝕と歯周病に関連する病原細菌を培養・観察し、実験を通して性状を確認することで病原性について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔の病原細菌の性状を理解する。</p> <p>個別目標：① う蝕と歯周病に関連する病原細菌の性状（グラム染色性、形態、配列、大きさ、コロニー性状）、培養法を説明できる。</p> <p>② う蝕に関連する病原細菌の酸産生能、多糖形成能について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	口腔内細菌の培養				多田浩之 黒石智誠	
	3・4	口腔内細菌の観察（グラム染色）				多田浩之 黒石智誠	
	5・6	口腔内細菌の性状（糖分解能、多糖産生能）				多田浩之 黒石智誠	
	7・8	歯周病関連細菌の観察（グラム染色）				多田浩之 黒石智誠	
アドバイス	<p>実習は各回の連続した実験で構成されるため、毎回の出席が必須である。</p> <p>実習で得られた実験結果を元にレポートを作成するため、確実に実験結果を記録しておくこと。</p>						
予習・復習	<p>口腔微生物学におけるう蝕と歯周病の病原細菌について、形態、配列、グラム染色性に関する総復習を実習前にしておくことが望ましい。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>実習書ならびに資料を配布する。</p>						
成績評価の方法	<p>出席とレポートに加えて、筆記試験（6セメ）により評価する。</p>						

授業科目	病理総論		授業担当	熊本 裕行			
授業細目	病理総論		責任者	口腔病理学分野			
曜日-時限	火-1 水-1・2	対象年次 学期	3年次 5セメスター	講義室名	B1講義室 B2実習室	科目番号	DDE-DEN227J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：疾病についての基本的な考え方を修得する。また、講義で得た基本的な知識を顕微鏡実習により確認する。</p> <p>概要：病理学総論に関する講義と実習。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：疾病についての基本的な考え方が理解できる。また、顕微鏡像でそれを説明できる。</p> <p>個別目標：多彩な疾病について、系統的に理解・説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	概論				熊本 裕行	
	2～8	先天異常・代謝障害・修復・循環障害				清水 良央 八重樫 弘	
	9～15	炎症・腫瘍				安藤 紀昭 熊本 裕行	
	16～23	実習（先天異常・代謝障害・修復・循環障害）				及川 麻理子 清水 良央	
	24～30	実習（炎症・腫瘍）				清水 良央 及川 麻理子	
アドバイス	疾病は生体の構成要素に起こる異常であるので、正常の人体の構造・機能の理解が不可欠である。						
予習・復習	講義内容については参考書などを参照して復習する必要がある。実習については予め資料を配付してあるのでその予習が不可欠である。また、バーチャルスライドシステムによる復習を推奨する。						
テキスト・教材・参考書等	<p>わかりやすい病理学（恒吉正澄ほか）南江堂</p> <p>標準病理学（北川昌伸ほか）医学書院</p> <p>Pathologic Basis of Disease (Kumar V ほか) Saunders</p>						
成績評価の方法	試験						

授業科目	口腔病理		授業担当	熊本 裕行			
授業細目	歯・歯周組織の病理 顎口腔の病理		責任者	口腔病理学分野			
曜日一時限	水-1・2 (5セメ) 月-3・4 (6セメ)	対象年次 学期	3年次 5・6セメスター	講義室名	B1講義室 B2実習室	科目番号	DDE-DEN226J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：顎口腔領域の硬・軟組織に発症する多彩な疾病についての基本的な考え方を修得する。また、顕微鏡実習によりこれらの理解を深める。</p> <p>概要：口腔病理学に関する講義と実習。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：顎口腔領域の硬・軟組織に発症する多彩な疾病について理解できる。また、顕微鏡像でそれを説明できる。</p> <p>個別目標：顎口腔領域の疾病について、系統的に理解・説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1-10	歯・歯周組織の病理				熊本 裕行	
	11-20	顎口腔の病理				小野寺 健 安藤 紀昭 君 賢司 及川 麻理子 清水 良央 熊本 裕行	
	21-40	実習（歯・歯周組織の病理、顎口腔の病理）				及川 麻理子 清水 良央	
	41-45	口腔病理学特論				浅井 澄人 室野井 基夫	
アドバイス	顎口腔領域には特異的な疾病も多く、その正常構造や発生の理解および総論的な疾病の理解が不可欠である。						
予習・復習	講義内容については参考書などを参照して復習する必要がある。実習については予め資料を配付してあるのでその予習が不可欠である。また、バーチャルシステムによる復習を推奨する。						
テキスト・教材・参考書等	新口腔病理学（下野正基ほか）医歯薬出版 Oral and Maxillofacial Pathology (Neville BW ほか) Saunders Oral Pathology (Regezi JA ほか) Saunders						
成績評価の方法	試験						

授業科目	口腔修復学 I A		授業担当	齋藤 正寛			
授業細目	保存修復学概論		責任者	歯科保存学分野			
曜日・時限	水-1 火-3~ 4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN301J
授業の目標 並びに目的 と概要	保存修復学の目的、理念、修復に必要な総括的事項： 歯の硬組織疾病の種類と病因、歯髄保存療法、病態の把握に関する基礎知識を習得する						
学習の到達 目標	一般目標：保存修復学における総論的内容を理解する。 個別目標：① 硬組織疾患を説明できる。 ② 窩洞形成の基本概念を説明できる。 ③ 歯髄温存療法を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1	イントロダクション：硬組織疾患治療技術として保存修復学の目的と切削の基本理念					齋藤 正寛
	2	硬組織疾患：う蝕の種類、成因、診査診断、病理、治療について					〃
	3	治療姿勢、医療面接、検査方法					〃
	4	切削の講義、窩洞形成の基本概念					〃
	5	：歯髄保存療法：歯髄-象牙質複合体の再生に関する基礎知識と保存治療技術について					半田 慶介
	6	特別講義					特別講師
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業を理解するためには、生化学、細胞生物学、理工学を中心とする基礎医科歯学を元に保存修復学の臨床基礎を理解する。 ● 授業への出席者のみに資料を配布する。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯科保存学分野研究室に質問に来るように。 						
予習・復習	保存修復学の幅広い学問内容について理解を深めるためには、下記テキスト等による授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、配布資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	教材として毎回プリントを配布する。 第4版 保存修復学21 (永末書店) 第4版 歯内療法学 (医歯薬出版)						
成績評価の方法	出席状況および定期試験結果を総合評価する。筆記試験は、総論および各論を併せて行う。						

授業科目	口腔修復学 I A		授業担当	齋藤 正寛			
授業細目	保存修復学各論		責任者	歯科保存学分野			
曜日・時限	水-1	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN301J
授業の目標 並びに目的 と概要	保存修復学の目的、理念、修復に必要な総括的事項： 歯の硬組織疾病の種類と病因、歯髄保存療法、病態の把握、再生医療の基礎知識を習得する						
学習の到達 目標	一般目標：直接修復と間接修復の基本的な知識を理解する。 個別目標：① 接着歯学を説明出来る。 ② コンポジットレジン修復、グラスアイオノマー修復の手技を説明出来る。 ③ 各種インレーの特徴及び手技を説明出来る。 ④ 審美修復、漂白、minimum intervention の基本知識と手技を説明出来る。 ⑤ 再生医療の概念を説明出来る。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	直接修復、コンポジットレジンの基礎					齋藤 正寛
	3・4	直接修復：コンポジットレジン手技					〃
	5・6	直接修復の窩洞形成用具、窩洞形態と形成法、					〃
	7・8	直接修復：コンポジットレジン修復：コンポジットレジン 修復歴史、MMA、化学重合、適応症、術式					〃
	9	グラスアイオノマー修復の基礎					〃
	10・11	間接修復：メタルインレー、コンポジットレジンインレー、 ポーセレンインレーの特色、製作法、術式					〃
	12	補修修復、審美修復、漂白、ベニア、					〃
	13, 14	再生医療の基本概念、特別講義					特別講師
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 生化学、細胞生物学、理工学を中心とする基礎医科歯学を元に保存修復学の臨床基礎を理解する。 ● 授業への出席者のみに資料を配布する。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯科保存学分野研究室に質問に来るように。 						
予習・復習	保存修復学の幅広い学問内容について理解を深めるためには、下記テキスト等による授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、配布資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	教材として毎回プリントを配布する。 第4版 保存修復学 21 (永末書店、2011) 第4版 歯内療法学 (医歯薬出版 2012)						
成績評価の方法	出席状況および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔修復学ⅠA		授業担当	齋藤 正寛 ○ 石河 真幸 歯科保存学分野			
授業細目	成形修復法実習		責任者				
曜日・時限	火-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室 B3・4実 習室	科目番号	DDE-DEN301J
授業の目標並び に目的と概要	基本的な歯髄保存療法、成形修復症例をシミュレートし、治療姿勢、器材の使用法を修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：保存修復学における成形充填の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① 成形充填の各過程における基本的手技ができる。 ② う蝕除去の基本的手技ができる。 ③ 覆髄の基本的手技ができる。						
	回数	授業内容				担当者	
	1~4	Orientation, 器材配布：治療姿勢、器材の使用法、メンテナ ンス等歯牙植立：人工歯牙植立				石河 真幸 他	
	5・6	う蝕除去、覆髄、成形充填の基本				"	
	7~10	窩洞形成、切削技術習得				"	
	11・12	窩洞形成、成形修復実習1： 1級コンポジットレジン窩洞形成、充填、研磨				"	
	13・14	窩洞形成、成形修復実習2： 3級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨				"	
	15・16	窩洞形成、成形修復実習3： 4級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨				"	
	17・18	窩洞形成、成形修復実習4：5級、WSD コンポジットレジン 窩洞形成、充填、研磨				"	
	19・20	ガラスイオノマーセメント修復				"	
	21	窩洞形成、成形修復実習5： 2級コンポジットレジン窩洞形成、隔壁装着、充填、研磨				"	
	22	成形修復窩洞形成実技および筆記試験				"	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は、講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をし、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。 ● 授業期間中、実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C棟8階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには、配布実習書および下記テキスト等による予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、毎回の実習では担当ライターによる試問が行われる。十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。						
テキスト・教材・参考書等	独自の実習書 第4版 保存修復学21（永末書店） 第4版 歯内療法学（医歯薬出版）						
成績評価の方法	出席状況、実習プロダクト、筆記試験および実技試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔修復学 I B		授業担当	齋藤 正寛 ○ 石河 真幸 歯科保存学分野			
授業細目	メタルインレー修復法実習		責任者				
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室 B3・4実 習室	科目番号	DDE-DEN311J
授業の目標 並びに目的 と概要	間接修復法を理解するため、コンポジットレジンインレー修復法を修得する。また Minimum Intervention 法、レーザーによる切削技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：保存修復学における間接修復法, の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① コンポジットレジンインレーの各過程における基本的手技ができる。 ② Minimal Intervention 修復の基本的手技ができる。 ③ レーザーによる切削の基本的手技ができる。						
	回数	授 業 内 容					担当者
	1~4	1級メタルインレー窩洞形成法					石河 真幸 他
	5~8	2級メタルインレー窩洞形成法					〃
	9~12	コンポジットレジンインレー修復法:2級MOコンポジットレジンインレー窩洞形成、テンポラリーインレー製作、印象・咬合採得、模型製作、咬合器装着、コンポジットレジンインレー作製、調整、研磨、セメント合着					〃
	13~14	コンポジットレジンインレー修復法実技および筆記試験					〃
	15~16	顕微鏡を用いた Minimal Intervention 修復					〃
	17~18	レーザーによる硬組織、軟組織の切削					特別講師
	19~20	パネルディスカッション					齋藤 正寛 他
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は、講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をし、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。 ● 授業期間中、実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C棟8階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには、配布実習書および下記テキスト等による予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、毎回の実習では担当ライターによる試問が行われる。十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。						
テキスト・教材・参考書等	独自の実習書 第4版 保存修復学21（永末書店、2011） 第4版 歯内療法学（医歯薬出版 2012）						
成績評価の方法	出席状況、実習プロダクト、筆記試験および実技試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏			
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 総論		責任者	分子・再生歯科補綴学分野			
曜日一時限	木一 2・3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B4講義室	科目 番号	DDE-DEN312
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：クラウンブリッジ補綴学における総論的内容を理解する。 概要：クラウンブリッジ補綴学の概論について説明を受け、クラウンブリッジ治療に必要な診察・検査・診断・治療計画・前処置の一連の流れを学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：クラウンブリッジ補綴学の意義・重要性およびクラウンブリッジ治療の診察から前処置までの流れを理解する。 個別目標：① クラウンブリッジ補綴学の目的を説明できる。 ② クラウンブリッジの要件、種類を説明できる。 ③ クラウンブリッジ補綴治療の診察から前処置までの流れを説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	クラウンブリッジ補綴学概説				江草 宏	
	2	クラウンブリッジの種類				江草 宏	
	3	診察, 検査				江草 宏	
	4	診断, 治療計画				江草 宏	
	5	補綴前処置				山田将博	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 本授業科目では、クラウンブリッジ補綴学を「これ以上歯質や歯の欠損を拡大しないための固定性補綴の学問」としてとらえ、講義内容（総論と各論）が実習と連動する形で行われる。 ● 授業前に各自が分野HPから講義資料をダウンロードし、講義に臨むこと。 ● 授業には必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	クラウンブリッジ補綴学の幅広い内容について理解を深めるためには、下記テキストによる授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、講義資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編）末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014						
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当 責任者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野				
授業細目	クラウンブリッジ補綴学各論							
曜日・時限	木-2 月-2	対象年次 学期	4年次 7 Semester 8 Semester	講義室名	B4講義室	科目 番号	DDE-DEN312J	
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：クラウンブリッジ治療の一連の流れを、生物学的、材料学的、審美的な観点から理解する。</p> <p>概要：クラウンブリッジ治療の各ステップについて、講義あるいはアクティブ・ラーニングを介してその臨床的意義を学ぶ。</p>							
学習の到達 目標	<p>一般目標：クラウンブリッジ治療の各過程および一連の流れを、クラウンブリッジの要件と関係づけて理解する。</p> <p>個別目標：① クラウンブリッジ治療および技工の各過程を説明できる。 ② クラウンブリッジ治療の一連の流れを説明できる。 ③ クラウンブリッジ治療について生物学観点から説明できる。 ④ クラウンブリッジ治療について材料学的な観点から説明できる。 ⑤ クラウンブリッジ治療について審美的な観点から説明できる。</p>							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	支台築造					山田将博	
	2	支台歯形成・プロビジョナルレストレーション					奥山弥生	
	3	印象採得，印象採得物の消毒					江草 宏	
	4	咬合採得					江草 宏	
	5	作業用模型，ワックスパターン形成					山田将博	
	6	埋没，鑄造，研磨					山田将博	
	7	試適，合着，術後管理					鎌野優弥	
	8	歯科金属・材料アレルギー					高 永和 (大阪府開業)	
	9・10	レジン前装冠，陶材焼付冠（アクティブ・ラーニング）					山田将博 江草 宏	
	11・12	オールセラミッククラウン，コンポジットレジンクラウン，ポーセレンラミネートベニア（アクティブ・ラーニング）					三浦賞子 江草 宏	
	13	ブリッジ概説					新部邦透	
	14	ブリッジによる補綴処置（ろう付け，連結法を含む）					新部邦透	
	アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 本授業科目では、クラウンブリッジ補綴学を「これ以上歯質や歯の欠損を拡大しないための固定性補綴の学問」としてとらえ、講義内容が実習と連動する形で行われる。 ● 授業前に各自が分野HPから講義資料をダウンロードし、講義に臨むこと。 ● 授業には必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● アクティブ・ラーニング形式の授業では、ディベート、グループ・ディスカッション、グループ・ワークへの積極的な参加を心がけ、討議ができるよう準備をして授業に臨むこと。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	クラウンブリッジ補綴学の幅広い内容について理解を深めるためには、下記テキストによる授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、講義資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。							
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編）末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014							
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。							

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏			
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 先端技術論		責任者	分子・再生歯科補綴学分野			
曜日一時限	月一 2・3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B4講義室 B3実習室	科目 番号	DDE-DEN312
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：自分の目指す歯科医師を想像するために、クラウンブリッジ補綴学を例に先端の歯科医療技術・研究を知ること、歯科医師の多様なニーズおよびチャンスを意識する。</p> <p>概要：クラウンブリッジ治療の先端技術および研究について、講義あるいはPBLを介してその基礎知識を学び、得た知識を参考に自分の目指す歯科医師を想像する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：自分の目指す歯科医師を想像するために、先端のクラウンブリッジ治療および近未来の歯科医療の動向を理解し、歯科医師という職業のやりがいと魅力を考察する。</p> <p>個別目標：① デジタルデンティストリーの現状を説明できる。 ② MI（ミニマルインターベンション）および歯周病の観点から、接着技術、短縮歯列、インプラント治療を説明できる。 ③ 再生医療を固定性補綴治療と関連して説明できる ④ 先端歯科医療技術や近未来の歯科医療の動向について資料を収集できる。 ⑤ 収集した資料をもとに自分にとって理想的な歯科医師像を考察し、その内容について討議できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	デジタルデンティストリー（CAD/CAMテクノロジー）					馬場一美 （昭和大学）
	2	接着技術と固定性補綴治療					矢谷博文 （大阪大学）
	3	歯周病と固定性補綴処置、短縮歯列					菅野太郎
	4	口腔インプラント支台装置による補綴処置					山田将博
	5	再生医療の固定性補綴治療への展開					江草 宏
	6	PBL：概略説明・予習課題提示					江草 宏
	7・8	PBL：グループ分け、予習課題ディベート、発表課題提示					江草 宏、他
	9・10	PBL：発表課題グループ討論、ポスター作成					江草 宏、他
11・12	PBL：ポスター発表・討論、ピア評価					江草 宏、他	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 本授業では、先端のクラウンブリッジ治療および開発技術を学ぶことで、これからの社会における固定性補綴治療のニーズおよび自分の将来の歯科医師像を考えていく。午前中の講義内容を参考に、午後からは与えられたテーマにグループで取り組む。 ● グループ作業をはじめ、授業への能動的な参加を求める。積極的な討議ができるよう、準備をして授業に臨むこと。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	予習・復習には、下記テキストに加え、図書館、インターネット、フィールドワークから得られる情報を活用すること。						
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編）末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014						
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当 責任者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野			
授業細目	クラウンブリッジ補綴学実習1						
曜日一時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目 番号	DDE-DEN312
授業の目標並びに目的と概要	<p>目標と目的：全部鑄造冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通して全部鑄造冠による歯冠修復治療の術式および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。</p>						
学習の到達目標	<p>一般目標：全部鑄造冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① 全部鑄造冠治療の基本的な手技を具体的に述べるができる。 ② 全部鑄造冠作製の基本的な技工操作を具体的に述べるができる。 ③ 下顎大臼歯の解剖学的な歯冠形態をワックスパターンで説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	実習概説					江草 宏, 山田将博
	2	概形印象採得, 研究用模型作成					山田将博, 石橋 実, 他
	3~6	全部鑄造冠支台歯形成					山田将博, 石橋 実, 他
	7	個人トレー作製					山田将博, 石橋 実, 他
	8・9	精密印象採得(シリコンラバー印象)					山田将博, 石橋 実, 他
	10	精密印象採得(寒天アルジネート連合印象), 咬合採得					山田将博, 石橋 実, 他
	11・12	作業用模型作製, 咬合器装着					山田将博, 石橋 実, 他
	13~15	全部鑄造冠ワックスパターン形成					山田将博, 石橋 実, 他
	16~18	全部鑄造冠埋没, 鑄造					山田将博, 石橋 実, 他
19・20	全部鑄造冠試適, 調整, 研磨					山田将博, 石橋 実, 他	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は、講義(総論と各論)と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者(マネキン)を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり、実習書を分野HPからダウンロードし、十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中、実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋(C棟7階)に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには、実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い、当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト(第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編)末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学(第5版 矢谷博文他編)医歯薬出版 2014						
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度(講義・実習)、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当 責任者	江草 宏 分子・再生歯科補綴学分野			
授業細目	クラウンブリッジ補綴学実習2						
曜日一時限	木-3・4 月-3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目 番号	DDE-DEN312
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：支台築造，レジン前装冠およびCAD/CAM冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通して支台築造，レジン前装冠およびCAD/CAM冠による歯冠修復治療の術式 および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。						
学習の到達 目標	一般目標：支台築造，レジン前装冠およびCAD/CAM冠治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① コンポジットレジン支台築造における基本的手技を具体的に述べる事が できる。 ② レジン前装冠治療の基本的手技および技工操作を具体的に述べる事が できる。 ③ CAD/CAM冠支台歯形成の要点について具体的に述べる事ができる。 ④ CAD/CAM冠治療の一連の流れが説明できる。						
	回数	授 業 内 容					担 当 者
授 業 計 画	1・2	支台築造（ファイバーポストコア）					山田将博, 石橋 実, 他
	3・4	レジン前装冠：支台歯形成					山田将博, 石橋 実, 他
	5・6	プロビジョナルクラウン作製					山田将博, 石橋 実, 他
	7・8	レジン前装冠：ワックスパターン形成, 窓開け, リテンションビーズ付与					山田将博, 石橋 実, 他
	9・10	レジン前装冠：鋳造					山田将博, 石橋 実, 他
	11・12	レジン前装冠：レジン築盛・重合, 形態修正・研磨					山田将博, 石橋 実, 他
	13・14	CAD/CAM冠支台歯形成					山田将博, 石橋 実, 他
	15・16	CAD設計, CAM加工					山田将博, 石橋 実, 他
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は，講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり，模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し，欠席，遅刻をしないように。届けでなき欠席は，1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり，実習書を分野HPからダウンロードし，十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中，実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには，実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう，十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い，当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編）末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014						
成績評価の方法	形成的評価を，授業態度（講義・実習），実習小テスト，実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い，総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では，総論，各論，先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅱ		授業担当	江草 宏			
授業細目	クラウンブリッジ補綴学 実習3		責任者	分子・再生歯科補綴学分野			
曜日一時限	月-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目 番号	DDE-DEN312
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 概要：模型実習を通してブリッジによる歯冠修復治療の術式および技工操作を診療の手順に沿って学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：ブリッジ治療の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① ブリッジ治療の基本的な手技を具体的に述べることができる。 ② ブリッジ作製の基本的な技工操作を具体的に述べるができる。 ③ 上顎小臼歯および大臼歯の解剖学的な歯冠形態をワックスパターンで説明できる。</p>						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
授 業 計 画	1・2	ブリッジ実習用模型準備				山田将博, 石橋 実, 他	
	3～6	ブリッジ支台歯形成				山田将博, 石橋 実, 他	
	7～10	プロビジョナルブリッジ作製				山田将博, 石橋 実, 他	
	11～14	咬合器装着				山田将博, 石橋 実, 他	
	15～18	ワックスパターン形成（支台装置およびポンティック）				山田将博, 石橋 実, 他	
	19・20	ろう着				山田将博, 石橋 実, 他	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は、講義（総論と各論）と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 実習書に従って実習を進める。毎回の授業にあたり、実習書を分野 HP からダウンロードし、十分な予習をした上で実習に臨むこと。 ● 授業期間中、実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C棟7階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには、実習書および下記テキストによる予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。毎回の実習前には小テストを行い、当日行う実習内容の理解度を評価する。						
テキスト・教材・参考書等	冠橋義歯補綴学テキスト（第2版 曾田雅啓・江草 宏・馬場一美他編）末永書店 2017 クラウンブリッジ補綴学（第5版 矢谷博文他編）医歯薬出版 2014						
成績評価の方法	形成的評価を、授業態度（講義・実習）、実習小テスト、実習プロダクトおよびPBL内容をもとに行い、総括的評価を論述試験結果および出席状況をもとに行う。論述試験では、総論、各論、先端技術論および実習で達成した学習成果の程度を評価する。						

授業科目	口腔修復学Ⅲ		授業担当 責任者	齋藤 正寛 歯科保存学分野				
授業細目	歯内治療学							
曜日・時限	水- 2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B3講義室	科目番号	DDE-DEN302J	
授業の目標並びに目的と概要	歯内疾患の成立機構と病態に基づいた治療の考え方、診断及び根管治療の基本技術、外科的歯内療法および顕微鏡を用いた逆根管治療技術の概念、外傷歯の治療技術を習得する。							
学習の到達目標	一般目標：根管形態の理解、根管治療その治療の進め方を理解する。 個別目標：① 歯髄・根尖性歯周組織疾患の病因、病態、診断および治療方法を説明できる。 ② 各歯種における根管形態の特徴を説明できる。 ③ 根管治療の基本技術を説明できる。 ④ 外科的歯内療法を説明できる。 ⑤ 外傷、根未完成歯、病的歯根吸収に対する歯内療法を説明できる。 ⑥ 手術顕微鏡を説明出来る。							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	歯髄疾患の分子病態メカニズムと臨床症状					齋藤 正寛	
	2	根尖歯周組織疾患の分子病態メカニズムと臨床症状					"	
	3	歯髄疾患、根尖歯周組織疾患の診査・検査・診断および治療方針					"	
	4	根管処置 1: 髄室開拓、根管長測定と作業長の決定					"	
	5	根管処置 2: 手用切削器具と根管形成について					"	
	6	根管処置 3: 根管洗浄と貼薬について					"	
	7	根管充填の術式と治癒経過					"	
	8	歯根と歯髄腔の形態およびその変化					"	
	9	ニッケルチタン製ファイルを用いた根管治療					"	
	10	再根管治療の術式、歯内療法の安全対策					"	
	11	手術用顕微鏡を用いた歯内療法					"	
	12	外科的歯内療法と手術用顕微鏡を用いた逆根管治療					"	
	13	根未完成歯、歯根の病的吸収に対する歯内療法					"	
	14	外傷歯の診断と処置					"	
15	試験					齋藤 正寛 他		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業を理解するためには、生化学、細胞生物学、解剖学を中心とする基礎医科学を元に歯内療法学の臨床基礎を理解する。 ● 授業への出席者のみに資料を配布する。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があればC棟8階歯科保存学分野研究室に質問に来るように。 							
予習・復習	歯内療法学の幅広い学問内容について理解を深めるためには、下記テキスト等による授業の予習・復習は必須である。授業は要約講義であり、配布資料は各自が予習・復習するための概説資料であると心得ること。							
テキスト・教材・参考書等	教材として毎回プリントを配布する。 Cohen's pathway of the pulp (ELSEVIER) 第3版 エンドドンティクス (永末書店) 第4版 歯内療法学 (医歯薬出版)							
成績評価の方法	出席状況および定期試験結果を総合評価する。							

授業科目	口腔修復学Ⅲ		授業担当 責任者	齋藤 正寛 ○半田 慶介 歯内歯周治療学分野			
授業細目	歯内治療学実習						
曜日一時限	水- 2・ 3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B 3 講義室 B 3 実習室 B 4 実習室	科目番号	DDE-DEN302J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯内治療学実習では、将来実臨床で行う歯内治療の基本的術式を修得することを目標とする。そのため透明根管模型、孤立歯模型、顎模型を用いて、各歯種の根管処置から根管充填まで一連の治療技術を習得する。						
学習の到達 目標	<p>一般目標：歯髄炎・根尖性歯周組織疾患の治療のために、根管治療についての知識、技能および態度を修得する。</p> <p>個別目標：① ラバーダム防湿ができる。 ② 髓室開拓、電氣的根管長測定ができる ③ 根管形成を正しくできる ④ 根管充填を正しくできる。 ⑤ ニッケルチタン製ファイルを用いた根管形成、根管充填が正しくできる。 ⑥ 手術用顕微鏡の基本的使用方法を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	オリエンテーション、実習準備、器具説明、孤立歯模型作製 1				半田 慶介	
	2	実習準備、器具説明、植立模型作製 2				"	
	3	切削器具の使用法、切削練習、ラバーダム防湿法				"	
	4	髓室開拓、電氣的根管長測定				"	
	5	透明根管模型を用いた根管形成				"	
	6	前歯孤立歯模型を用いた根管形成				"	
	7	前歯孤立歯模型を用いた根管充填				"	
	8	小臼歯孤立歯模型を用いた根管形成、根管充填				"	
	9	大臼歯孤立歯模型を用いた根管形成、根管充填Ⅰ				"	
	10	大臼歯孤立歯模型を用いた根管形成、根管充填Ⅱ				"	
	11	大臼歯植立模型を用いた根管拡大形成				"	
	12	大臼歯植立模型を用いた根管充填				"	
	13	手術用顕微鏡とニッケルチタン製ファイルを用いた根管形成、根管充填Ⅰ				"	
	14	手術用顕微鏡とニッケルチタン製ファイルを用いた根管形成、根管充填Ⅱ				"	
15	実技試験（評価を含む）				"		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 模型実習は、講義と連動する形で行われる。 ● 模型実習は座学中心の講義とは異なり、模擬患者（マネキン）を相手にした臨床想定実習である。実際に自分が患者さんを診る場面を想定して実習に臨むこと。身なり・服装に留意し、欠席、遅刻をしないように。届けでなき欠席は、1回でも履修不可となるので十分に留意すること。 ● 配布する実習書に従って実習を進める。十分な予習をし、示説による解説および実習内容についての理解を深めるようにする。 ● 授業期間中、実習当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。実習内容について質問があれば担当ライターの部屋（C棟8階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	限られた実習時間内で理解を深めるためには、配布実習書および下記テキスト等による予習・復習は必須である。内容を理解しないまま実習を進めることのないよう、毎回の実習では担当ライターによる試問が行われる。十分な予習・復習をもって実習に臨むこと。						
テキスト・教材・参考書等	<p>独自の実習書</p> <p>Cohen's pathway of the pulp (ELSEVIER)</p> <p>第3版 エンドドンティクス (永末書店)</p> <p>第4版 歯内療法学 (医歯薬出版)</p>						
成績評価の方法	出席状況、実習プロダクト、筆記試験および実技試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一				
授業細目	歯・周囲組織欠損による障害とその治療		責任者	口腔システム補綴学分野				
曜日一時限	火一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN303J	
授業の目標 並びに目的 と概要	1歯から多数歯の欠損により生じる形態異常・機能障害・社会的障害・心理的障害についての知識を修得し欠損歯列に対する歯科補綴学的治療の意義・目的を理解する。							
学習の到達 目標	一般目標：歯の欠損により生じる形態異常・機能障害・社会的障害・心理的障害についての知識を修得 個別目標：欠損歯列に対する歯科補綴学的治療、意義および目的を理解							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	補綴歯科学と歯科補綴治療入門					佐々木啓一	
	2	歯の欠損の疫学・歯の欠損による障害					佐々木啓一	
	3	補綴歯科治療に関連する顎口腔機能					小川 徹	
	4	補綴歯科治療と発音機能					小川 徹	
	5・6	顎口腔系の生体力学と補綴治療における力への対応					佐々木啓一	
	7	歯の欠損補綴治療の目的・種類・適応					小山 重人	
	8	顎顔面欠損に対する補綴治療と適応					小山 重人	
	9・10	インプラント補綴歯科治療					三浦 宏之 (東京医科歯科大学)	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む							
予習・復習	講義内容と実習と連動する形で行われるため、講義で配布したプリントによる入念な復習はもちろん、配布した実習書による予習ならびに復習は必須である。							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版(藍 稔編) 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版(三谷春保編) 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する							
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験(6セメ)により判定する							

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一				
授業細目	欠損歯列の診査・診断と治療方針		責任者	口腔システム補綴学分野				
曜日・時限	火一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4講義室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN303J	
授業の目標 並びに目的 と概要	欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）、さらに可撤性部分床義歯の構成要素を理解する。							
学習の到達 目標	一般目標：欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）の修得 個別目標：可撤性部分床義歯用いた欠損補綴、その構成要素・特徴を理解							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1・2	欠損歯列患者の診査・診断					佐々木啓一	
	3	可撤性部分床義歯の分類と構成要素					久保 吉廣 (徳島大学)	
	4	可撤性部分床義歯における力学的対応：支持・把持・維持機構					久保 吉廣 (徳島大学)	
	5・6	可撤性部分床義歯の支台装置					重光 竜二	
	7	可撤性部分床義歯の連結装置・人工歯・義歯床					小出 馨 (日本歯科大学 新潟歯学部)	
	8	可撤性部分床義歯の咬合					小出 馨 (日本歯科大学 新潟歯学部)	
	9・10	治療方針の立案と設計 (サベイング示説含む)					佐々木 啓一、 重光 竜二	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む							
予習・復習								
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版(藍 稔編) 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版(三谷春保編) 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する							
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験(6セメ)により判定する							

授業科目	口腔機能回復学 I A		授業担当	佐々木 啓一			
授業細目	可撤性部分床義歯補綴学		責任者	口腔システム補綴学分野			
曜日・時限	火一 1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B4講義室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN303J
授業の目標 並びに目的 と概要	欠損歯列患者に対する診査・診断、補綴治療の種類とその選択（治療方法の診断）、さらに可撤性部分床義歯の構成要素を理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：欠損歯列患者に対する可撤性部分床義歯用いた欠損補綴治療の手順、各構成要素の特徴・その選択方法に関する知識の修得 個別目標：可撤性部分床義歯用いた欠損補綴治療の手順、各ステップの詳細の理解						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1	前処置					佐々木啓一
	2・3	印象採得					埴 総司
	4	咬合採得					埴 総司
	5	可撤性部分床義歯の装着					依田 信裕
	6	メンテナンス・調整と修理					依田 信裕
	7・8	可撤性部分床義歯の設計					五十嵐順正 (東京医科歯科大学)
	9・10	可撤性部分床義歯の設計（PBL）					小川 徹
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編） 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版（三谷春保編） 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験（6セメ）により判定する						

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一			
授業細目	可撤性部分床義歯治療学 1		責任者	口腔システム補綴学分野			
曜日一時限	金一 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する						
学習の到達 目標	一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能の修得 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能の修得						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ2級1類）				佐々木啓一、 埴 総司	
	3・4	設計				埴 総司	
	5・6	前処置・印象採得				埴 総司	
	7・8	サベイング・設計線の記入・指示書				埴 総司	
	9・10	咬合採得・咬合床製作				埴 総司	
	11・12	咬合器装着				埴 総司	
	13・14	ワイヤーベンディング				埴 総司	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編） 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版（三谷春保編） 医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する						

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一			
授業細目	可撤性部分床義歯治療学2		責任者	口腔システム補綴学分野			
曜日・時限	金一 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する						
学習の到達 目標	一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能の修得 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能の修得						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ1級）				佐々木啓一、 埴 総司	
	3・4	設計				埴 総司 福島 梓	
	5・6	前処置・印象採得				埴 総司 福島 梓	
	7・8	サベイング・設計線の記入・指示書				小川 徹 埴 総司	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編） 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版（三谷春保編）医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する						

授業科目	口腔機能回復学 I B		授業担当	佐々木 啓一			
授業細目	可撤性部分床義歯治療学3		責任者	口腔システム補綴学分野			
曜日・時限	金一 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN313J
授業の目標 並びに目的 と概要	可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能を示説・実習を通して修得する						
学習の到達 目標	一般目標：可撤性部分床義歯治療に必要な知識／基本的技能の修得 個別目標：可撤性部分床義歯製作に関して必要な知識／基本的技能の修得						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	症例提示・診査・診断（ケネディ4級）				佐々木啓一、 小川 徹	
	3・4	サベイング・設計				小川 徹 埴 総司	
	5・6	前処置・印象採得・設計線の記入・指示書				小川 徹 福島 梓	
	7・8	可撤性部分床義歯の治療方針の立案と設計（PBL）				小川 徹	
アドバイス	講義内容は当分野HPに掲載する 積極的な自習を望む						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯補綴学第2版（藍 稔編） 学健書院 2006 歯学生のパーシャルデンチャー第5版（三谷春保編）医歯薬出版 2009 その他は講義中に説明する						
成績評価の方法	出席状況・授業態度・レポート・定期試験（7セメ）により判定する						

授業科目	口腔機能回復学ⅡA		授業担当	服部佳功			
授業細目	加齢歯科学総論・各論		責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	加齢や高齢者の概念、高齢者の心理・社会・身体的特徴、顎口腔の加齢変化、高齢者の顎口腔疾患・障害やそれへの対処法、高齢者の顎口腔疾患と全身の健康の相互的關係、高齢者の口腔保健やそれを支える医療や介護の制度を理解する。						
学習の到達 目標	一般目標：高齢者の身体・心理的特徴や高齢者に対する医療・介護を理解する。 個別目標：① 高齢者と社会状況を説明できる。 ② 老化と老化に関連する口腔内外の疾患や障害を説明できる。 ③ 他職種との連携について説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1	老化、老年症候群・老人病・生活習慣病・認知症					服部佳功
	2	人口の少子高齢化の機序と社会保障へのインパクト					服部佳功
	3	高齢者の健康・ADLが歯科口腔保健に及ぼす影響					服部佳功
	4	高齢者の歯科口腔保健が健康・ADL・QoLに及ぼす影響					服部佳功
	5	高齢者の歯科口腔保健とその方法					服部佳功
	6	摂食嚥下障害への歯科的対応					服部佳功
	7	多職種連携に基づく高齢者歯科保健					服部佳功
アドバイス	高齢者の歯科口腔保健に不可欠な知識の範疇は、老年期に特有の社会・心理・医学的諸問題の複雑さを反映してきわめて広いことを、本講を通じて理解されるよう希望する。						
予習・復習	テキストを用いた予習・復習を求める。						
テキスト・教材・参考書等	老年歯科医学 医歯薬出版 2015年						
成績評価の方法	授業への出席を前提に、ミニツツペーパー、筆記試験により、修得した知識を評価する。						

授業科目	口腔機能回復学ⅡA		授業担当	山口哲史			
授業細目	全部床義歯補綴学 総論・各論		責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	無歯顎者の顎口腔の形態的・機能的特徴を有歯顎者との対比において理解するとともに、無歯顎補綴診療の意義や特徴、全部床義歯補綴の臨床術式や、全部床義歯に特化した補綴概念を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：全部床義歯製作の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① 全部床義歯製作の工程を説明できる。 ② 全部床義歯の支持、維持、安定に係る理論と方法を説明できる。 ③ 全部床義歯補綴における下顎運動記録、ならびに下顎運動と調和した咬合付与の理論と方法を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯の欠損の生物学的影響、 無歯顎補綴診療の意義と特徴				山口哲史	
	2	無歯顎の口腔解剖、 全部床義歯の構成、支持・維持安定、診療の流れ				山口哲史	
	3	無歯顎の印象採得 (概形印象/精密印象、機能印象、印象圧)				山口哲史	
	4	咬合採得の目的と方法 (咬合位、咬合高径、歯列位置)				山口哲史	
	5	下顎運動の記録と咬合器による再現、 (咬合器の選択、チェックバイト記録、咬合器調節)				山口哲史	
6	全部床義歯の装着・管理と種々の無歯顎補綴 (即時義歯、オーバーデンチャー、インプラント義歯)				山口哲史		
アドバイス	全部床義歯補綴学が含む平衡咬合などの独自の概念を十分に理解されるよう期待する。						
予習・復習	テキストを用いた予習・復習を求める。						
テキスト・教材・参考書等	無歯顎補綴治療学 第3版 医歯薬出版 2016年						
成績評価の方法	授業への出席を前提に、ミニツツペーパー、筆記試験により、修得した知識を評価する。						

授業科目	口腔機能回復学ⅡA		授業担当	山口哲史			
授業細目	顎口腔機能回復学		責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	水-2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	顎口腔機能とその障害の概要を理解し、機能障害に対する治療法を学習する。						
学習の到達 目標	一般目標：顎口腔機能とその障害を理解する。 個別目標：① 各種の顎口腔機能とその障害を理解する。 ② 顎関節症とその臨床について理解する。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	各種の顎口腔機能とその障害 顎関節症とその臨床（臨床像、疫学、管理、予後）				山口哲史	
	2	高齢者の口腔顔面痛疾患				山口哲史	
	3						
	4						
	5						
アドバイス	顎関節症や口腔顔面痛の管理は、歯科疾患のなかでもっともEBMへの準拠が進んだもののひとつである。それだけに、最新の情報の参照が望ましい。講義で得た知識を下記の参考書などで補完されるよう希望する。						
予習・復習	配布資料や参考書を用いた復習を望む。						
テキスト・教材・参考書等	Okeson TMD、原著第5版、医歯薬出版、2006年						
成績評価の方法	授業への出席を前提に、ミニツツペーパー、筆記試験により、修得した知識を評価する。						

授業科目	口腔機能回復学ⅡA		授業担当	山口哲史			
授業細目	全部床義歯補綴学実習1		責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	金-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN314J
授業の目標 並びに目的 と概要	全部床義歯調製のほぼ全過程をファントムにて再現する実習を通じ、全部床義歯補綴の諸概念、とりわけ維持安定に関わる咬合平衡などの考え方に習熟する。8セメスターは蠟義歯完成までの行程を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：全部床義歯製作の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① 咬合器を適切に操作できる。 ② 人工歯排列と咬合調整により、全部床義歯に適切な咬合を付与できる。 ③ 全部床義歯に適切な研磨面形態を付与できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	オリエンテーション、器具配布					山口哲史
	2	全部床義歯作製工程の説明					山口哲史
	3・4	咬合床作製・咬合採得・咬合器装着					山口哲史
	5～10	人工歯排列（前歯部）					山口哲史
	11～18	人工歯排列（臼歯部）					山口哲史
	19～24	歯肉形成					山口哲史
	25～30	埋没					山口哲史
アドバイス	両側性平衡咬合など全部床義歯補綴に特化した咬合の概念や、義歯の維持安定を考慮した研磨面形態など、座学によって会得することは困難な知識を、実習を通して理解されるよう希望する。						
予習・復習	講義用テキストを用いた予習を求める。						
テキスト・教材・参考書等	加齢歯科学分野、実習の手引き、（配布） 無歯顎補綴治療学 第3版 医歯薬出版 2016年						
成績評価の方法	実習への参加を前提に、実習中の態度、製作義歯に反映された全部床義歯学の知識や技能に基づいて評価する。						

授業科目	口腔機能回復学ⅡB		授業担当	山口哲史			
授業細目	全部床義歯補綴学実習2		責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN331J
授業の目標 並びに目的 と概要	全部床義歯調製のほぼ全過程をファントムにて再現する実習を通じ、全部床義歯補綴の諸概念、とりわけ維持安定に関わる咬合平衡などの考え方に習熟する。9セメスターは蠟義歯完成以降、研磨完成までの行程を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：全部床義歯製作の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① 流蠟、填入、重合、割り出し、咬合器再装着の工程を行うことができる。 ② 平衡咬合の概念を理解して咬合調整を行うことができる。 ③ 義歯の形態を理解してレジン床義歯を完成させることができる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～6	流蠟、填入、重合、割り出し、咬合器再装着				山口哲史	
	7～12	咬合調整（選択削合、中心位）				山口哲史	
	13～18	咬合調整（選択削合、偏心位）				山口哲史	
	19～28	自動削合、形態修正、研磨				山口哲史	
	29、30	完成提出、器具回収、清掃				山口哲史	
アドバイス	両側性平衡咬合を削合によって実現する咬合調節を通じて、全部床義歯に特化したこの咬合の概念を理解し、またその実現に必要な技術を習得されることを希望する。						
予習・復習	講義用テキストを用いた予習を求める。						
テキスト・教材・参考書等	加齢歯科学分野、模型実習の手引き、（配布） 無歯顎補綴治療学 第3版 医歯薬出版 2016年						
成績評価の方法	実習への参加を前提に、実習中の態度、製作義歯に反映された全部床義歯学の知識や技能に基づいて評価する。						

授業科目	口腔機能回復学Ⅲ		授業担当	佐々木 啓一 ○根本 英二			
授業細目	歯周病学		責任者	歯内歯周治療学分野			
曜日・時限	水- 2・ 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室	科目番号	DDE-DEN315J
授業の目標 並びに目的 と概要	デンタルプラークに起因する慢性感染症である歯周病の発症過程においては、歯周組織の構造の特殊性から、他の慢性炎症性疾患にみられない特徴的な病態が形成される。本授業においては、歯周病の原因、誘因および特徴的な発症・進展機構について理解することを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：歯周組織の常態、同組織に生じる疾患およびその治療の進め方を理解する。 個別目標：① 歯周組織の発生、構造および機能を説明できる。 ② 歯周組織の病因と病態を説明できる。 ③ 歯周疾患の症状を説明できる。 ④ 歯周治療の術式と適応症を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	歯周病態学1： 歯周病学概論、歯周病における基礎と臨床の接点					根本 英二
	2・3・4	歯周病態学2： 歯周病の病型・病態、歯周病の病態活動度の考え方、歯周病の疫学					根本 英二
	5	歯周病態学3： 歯周病の病因論（歯周組織の解剖学的特徴、歯周病の細菌学・免疫学的病態形成論）					根本 英二
	6・7	臨床歯周病学1： 歯周病の病態診断、歯周治療の組み立て方					根本 英二
	8・9	臨床歯周病学2： 歯周基本治療（原因除去療法の考え方と実際）					根本 英二
	10・11	臨床歯周病学3：根分岐部病変・歯内一歯周疾患、矯正・補綴学的歯周治療					根本 英二
	12・13	臨床歯周病学4： 歯周外科の基本 歯周組織再生治療の基礎と理論					根本 英二
	14	臨床歯周病学5： メンテナンス治療（SPT） 歯周病が全身に及ぼす影響					根本 英二
	15	筆答試験					根本 英二
アドバイス	授業を理解していくためには、これまでに学習した基礎歯科医学の知識を確実に修得していることが必要である。						
予習・復習	基礎医学の基盤なしには臨床医学を理解することはできない。関連する基礎医学を徹底的に復習しておくことが必須である。また、講義中に適宜紹介するテキスト等により、授業の予習および復習を心掛けること。						
テキスト・教材・参考書等	テキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。また教材として毎回プリントを配布する。						
成績評価の方法	授業への出席状況を参考にするとともに、講義内容に関する筆答試験を行う（なお単に知識を求めるものではないことに注意）。						

授業科目	口腔修復学Ⅲ		授業担当	佐々木 啓一 ○根本 英二			
授業細目	歯周病学実習		責任者	歯内歯周治療学分野			
曜日一時限	水- 2・ 3・4	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 B4実習室	科目番号	DDE-DEN315J
授業の目標 並びに目的 と概要	本授業では、歯周病学（歯周病態学・臨床歯周病学）で学んだ知識を治療に具現化していくために、基本的な治療術式について体得し、さらにその知識を深めることを目標とする。						
学習の到達 目標	一般目標：歯周疾患の治療のために、歯周治療についての知識、技能および態度を修得する。 個別目標：① 歯周組織疾患の検査および診断が正しくできる。 ② 診断に基づいて適切な治療計画を立案できる。 ③ 適切な歯周基本治療ができる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1	オリエンテーション、抜去歯チェック					根本 英二 他
	2	顎模型作製					根本 英二 他
	3・4	診断法実習（X線写真読影、歯周組織診査、プラーク付着状態、口腔内写真撮影法、咬合診査、治療計画）					根本 英二 他
	5～8	口腔清掃指導実習					根本 英二 他
	9・10	暫間固定法実習					根本 英二 他
	11・12	スケーリング・ルートプレーニング実習（孤立模型・顎模型）					根本 英二 他
	13・14	スケーリング・ルートプレーニング実習（顎模型、研磨法）					根本 英二 他
	15	試験					根本 英二 他
	なお歯周病学講義を本実習時間に実施する場合は注意すること。詳細な予定は別途配布する。）						
アドバイス	本授業で修得する歯周治療の基本的術式は将来の歯科臨床の実践に必須のものである。従ってやむを得ない場合を除き、遅刻や欠席は認めない。講義を先行する場合はあるが、詳細な予定は別途配布する。						
予習・復習	講義内容と実習と連動する形で行われるため、講義で配布したプリントによる入念な復習はもちろん、配布した実習書による予習ならびに復習は必須である。						
テキスト・教材・参考書等	実習開始にあたり実習書を配布する。またテキストは特に指定しないが、授業中に適宜参考書を紹介する。なお、実習に際しては、天然抜去歯が必要であるので、各自用意しておくこと。						
成績評価の方法	実習への出席、レポート及び実習に関する試験（筆答及び実技試験）をもって評価する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由			
授業細目	環境学		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ひとの活動を取り巻く環境の意義と重要性を理解する。 概要：日常生活を取り巻く環境の役割を理解し、国民の生活と健康を衛る歯科医療活動との 関連を学習する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：環境と歯科医療活動の関連を理解する。 到達目標：① 環境を成り立たせる要因を説明する。 ② 環境と歯科医療活動の関連を説明する。 ③ 環境維持保全の意義を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	衛生学・公衆衛生学序論					小関 健由
	2	環境衛生総論					小関 健由
	3	環境衛生1：自然環境					小関 健由
	4	環境衛生2：人工環境					小関 健由
	5	環境汚染					小関 健由
アドバイス	<p>ひとを取り巻く環境への理解は、人類の生態系を保全し環境負荷を与えないと いったひととしての義務レベルの理解、医療従事者としての環境が生体に及ぼす 影響として医学レベルの理解、さらに将来歯科医院を開設する場合には事業所と しての環境負荷に関する理解といった、幾つかの理解のレベルがある。これを念 頭に置いて予習を行い、授業に取り組んで欲しい。</p> <p>環境に関する様々なニュースや話題がメディア上で連日注目を浴びている。こ れらの情報を良く理解し、社会における人の営みとの関連を深く考察して欲しい。 これは授業の理解を深めると共に、ひととしての自ら律した行動を選択すること に繋がるであろう。</p>						
予習・復習	<p>予習は、教科書の該当範囲を読むと共に、授業内容のキーワードを情報検索し、 社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業 後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由			
授業細目	疫学・栄養学		責任者	予防歯科学分野			
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：公衆衛生の意義とその基盤となる疫学と栄養学を理解する。</p> <p>概要：公衆衛生の基盤となる理論と疫学の重要性を理解し、さらに国民の栄養状態と健康の関係を理解し、歯科保健活動との関連を学習する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：公衆衛生の基本的理論と疫学を理解する。</p> <p>到達目標：① 公衆衛生と疫学の基本的手法を列記する。 ② 公衆衛生の基本となる人口と生活基盤を説明する。 ③ 健康を支える食を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	疫学総論					丹田 奈緒子
	2	疫学・衛生統計					丹田 奈緒子
	3	人口論					小関 健由
	4	栄養学					小関 健由
	5	食品衛生					小関 健由
	6	成人病とその予防					辻 一郎 (医学系研究科)
アドバイス	<p>公衆衛生は、人類の生命線を支える食や疾病予防等の最低限生きるために必要な要素から高次の社会システムの構築まで、様々なレベルの足り組みを含む。食の確保といった、現代日本では当たり前の社会保障も含めて、基本的な人権に含まれる健康を考える機会として予習を行い、授業に取り組んで欲しい。</p> <p>世界の食糧問題や健康・保健に関する様々なニュースや話題がメディア上で連日注目を浴びている。これらの情報を良く理解し、社会における人の営みとの関連を深く考察して欲しい。これは授業の理解を深めると共に、社会を衛るための行動を選択する資質を養う事になるであろう。</p>						
予習・復習	<p>予習は、教科書の該当範囲を読むと共に、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅰ		授業担当	小関 健由			
授業細目	社会衛生学		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ひとの活動を支える社会の保健維持システムの意義と重要性を理解する。 概要：様々なライフステージにおいて、ひとの健康を衛る社会システムを理解し、医療人としてこの社会システムに参加するために必要な知識を身につける。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：各ライフステージにおける保健の社会システムを理解する。 到達目標：① 乳幼児・小児期保健における社会システムをを説明する。 ② 成人期保健における社会システムをを説明する。 ③ 老年期保健における社会システムをを説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	衛生行政・地域保健					小関 健由
	2	精神保健					小関 健由
	3	母子保健・遺伝病と保健					小関 健由
	4	学校保健					丹田 奈緒子
	5	産業保健・国際保健					丹田 奈緒子
	6	高齢者保健福祉					丹田 奈緒子
	7	感染症とその予防					丹田 奈緒子
アドバイス	<p>国民が日常生活を安寧に過ごすためには、社会の健康が一定レベルを維持する 事が必要である。本講義で、様々なライフステージで設定されている保健・健康 維持システムを理解し、それに専門職として参画するための知識を身につける。 健康や保健に関する様々なニュースや話題がメディア上で連日注目を浴びてい る。これらの情報を良く理解し、保健と人との関連を深く考察して欲しい。</p>						
予習・復習	<p>予習は、教科書の該当範囲を読むと共に、内容のキーワードを情報検索し、社 会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後 の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	小関 健由			
授業細目	衛生学実習		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：ライフステージ毎の身体の状態・身体を取り巻く環境と口腔保健医療の関連を理解する。</p> <p>概要：特に考慮を必要とする妊婦・高齢者の身体状態を疑似体験し、さらに環境測定等により人に為害性の無い環境を理解し、歯科医療活動との関連を学習する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：ライフステージ毎の身体の状態・身体を取り巻く環境を理解する。</p> <p>到達目標：① 妊婦の身体的特徴を説明する。 ② 高齢者の身体的特徴と車いすの注意事項を説明する。 ③ 歯科医院内外の環境に関わる注意点を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1, 2	環境の測定・水の環境衛生・生体測定				小関 健由 丹田 奈緒子	
	3, 4	妊婦体験・高齢者体験・車いす体験				跡上 富美 中村 康香 畠山 博之	
アドバイス	<p>街に出ると、子ども連れの母親や妊婦、杖を使っている高齢者や車いすの方々を目にする機会が多い。命ある限り人の通過するライフステージであるが、これらの方には周りの方々が一定の配慮を行うことが社会の安心と信頼を繋ぐやさしい社会のありかたであろう。本実習では、医療人として妊婦・高齢者の医学的な特徴を理解すると共に、疑似体験を通してそれを実感して欲しい。この体験を元に、諸君の社会での行動にやさしさがあふれればと思う。さらに環境測定・生体計測では、自身にも環境にもやさしく、考え行動する自分を考えて欲しい。</p> <p>実習は、建物の外に出ても寒くなく、体験スーツを着用できる運動しやすい服装である事。詳細は、実習前のガイダンス時に説明。</p>						
予習・復習	<p>予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>実習書を配布する。 シンプル公衆衛生学（鈴木庄亮、久道茂編集）南江堂</p>						
成績評価の方法	<p>出席状況、実習プロダクト、および定期試験結果を総合評価する。</p>						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	小児の心身の発育		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：小児の心身ならびに顎顔面・口腔の正常な発育に関する知識を習得する。 概要：小児の成長発育に関する説明を受け、小児歯科臨床に必要な発育評価等の一連の知識を習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：小児歯科疾患の予防と健康の維持に必要な知識と方法を理解、修得する 個別目標：小児の身体的な特徴と、成長発育段階について説明できる。 小児の精神発達について理解し、その特徴について説明できる。 顎顔面の成長について、各部位ごとに説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	小児歯科顎概論：小児歯科の意義と目的 小児の身体発育：発育概論、身体発育の特徴と評価				福本 敏	
	2	小児の精神発達：幼児の心理特性、運動機能の発達、 情動の発達、言語の発達、小児の生理的特徴				福本 敏	
	3	顎顔面・頭蓋の発達（1）脳頭蓋・顔面頭蓋の発育				齋藤 幹	
	4	顎顔面・頭蓋の発達（2）顎の成長発育、口腔機能の発達				齋藤 幹	
	5						
6							
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長発育を通して小児歯科と成人歯科の相違を考える。特に年齢による身体や精神の成長発育を理解する事が重要である。また、基本となる生理的な特徴や、運動機能、情動の変化を理解し、全身疾患の診断や治療のための基礎的な知識を身につける。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	歯列・咬合の発育と発育障害		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯および歯列・咬合の正常な成長発育とそれを阻害する因子・疾病に関する知識を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	歯の発育と発育障害（1）歯の発生・発育・石灰化					福本 敏
	2	歯の発育と発育障害（2）歯の形成障害					福本 敏
	3	歯の発育と発育障害（3）歯の萌出					福本 敏
	4	歯の発育と発育障害（4）歯の萌出異常と萌出障害					福本 敏
	5	歯列・咬合の発育（1）Hellman の咬合発育段階、乳歯列の特徴					山田亜矢
	6	歯列・咬合の発育（2）乳歯列の成長発育					山田亜矢
	7	歯列・咬合の発育（3）切歯群の交換期に見られる変化					山田亜矢
	8	歯列・咬合の発育（4）側方歯群の交換期に見られる変化					山田亜矢
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯の正常発育は、その異常を理解する為に必要な理論である。また歯の形づくりのみならず、歯の萌出時期の理解は、歯列がどのように形成され、咬合機能を獲得するかを理解する事にもつながり、歯並びの異常に対する歯科的な処置の為に基礎的な知識となる。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	小児の齲蝕・歯周疾患		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：小児の口腔にみられる疾患、特に齲蝕と歯周疾患の病因論及病態についての知識を習得する 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1	乳歯の特徴：形態・構造・物理化学的特徴・生理的歯根吸収					福本 敏
	2	幼若永久歯の特徴：形態学的・構造学的特徴					福本 敏
	3	乳歯の齲蝕（1）乳歯齲蝕の統計					福本 敏
	4	乳歯の齲蝕（2）乳歯齲蝕の臨床的特徴及び為害作用					福本 敏
	5	乳歯の齲蝕（3）乳歯齲蝕の診断と罹患型分類					福本 敏
		幼若永久歯の齲蝕：罹患の特異性、臨床的特徴					福本 敏
		小児の歯周疾患：歯周疾患の統計、歯肉炎、若年性歯周炎					山田亜矢
	6	小児の軟組織疾患					山田亜矢
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳歯の特徴の理解には、永久歯との差を考えながら理解する事が大切である。類似した歯の形態を有していても、構造や成分に大きな差がある事を理解し、歯科治療に際する注意事項も踏まえながら考察する事が大切である。また小児期に特徴的な軟組織疾患に関しても、なぜ小児での発症が多いかなどしっかり考えながら受講する事が大切である。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	小児の心身の発育		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：小児の心身ならびに顎顔面・口腔の正常な発育に関する知識を習得する。 概要：小児の成長発育に関する説明を受け、小児歯科臨床に必要な発育評価等の一連の知識を習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：小児歯科疾患の予防と健康の維持に必要な知識と方法を理解、修得する 個別目標：小児の身体的な特徴と、成長発育段階について説明できる。 小児の精神発達について理解し、その特徴について説明できる。 顎顔面の成長について、各部位ごとに説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	小児歯科顎概論：小児歯科の意義と目的 小児の身体発育：発育概論、身体発育の特徴と評価				福本 敏	
	2	小児の精神発達：幼児の心理特性、運動機能の発達、 情動の発達、言語の発達、小児の生理的特徴				福本 敏	
	3	顎顔面・頭蓋の発達（1）脳頭蓋・顔面頭蓋の発育				齋藤 幹	
	4	顎顔面・頭蓋の発達（2）顎の成長発育、口腔機能の発達				齋藤 幹	
	5						
6							
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長発育を通して小児歯科と成人歯科の相違を考える。特に年齢による身体や精神の成長発育を理解する事が重要である。また、基本となる生理的な特徴や、運動機能、情動の変化を理解し、全身疾患の診断や治療のための基礎的な知識を身につける。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	歯列・咬合の発育と発育障害		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯および歯列・咬合の正常な成長発育とそれを阻害する因子・疾病に関する知識を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	歯の発育と発育障害（1）歯の発生・発育・石灰化					福本 敏
	2	歯の発育と発育障害（2）歯の形成障害					福本 敏
	3	歯の発育と発育障害（3）歯の萌出					福本 敏
	4	歯の発育と発育障害（4）歯の萌出異常と萌出障害					福本 敏
	5	歯列・咬合の発育（1）Hellmanの咬合発育段階、乳歯列の特徴					山田亜矢
	6	歯列・咬合の発育（2）乳歯列の成長発育					山田亜矢
	7	歯列・咬合の発育（3）切歯群の交換期に見られる変化					山田亜矢
8	歯列・咬合の発育（4）側方歯群の交換期に見られる変化					山田亜矢	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯の正常発育は、その異常を理解する為に必要な理論である。また歯の形づくりのみならず、歯の萌出時期の理解は、歯列がどのように形成され、咬合機能を獲得するかを理解する事にもつながり、歯並びの異常に対する歯科的な処置の為に基礎的な知識となる。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I		授業担当	福本 敏			
授業細目	小児の齲蝕・歯周疾患		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：小児の口腔にみられる疾患、特に齲蝕と歯周疾患の病因論及病態についての知識を習得する 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	乳歯の特徴：形態・構造・物理化学的特徴・生理的歯根吸収					福本 敏
	2	幼若永久歯の特徴：形態学的・構造学的特徴					福本 敏
	3	乳歯の齲蝕（1）乳歯齲蝕の統計					福本 敏
	4	乳歯の齲蝕（2）乳歯齲蝕の臨床的特徴及び為害作用					福本 敏
	5	乳歯の齲蝕（3）乳歯齲蝕の診断と罹患型分類					福本 敏
		幼若永久歯の齲蝕：罹患の特異性、臨床的特徴					福本 敏
		小児の歯周疾患：歯周疾患の統計、歯肉炎、若年性歯周炎					山田亜矢
	6	小児の軟組織疾患					山田亜矢
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 乳歯の特徴の理解には、永久歯との差を考えながら理解する事が大切である。類似した歯の形態を有していても、構造や成分に大きな差がある事を理解し、歯科治療に際する注意事項も踏まえながら考察する事が大切である。また小児期に特徴的な軟組織疾患に関しても、なぜ小児での発症が多いかなどしっかり考えながら受講する事が大切である。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学 I (口腔の発育)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	咬合形成に関わる生物学		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN304J
授業の目標 並びに目的 と概要	咬合の成り立ちについて理解を深める。咬合に関わる生物学的条件と正常咬合、不正咬合および咬合の異常に対する顎機能の順応について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科矯正学における総論的内容を理解する。 個別目標：① 歯科矯正学の目的と意義を説明できる。 ② 歯科矯正学の要件、種類を説明できる。 ③ 不正咬合の種類・原因を理解し説明できる。 ④ 歯の移動時の生体反応を理解し説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯科矯正学総論・歯科矯正学の目的と意義				北浦英樹	
	2	矯正診断学総論				北浦英樹	
	3	正常咬合・不正咬合の分類				北浦英樹	
	4	不正咬合の原因と予防				福永智広	
	5	歯の移動の生体反応				北浦英樹	
アドバイス	「解剖学」と「生理学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）およびElements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学 I (口腔の発育)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	顎顔面頭蓋部の成長発育		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日一時限	金一・二	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	
授業の目標 並びに目的 と概要	咀嚼器官の正常な発達に関する知識を習得する。骨・軟骨の生物学的特性、骨格変化のメカニズム、顎・顔面・頭蓋部の成長発育、咬合の発達について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：顎顔面頭蓋部の成長発育に関する知識を習得する。 個別目標：① 顎・顔面・頭蓋部の成長発育の正常な発達に関する知識を取得し説明できる。 ② 骨・軟骨の生物学的特性および骨格変化のメカニズム理解し説明できる。 ③ 顎・顔面・頭蓋部および歯の発生に関する知識を取得し説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 I ・全身成長の評価および頭蓋冠の成長、頭蓋底の成長・鼻上顎複合体の成長				北浦英樹	
	2	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 II ・下顎骨の成長、下顎頭軟骨の特徴				北浦英樹	
	3	顎・顔面・頭蓋部の成長発育 III ・歯の萌出と咬合形成のメカニズム、成長発育の意義				北浦英樹	
	4	先天異常と不正咬合				福永智広	
	5	顎口腔機能について				北浦英樹	
	6	歯の再生				辻 孝 (理化学研究所)	
アドバイス	「解剖学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学 (第5版、医歯薬出版)。歯は動く (医歯薬出版) および Elements of Orthodontics (メデジット出版) 講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験 (筆答) と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由			
授業細目	歯口の健康		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯口の健康と異常を理解し、疾患の予防に役立つ基礎を理解する。 概要：口腔の疾病を予防し、口腔の健康を高く維持する保健・医療を提供するために、健全な発育と健康な状態、それに対する疾病の病因論を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：健全な口腔の発達とそれを脅かす疾病の病因論を理解する。 到達目標：① 健全な口腔の発育段階を説明する。 ② 口腔の疾病とその病因を列挙する。 ③ 口腔清掃の意義を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	予防歯科学総論					小関 健由
	2	歯口の発達と機能					小関 健由
	3	歯口の異常について					小関 健由
	4	歯口の環境					小関 健由
	5	口腔の不潔物					小関 健由
	6	プラークコントロール					小関 健由
	7	歯口清掃の効果					小関 健由
8	歯口清掃の術式					小関 健由	
アドバイス	<p>予防歯科学は、他の臨床系の多くの学問体系と異なり、疾病よりも健康をその学問の中心に据える。よって、『公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする（歯科医師法）』歯科医師の使命において、最も基本的で真摯な学問であるとも言える。 口腔保健の維持に重要な口腔清掃は、まずは自身の口腔の管理を日々実践することから手技を覚え、臨床への患者教育へ展開していくので、まずは自身の口腔への関心を高めて欲しい</p>						
予習・復習	<p>本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしてほしい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	新予防歯科学 第4版（米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編） 医歯薬出版社						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由			
授業細目	う蝕とその予防		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：国民の口腔保健の向上のために、齲蝕の病因論と予防法を理解する。</p> <p>概要：口腔の二大疾患の齲蝕に関して、生活者の視点や臨床の視点からその病因の発生要因を理解し、臨床での実際のう蝕の予防法を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：齲蝕の発生と予防法を臨床の立場から総合的に理解する。</p> <p>到達目標：① 生活者の視点からう蝕の発生要因を列挙する。 ② 各ライフステージのう蝕の予防法を説明する。 ③ う蝕予防におけるフッ化物の応用法を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	齲蝕の病因					小関 健由
	2	齲蝕の予防					小関 健由
	3	フッ化物と健康					小関 健由
	4	フッ化物の齲蝕予防機序					小関 健由
	5	フッ化物の齲蝕予防への応用					小関 健由
	6	フッ化物の応用と地域歯科保健					葭原 明弘 (新潟大学)
	7	齲蝕のリスクアセスメント					小関 健由
アドバイス	<p>口腔内疾病の予防は、全ての国民の願いであり、近年、小児期における齲蝕発生は大きく減少してきた。これには、国民の口腔保健に取り組む意識の変化と、齲蝕予防法の社会への浸透が大きな効果を上げたからと考える。本講義で、齲蝕発生要因と予防法を、局所の生化学的反応から社会学としての生活習慣までの様々なレベルで捉え、臨床や一般社会の中での効果的な予防の取り組みを学ぶこと。人類の健康を学問の中心に据える予防歯科学は、「歯科医師」として最も基本的で身近な学問である。</p>						
予習・復習	<p>本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしてほしい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。さらに、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>新予防歯科学 第4版（米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編） 医歯薬出版社</p>						
成績評価の方法	<p>出席状況、および定期試験結果を総合評価する。</p>						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由			
授業細目	歯周疾患の予防と疫学		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：国民の口腔保健の向上のために、歯周疾患の病因と予防法、さらに、疫学手法を理解する。</p> <p>概要：口腔の二大疾患の歯周疾患に関して、生活者の視点や臨床の視点からその病因の発生要因を理解し、臨床での実際の歯周疾患の予防法を学ぶ。さらに、口腔に関する疫学手法を学び、適確な口腔内評価法を学習する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：歯周疾患の病因と予防法、さらに、疫学手法を理解する。</p> <p>到達目標：① 生活者の視点から歯周疾患の発生要因を列挙する。 ② 歯周疾患の予防法と全身との関連について説明する。 ③ 口腔内評価法を目的ごとに列挙する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	歯周疾患の発症					小関 健由
	2	歯周疾患の予防					小関 健由
	3	口臭の基礎と臨床					丹田 奈緒子
	4	歯科疾患の統計と疫学（総論）					丹田 奈緒子
	5	歯科検診と齲蝕の疫学					小関 健由
	6	口の汚れと歯周病の疫学					小関 健由
	7	不正咬合と口腔内疾患の疫学					小関 健由
アドバイス	<p>成人からの口腔の QOL の低下には、歯周疾患が大きく関与する。歯を失う原因となり、全身の健康との関連も多く研究が為されている。本疾患の病因論は、単純で有りながら未だ不明に点が数多く存在する。歯周疾患を理解することは、成人の口腔管理と疾病予防に極めて重要であるので、国民の成人の口腔 QOL の維持のために深く学ぶこと。本講義で、歯周疾患の発生要因と予防法を、局所の生体防衛反応から社会学としての生活習慣までの様々なレベルで捉え、臨床や一般社会の中での効果的な予防の取り組みを学ぶこと。</p>						
予習・復習	<p>本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしてほしい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。さらに、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	新予防歯科学 第4版（米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編） 医歯薬出版社						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由			
授業細目	歯科保健と社会		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	4年次 7 Semester	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科保健の理念とシステムを、社会の中での予防歯科を理解する。 概要：様々なライフステージに於いて、口腔保健活動が取り込まれている。これらの社会システムを理解し、効果的な健康増進への取り組みを理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔保健実践の社会システムを理解する。 到達目標：① 日本の歯科保健の現状を列挙する。 ② 各ライフステージの口腔保健の社会システムを説明する。 ③ 社会の中での歯科医師の使命を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	歯科疾患の動向・歯科疾患実態調査				丹田 奈緒子	
	2	母子歯科保健				丹田 奈緒子	
	3	学校歯科保健				丹田 奈緒子	
	4	産業歯科・障害者歯科				丹田 奈緒子	
	5	歯科衛生教育と援助				小関 健由	
アドバイス	<p>国民の口腔保健を高い状態に維持するには、まず診療室レベルから社会全体の活動までの様々なレベルでの口腔保健・健康増進への取り組みを理解し、そこに参画する方々の役割とシステムの運用範囲等を考えなければならない。将来、歯科医師としての社会参加し、歯科医師の使命である保健指導等の社会貢献を実施する際には、本講義で学ぶ社会システムの知識が必要である。我々が医療人である以上、社会への貢献として、医療のみならず保健・福祉分野でも大きな期待に答えられるよう、専門家としての視点から本授業に取り組むこと。</p>						
予習・復習	<p>本講義は、これまで学んだ歯科医学基礎分野の学習成果を、臨床の視点から再展開すると同時に、同時進行で学ぶ口腔内疾病の病因論とも深く関わるので、日々の学びを大切にしてほしい。特に予習は、授業テーマに関わるこれまで学んできた基礎分野の内容を再学習して臨むこと。さらに、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	新予防歯科学 第4版 (米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編) 医歯薬出版社						
成績評価の方法	出席状況、および定期試験結果を総合評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ		授業担当	小関 健由			
授業細目	予防歯科学実習		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：一次予防と二次予防の口腔保健を実施するために必要な技術を習得する。 概要：保健活動は医療の現場とは実施環境が違うので、診査・口腔内評価から口腔保健啓発までを適確で効率的に実践する技能を身につける。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔保健活動の手技を手技を理解・習得する。 到達目標：① 歯垢の評価法を実施する。 ② 齲蝕の評価法を実施する。 ③ 歯周疾患の評価法を実施する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔診査法				小関 健由	
	2	齲蝕検出法				小関 健由	
	3	歯周疾患の診査				丹田 奈緒子	
4	歯口清掃				丹田 奈緒子		
アドバイス	<p>口腔内疾患を予防することは、将来起きるかもしれない疾病リスクを見出し、それに対して行動を起こすことであるから、治療学と違い、将来への口腔の健康の保証と責任を歯科医師が背負うことを意味する。現代の口腔科学レベルでも完全なリスク判定は難しいのではあるが、我々は最善を尽くして口腔の健康を適切に守るべきである。本実習では、口腔内診査・評価法を確実に実施できるよう手技を学ぶと共に、予防歯科学の実施の難しさと取り組みの重要性を理解すること。</p>						
予習・復習	<p>歯科医院を受診した際や学校歯科健康診断の経験から、口腔内診査を受診した記憶があると思う。この記憶から何を実施したかを思い出して、項目を調べておくこと。さらに診断項目と診断の基準を予習しておくこと。 授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<p>新予防歯科学 第4版（米満正美・小林清吾・宮崎秀夫・川口陽子・鶴本明久編） 医歯薬出版社</p>						
成績評価の方法	<p>出席状況、および定期試験結果を総合評価する。</p>						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ (障害者歯科)		授業担当	猪狩 和子			
授業細目	障害児者の歯科医療		責任者	障害者歯科治療部			
曜日-時限	金- 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 障害のある人のQOLを高める歯科医療および健康支援を行うために必要な知識を習得する。</p> <p>概要: 障害のある人の口腔保健および歯科医療におけるスペシャルニーズを理解し、ニーズに対応した健康支援法や治療法について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 障害者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。</p> <p>個別目標: ① 障害者の身体的、精神的および心理的特徴を説明できる。 ② 障害者の行動調整法と歯科治療に必要な注意点を説明できる。 ③ 障害者における口腔のケアの必要性と留意点を説明できる。 ④ 障害者の摂食嚥下障害の特徴と対応を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	障害者歯科の意義と目的 障害者および障害者歯科の現状と課題				猪狩和子	
	2	歯科医療におけるスペシャルニーズ: 精神遅滞・自閉症 スペクトラム・脳性麻痺・ダウン症候群・てんかん 他				猪狩和子	
	3	スペシャルニーズへの対応: 歯科環境における行動調整、 口腔保健の重要性と支援上の留意点				猪狩和子	
	4	スペシャルニーズへの対応: 歯科疾患に対する処置の特 徴と治療上の留意点、安全管理と対応				猪狩和子	
画	5	障害児者の摂食嚥下障害: 摂食嚥下機能の発達と障害、 発達期摂食嚥下障害への対応				猪狩和子	
アドバイス	他の臨床科目で学習している歯科疾患の特徴や治療法を理解した上で授業に臨むと、障害のある人における留意点を理解しやすい。 歯科医療のみならず、障害者への医療、福祉、教育制度など関連分野にも視野を広げて障害と障害のある人に対する理解と関心を深めたい。						
予習・復習	授業開始時に当日の授業内容に関する資料を配布するので、授業時はそのプリントを使用し、さらに下記テキストを利用して予習・復習を行い確認すること。						
テキスト・教材・参考書等	スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科第2版 (医歯薬出版) 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 (医歯薬出版)						
成績評価の方法	筆記試験、出席状況						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正歯科治療)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正歯科診断学		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	不正咬合がもたらす様々な障害と、治療による改善効果について解説し、矯正歯科治療の意義について理解を深める。診断のための調査、診査、各種検査、分析法と総合診断から治療計画立案、治療、治療効果も評価にいたる一連のプロセスについて講義を行う。また、矯正歯科治療における拔牙および矯正装置や材料について解説する。						
学習の到達 目標	<p>一般目標：矯正歯科学における診断についての総論的内容を理解する。</p> <p>個別目標：① 矯正診断と治療計画の立案のプロセスを理解し説明できる。 ② 矯正診断に必要な検査および分析法を理解し説明できる。 ③ 矯正歯科治療における拔牙および矯正装置や材料についての知識を取得し説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	矯正診断と治療計画の立案				北浦英樹	
	2	形態検査とセファロ分析				北浦英樹	
	3	歯の移動様式と固定源				北浦英樹	
	4	矯正用材料				北浦英樹	
	5	拔牙と非拔牙				北浦英樹	
	6	矯正装置				北浦英樹	
アドバイス	基礎知識として、「咬合形成に関わる生物学」と「顎・顔面・頭蓋部の成長発育」の内容を復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正歯科治療)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正歯科治療学		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日・時限	金-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	矯正歯科治療に必要な基礎知識を習得する。成長期の矯正治療について理解を深める。また、 為害作用および保定について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：矯正歯科治療に必要な基礎知識を習得する。 個別目標：① 矯正歯科治療についての総論的内容を理解する。 ② 成長期の矯正治療について知識を取得し説明できる。 ③ 矯正歯科治療における為害作用および保定についてを説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	矯正歯科治療の開始時期					福永智広
	2	成長期の矯正治療					北浦英樹
	3	保定と予防					福永智広
	4	矯正歯科治療と口腔衛生					北浦英樹
	5	矯正治療の偶発症					北浦英樹
アドバイス	「骨の解剖学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正歯科治療)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	不正咬合 1		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	矯正治療に必要な基礎的な知識を習得する。成人期および唇・顎・口蓋裂に代表される先天異常の矯正治療について理解を深める。また、患者管理について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：矯正歯科治療に必要な基礎的な知識を習得する。 個別目標：① 各不正咬合に対する矯正治療の基礎的な知識を取得し説明できる。 ② 成人期の矯正治療について知識を取得し説明できる。 ③ 唇・顎・口蓋裂に代表される先天異常の矯正治療について知識を取得し説明できる。 ④ 患者管理について知識を所得し説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	成人期の矯正治療（通常のエッジワイズ治療）				北浦英樹	
	2	成人期の矯正治療（外科的矯正治療）				北浦英樹	
	3	成人期の矯正治療（歯周・補綴・MTM）				北浦英樹	
	4	口唇口蓋裂の矯正治療				福永智広	
5	患者管理（インフォームドコンセント）				福永智広		
アドバイス	「骨の解剖学」、「矯正診断学」、「矯正歯科治療学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅱ (不正咬合と矯正歯科治療)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	不正咬合 2		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	金-1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN316J
授業の目標 並びに目的 と概要	診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について講義を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について理解する。 個別目標：① 顎口腔機能の評価に関する知識を取得し説明できる。 ② 顎関節の形態と顎口腔機能の関係について知識を取得し説明できる。 ③ 矯正力が骨に作用した際の生体反応を理解し説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	顎口腔機能評価					福井和徳（奥羽大学教授）
	2	顎関節の形態と機能異常					溝口到（北海道医療大学教授）
	3	先天異常の基礎と臨床					山城隆（岡山大学教授）
	4	顎関節の成長と発育					高橋一郎（九州大学教授）
	5	骨のメカノバイオロジー					上岡寛（岡山大学教授）
	6	開咬における矯正治療					北浦英樹
アドバイス	「矯正診断学」、「矯正歯科治療学」の基礎知識が必要とされるのでよく復習しておくこと。						
予習・復習	下記にあるテキスト・参考書による予習・復習は必須である。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学（第5版、医歯薬出版）。歯は動く（医歯薬出版）および Elements of Orthodontics（メデジット出版）講義レジュメを配布する。						
成績評価の方法	一括試験（筆答）と出席により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の理論 と実践)		授業担当	福本 敏			
授業細目	小児期咬合管理の治療学 実習		責任者	小児発達歯科学分野			
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：講義で習得した小児歯科学の知識を基礎として、混合歯列期の症例について顎顔面、咬合の分析および歯列咬合模型での歯冠修復、歯内療法、咬合誘導等の処置の一部について実習し習得する。</p> <p>概要：</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：</p> <p>個別目標：</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	混合歯列期の症例分析：セファロ、パノラマX線写真の分析、模型分析と評価					福本 敏
	3・4	保隙装置の作製：Crown loopの製作（1） Crown loopの製作（2）					日野綾子
	5・6	保隙装置の作製：Crown loopの製作（3） Crown loopの製作（4）					日野綾子
	7・8	保隙装置の作製：可撤保隙間装置の製作（1） 可撤保隙間装置の製作（2）					小山田優
	9・10	保隙装置の作製：可撤保隙間装置の製作（3） 可撤保隙間装置の製作（4）					小山田優
	11・12	防湿法：ラバーダム装着法の技術習得 歯髄切断法：生活歯髄切断法の技術習得					新垣真紀子
	13・14	窩洞形成法：乳歯銀合金インレーの窩洞形成 ：乳前歯レジン充填の窩洞形成					新垣真紀子
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習を通じて小児の咬合発育の予想し、不正咬合を防ぐ目的で使用する保隙装置の作成を体験する。また、小児歯科に必要な基礎的な歯科処置の手技を習得する。特に小児歯科は、臨床研修や卒業研修においても学ぶ機会がほとんど無いため、本自習で基本技術を完全に習得するつもりで望む事が大切である。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	実習に関するレポートは課さない。しかしながら、次回実習で行なう内容に関しては事前に教科書等で学習する必要がある。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の理論 と実践)		授業担当 責任者	福本 敏 小児発達歯科学分野			
授業細目	小児歯科疾患の予防法						
曜日・時限	木-1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：診断と治療、形態と機能の関わり、顎口腔機能評価について講義を行う。 概要：小児の齲蝕や歯周疾患の予防と治療に関する説明を受け、口腔領域に関わる疾患の診断 や処置に必要な知識を習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：小児歯科疾患の予防と健康の維持に必要な知識と方法を理解、修得する 個別目標：小児の齲蝕や歯周疾患のリスク評価について説明できる。 齲蝕予防の為の処置に関して歯種ごとの対応法を説明できる。 口腔疾患の治療の為の治療計画の立案ができる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	小児患者の口腔管理：診査と診断、治療計画、定期診査					福本 敏
	2	齲蝕の予防と抑制（1）カリエスリスク評価、歯口清掃法					齋藤 幹
	3	齲蝕の予防と抑制（2）フッ化物による齲蝕予防、窩溝填塞法					齋藤 幹
	4	小児の歯周疾患の予防：歯周疾患の診査と診断、予防の実際					福本 敏
	5						
6							
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療するより予防が重要であることと理解し、齲蝕や歯周病の病因論やエビエ ンスに基づく歯科疾患の予防法について学ぶ事が大切である。診断に関しては、 口腔内のみならず全身の状態を常に把握しながら考えるということを意識しな がら受講してほしい。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失 うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関し ては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示する ので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の理論 と実践)		授業担当 責任者	福本 敏 小児発達歯科学分野			
授業細目	小児歯科疾患の治療法						
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：小児歯科疾患の治療法とくに歯冠修復・歯内療法・外科処置についての理論および方法を理解、習得する 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	乳歯の歯冠修復（1）乳歯修復に用いる歯科材料					福本 敏
	3・4	乳歯の歯冠修復（2）乳歯歯冠修復の実際					福本 敏
	5・6	乳歯の歯内療法：乳歯歯髄炎および根尖性歯周炎の診査・診断・治療					山田亜矢
	7・8	幼若永久歯の歯内療法：アペキソゲネーシス、アペキシフィケーション					山田亜矢
	9・10	小児歯科治療に関する外科処置 小児の軟組織疾患に対する処置					山田亜矢
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 小児の基本的な歯科治療は成人と同じであるが、歯の形や構造が異なるため、修復のための形成など乳歯と永久歯の違いを理解しながら行なう必要がある。また、生活歯髄切断法、乳歯既製金属冠、コンポジットレジン冠など、小児に特徴的な治療については確実に知識を習得する必要がある。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。日常臨床での小児歯科の特徴を理解する 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (小児期口腔管理の理論 と実践)		授業担当 責任者	福本 敏 小児発達歯科学分野			
授業細目	咬合誘導						
曜日一時限	木-1・2	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯列・咬合の育成のための咬合誘導法の理論と実際について理解、修得する 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	咬合誘導（1）咬合誘導の定義、歯列・咬合を乱す因子					福本 敏
	2	咬合誘導（2）乳歯早期喪失の影響、側方歯群の予測					福本 敏
	3	咬合誘導（3）静的咬合誘導（保険処置）					福本 敏
	4	咬合誘導（4）動的咬合誘導、咬合習癖とその処置					福本 敏
	5						
	6						
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 成長発育に伴い、どのように不正咬合が生じるのかを理解する。特に骨格的な問題のみならず、指しゃぶりなどの様々な習癖に起因するもの、また齲蝕による根尖病巣に起因するものなど様々な要因があることから、疾患の発生要因とその対処法、矯正歯科治療との差を理解しながら学ぶ必要がある。 ● 特別な理由が無い限り、遅刻、欠席は認めない。1度の欠席でも受験資格を失うので注意してください。 						
予習・復習	講義1回（90分）につきレポートを1部提出すること。提出したレポートに関しては、試験時に加点の対象とする。授業の終了時に、次回講義する範囲を指示するので、該当部分の予習を行なう事。						
テキスト・教材・参考書等	小児歯科学 第4版 医歯薬出版						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、筆記試験により総合的に判断する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・ 矯正歯科治療学実習)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正診断学実習(2)		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	矯正診断に必要な知識と技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：矯正診断に必要な知識と技術を習得する。 個別目標：① 診断結果をもとに治療ゴールの設定する手技を会得する。 ② 治療前後の治療結果を比較検討し、治療を評価できる手技を会得する。 ③ 診断結果をもとに治療ゴールの設定する手技を会得する。						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	診断学講義 総合診断Ⅰ(問題点と整理・治療目標の設定)				教員全員	
	2	総合診断Ⅱ(成長予測図・治療時期と方法の設定) 治療ゴールの設定				"	
	3	第2回検査 パノラマおよびX線写真所見				"	
	4	第2回検査 模型およびセファロ分析				"	
	5	顎機能検査講義 顎機能検査実習Ⅰ				"	
	6	顎機能検査実習Ⅱ				"	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。						
予習・復習	実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル						
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・ 矯正歯科治療学実習)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正診断学実習(3)		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日・時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3 講義室 B3 実習室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	矯正診断に必要な知識と技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：模型分析法の基本的な理論と術式を理解する。 個別目標：① PAR index の評価法の基礎的な知識を取得し説明できる。 ② PAR index の評価法の基本的手技を会得する。 ③ 自在鑲着の手技を習得する。						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	PAR index の評価法・実習説明				教員全員	
	2	PAR index の評価Ⅰ				"	
	3	PAR index の評価Ⅱ				"	
	4	自在鑲着				"	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。						
予習・復習	実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル						
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・ 矯正歯科治療学実習)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正治療学実習(1)		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	代表的な機能的装置 (F. K. O)、ホーレーの保定装置の作製を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：機能的装置 (F. K. O) およびホーレーの保定装置作製の技工操作を習得する。 個別目標：① 機能的装置 (F. K. O) およびホーレーの保定装置の基本的構造を理解する。 ② 機能的装置 (F. K. O) 作製の基本的技工操作ができる。 ③ ホーレーの保定装置作製の基本的技工操作ができる。						
	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	矯正装置の作成 1 FK0 I/ホーレーの保定装置 I					教員全員
	2	矯正装置の作成 2 FK0 II/ホーレーの保定装置 II					〃
	3	矯正装置の作成 3 FK0 III/ホーレーの保定装置 III					〃
	4	矯正装置の作成 4 FK0 IV/ホーレーの保定装置 IV					〃
	5	矯正装置の作成 5 FK0 V/ホーレーの保定装置 V					〃
	6	矯正装置の作成 6 FK0 VI/ホーレーの保定装置 VI					〃
	7	矯正装置の作成 7 FK0 VII/ホーレーの保定装置 VII					〃
	8	矯正装置の作成 8 FK0 VIII/ホーレーの保定装置 VIII					〃
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。						
予習・復習	実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル						
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験（筆答）と一括試験（筆答）により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・ 矯正歯科治療学実習)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正治療学実習(2)		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日-時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B4 講義室 B4 実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	代表的な緩速拡大装置(クウッドヘリックス)の作製を行う。						
学習の到達 目標	一般目標：緩速拡大装置(クウッドヘリックス)の作製の技工操作を習得する。 個別目標：① 構成咬合を理解し構成咬合器の使用法を習得する。 ② 緩速拡大装置(クウッドヘリックス)の基本的構造を理解する。 ③ 緩速拡大装置(クウッドヘリックス)作製の基本的技工操作ができる。						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	緩速拡大装置の作製1 クウッドヘリックスの設計				教員全員	
	2	緩速拡大装置の作製2 クウッドヘリックスのワイヤーベンディング1				"	
	3	緩速拡大装置の作製3 クウッドヘリックスのワイヤーベンディング2				"	
	4	緩速拡大装置の作製4 クウッドヘリックスの装着				"	
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。						
予習・復習	実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル						
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。						

授業科目	口腔保健発育学Ⅲ (矯正診断・ 矯正歯科治療学実習)		授業担当	北浦 英樹			
授業細目	矯正診断学実習(1)		責任者	顎口腔矯正学分野			
曜日一時限	木-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN317J
授業の目標 並びに目的 と概要	矯正診断に必要な知識と技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：矯正診断に必要な知識と技術を習得する。 個別目標：① 矯正歯科診断に必要な検査に関して理解する。 ② 矯正歯科診断に必要な分析の基本的な手技を会得する。 ③ 分析結果を評価できる知識を会得し診断の技術を習得する。						
	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	オリエンテーション 症例診査Ⅰ(第1回検査)					教員全員
	2	症例診査Ⅱ 第1回検査(パノラマおよびX線写真所見)					〃
	3	症例診査Ⅲ 第1回検査(模型分析)					〃
	4	症例診査Ⅳ 第1回検査(セファロ分析1/講義・トレーシング)					〃
	5	症例診査Ⅴ セファロ分析2(講義・計測点および基準平面の設定)					〃
	6	症例分析Ⅵ セファロ分析3(図形分析、角度計測、線計測)					〃
	7	症例分析Ⅶ セファロ分析まとめ					〃
	8	症例分析Ⅷ 成長分析					〃
アドバイス	7セメスターの「歯科矯正学」の講義内容を復習しておくこと。						
予習・復習	実習最初に行われるオリエンテーションの際に配布される下記の歯科矯正学実習マニュアルを実習前に熟読して理解しておくことは必須である。また、実習後、同じく下記の歯科矯正学実習マニュアルをもとに復習を行い、理解を深めておくことと心得ておくこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科矯正学実習マニュアル						
成績評価の方法	ステップ毎に行う小試験(筆答)と一括試験(筆答)により評価する。						

授業科目	口腔病態外科学 I (口腔診断・放射線学)		授業担当	笹野高嗣			
授業細目	放射線物理学		責任者	口腔診断学分野			
曜日・時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線（とくに엑스線）の性質について理解する。</p> <p>概要：放射線について理解し、放射線を利用する際の利益と不利益（害）について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔診断学における放射線物理学の役割について理解し実践する。</p> <p>個別目標：① 放射線の定義について説明できる。 ② 放射線の性質について説明できる。 ③ 放射線を利用することの利益と不利益（害）について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	放射線って何？ (身近な放射線、放射線の歴史、放射線利用の利益と不利益（害）、医学と放射線)					笹野 高嗣
	2	엑스線って何？ (原子の構造、엑스線と放射線、엑스線と電磁波、엑스線の発生)					飯久保 正弘
	3	엑스線の性質、엑스線の減弱、 엑스線と物質との相互作用					飯久保 正弘
	4	歯科用엑스線撮影装置、写真処理、デジタル画像					飯久保 正弘
	5	엑스線画像の成り立ち、画像診断のコツ					笹野 高嗣
アドバイス	物理が苦手な学生にもわかりやすいように、当分野ではやさしいテキストを作成しています。コンピュータを用いたビジュアルな講義で、臨床例をたくさん供覧しますから講義には必ず出席してください。						
予習・復習	当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 6 th edition) を無料で配布する。このテキストを用いて予習復習するとよい。						
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 						
成績評価の方法	<p>授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。</p> <p>出席は特に厳しく評価する。</p> <p>毎回、小テストを行う。</p>						

授業科目	口腔病態外科学 I (口腔診断・放射線学)		授業担当	笹野高嗣			
授業細目	放射線物理学		責任者	口腔診断学分野			
曜日・時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線（とくにエックス線）の性質について理解する。</p> <p>概要：放射線について理解し、放射線を利用する際の利益と不利益（害）について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔診断学における放射線物理学の役割について理解し実践する。</p> <p>個別目標：① 放射線の定義について説明できる。 ② 放射線の性質について説明できる。 ③ 放射線を利用することの利益と不利益（害）について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	放射線って何？ (身近な放射線、放射線の歴史、放射線利用の利益と不利益（害）、医学と放射線)					笹野 高嗣
	2	エックス線って何？ (原子の構造、エックス線と放射線、エックス線と電磁波、エックス線の発生)					飯久保 正弘
	3	エックス線の性質、エックス線の減弱、 エックス線と物質との相互作用					飯久保 正弘
	4	歯科用エックス線撮影装置、写真処理、デジタル画像					飯久保 正弘
	5	エックス線画像の成り立ち、画像診断のコツ					笹野 高嗣
アドバイス	物理が苦手な学生にもわかりやすいように、当分野ではやさしいテキストを作成しています。コンピュータを用いたビジュアルな講義で、臨床例をたくさん供覧しますから講義には必ず出席してください。						
予習・復習	当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 6 th edition) を無料で配布する。このテキストを用いて予習復習するとよい。						
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 						
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。						

授業科目	口腔病態外科学 I (口腔診断・放射線学)		授業担当	笹野高嗣			
授業細目	画像診断学		責任者	口腔診断学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 疾患を的確に診断するために必要な画像検査法の特徴と適応について学習し画像を解釈する。</p> <p>概要: 歯科放射線学の基礎および臨床の概論について学び、画像診断に必要な知識および技術を習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 口腔診断学における画像診断の役割について理解し実践する。</p> <p>個別目標: ① 画像診断の目的を説明できる。 ② 画像検査法及び適応症について説明できる。 ③ 問診、臨床所見、検査所見をもとに総合的に疾患を診断することを理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	放射線診断学・画像診断学				飯久保 正弘	
	2	放射線物理学・放射線管理学・放射線治療学				阪本 真弥	
	3	歯科放射線撮影学				飯久保 正弘	
	4	検査診断学				庄司 憲明	
5	口腔診断学				庄司 憲明		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 疾患を診断するために画像情報は必要不可欠である。様々な画像診断の特徴および適応について十分に理解し、臨床に役立ててほしい。 ● 授業へのモチベーションを高めるために、授業前に毎回小テストを行う。授業には必ず出席し、配布するテキストを用いて復習を行うこと。 ● 授業では学生に対して質問を行い、その回答をみて授業を工夫する(双方向的授業)。ためらわずに自分の考えを発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の16:30-17:20にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば授業担当者の部屋(C棟6階)に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	当分野では、学生に分かりやすいテキスト(Oral Diagnosis and Radiology 6 th edition)を無料で配布する。このテキストを用いて予習復習するとよい。						
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第5版 医歯薬出版株式会社 						
成績評価の方法	授業への出席、態度および筆記試験等を参考に総合的に評価する。 出席は特に厳しく評価する。 毎回、小テストを行う。						

授業科目	口腔病態外科学 I (口腔診断・放射線学)		授業担当	笹野高嗣			
授業細目	画像診断学		責任者	口腔診断学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室 B2実習室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：疾患を正しく診断するために、歯科臨床で用いられるエックス線画像の正常像および病態像の読影能力を身につけ、画像を解釈することができる。</p> <p>概要：画像診断の重要性について学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：解剖学的構造がどのように画像所見として現れるかについて理解する。</p> <p>個別目標：① 画像の正常像について解釈できる。 ② 画像の異常像について説明できる。 ③ 画像の異常像と疾患の特徴について理解できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口内法正常像				当分野教員全員	
	2	口内法病態像				当分野教員全員	
	3	口外法正常像				当分野教員全員	
	4	口外法病態像				当分野教員全員	
アドバイス	<p>歯科臨床において、エックス線写真は疾患の診断と治療効果の判定に必要不可欠である。エックス線写真の読影の基礎を十分に身につけ臨床に役立ててほしい。</p>						
予習・復習	<p>当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 6th edition) を無料で配布する。このテキストを用いて予習復習するとよい。</p>						
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 ・歯科臨床における画像診断アトラス (日本歯科放射線学会)、医歯薬出版株式会社 ・臨床イメージノート (小林馨、笹野高嗣ら)、永末書店 						
成績評価の方法	<p>実習態度および実習成績等を参考に評価する。</p>						

授業科目	口腔病態外科学 I (口腔診断・放射線学)		授業担当	笹野高嗣			
授業細目	口腔診断学		責任者	口腔診断学分野			
曜日-時限	火-3・4	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義室	科目番号	DDE-DEN318J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 疾患を的確に診断するための臨床診断および画像診断のプロセスについて習得し全人的かつ論理的な診断能力を身につける。</p> <p>概要: 問診、臨床所見、検査所見から疾患を診断するプロセスについて学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 問診、臨床所見、検査所見の重要性について理解する。</p> <p>個別目標: ① 患者さんを大切にされた医療面接ができる。 ② 全人的見地から疾患を診断する知識・技術・態度を身につける。 ③ 治療方針および予後について説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	歯および歯周組織の診断					庄司 憲明
	2	顎骨の診断 (奇形、外傷、炎症)					庄司 憲明
	3	顎骨の診断 (嚢胞、腫瘍)					庄司 憲明
	4	顎関節の診断					庄司 憲明
	5	鼻腔・副鼻腔の診断					阪本 真弥
	6	口腔粘膜の診断					菅原 由美子
	7	味覚障害とドライマウスの診断と口腔内科的治療					佐藤 しづ子
	8	検査診断学					庄司 憲明
	9	医療面接の基礎 (実習を含む)					当分野教員全員
アドバイス	問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える歯科医師」を目指してほしい。ここでは診断のプロセスについてわかりやすく解説する。						
予習・復習	当分野では、学生に分かりやすいテキスト (Oral Diagnosis and Radiology 6 th edition) を無料で配布する。このテキストを用いて予習復習するとよい。						
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・Oral Diagnosis and Radiology 6th edition (当分野オリジナル) ・歯科放射線学第5版 (古本啓一、山本昭、岡野友宏 編集) 医歯薬出版株式会社 						
成績評価の方法	<p>授業への出席、態度および筆記試験等を参考に評価する。</p> <p>出席は特に厳しく評価する。</p> <p>毎回、小テストを行う。</p>						

授業科目	口腔病態外科学 II		授業担当	高橋 哲			
授業細目	口腔外科領域に症状を生じる全身疾患と機能異常		責任者	顎顔面・口腔外科学分野			
曜日一時限	月- 1 水- 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN319J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：全身疾患が原因で口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患と症候群を診断できる。</p> <p>概要：口唇・口腔・顎顔面の各種疾患に対するリハビリテーションを理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：全身疾患が原因で口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患と症候群を診断できる。</p> <p>個別目標：① 各種疾患と症候群を理解する。</p> <p>② 各種疾患における機能障害を理解し、リハビリテーションの種類を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1~4	口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患(症候群を含む)				佐藤修一、野上晋之介、川井 忠、片岡良浩	
	5~8	口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害とリハビリテーション				松井桂子、山内健介	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C棟5階）に気軽に質問に来るように。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法、医科との連携について理解して欲しい。 						
予習・復習	全身疾患や成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。						
テキスト・教材・参考書等	口腔外科専門医マニュアル(医歯薬出版) 現代口腔外科学(エルゼビアジャパン)						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態外科学 II		授業担当	高橋 哲			
授業細目	口腔外科領域に生じる各種疾患 2		責任者	顎顔面・口腔外科学			
曜日一時限	月-1 水-1	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2, 4講 義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的： 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患で、特に専門的な治療を要する疾患の病態、診断と治療について理解させる。</p> <p>概要： 口腔顎顔面領域の先天異常、後天異常の疾患の種類、特徴について理解させる。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する疾患で、特に専門的な治療を要する疾患の病態、診断と治療について理解する。</p> <p>個別目標：口腔顎顔面領域の先天異常、後天異常の疾患の種類、特徴について理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～4	口腔顎顔面領域の先天異常				松井桂子、高橋 哲	
	5～9	口腔顎顔面領域の後天異常				山内健介	
	10～18	口腔顎顔面領域の腫瘍				森 士朗、宮下 仁	
	19～21	唾液腺疾患				森 士朗	
	22	補綴前処置				高橋 哲	
	23～26	口腔顎顔面領域の神経性疾患と口腔顔面痛				千葉雅俊、樋口恵介	
	27・28	歯科心身症				千葉雅俊	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の 17:00-18:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋 (C 棟 5 階) に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	下記に示す成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づく、治療法を理解して欲しい。						
テキスト・教材・参考書等	<p>最新口腔外科学 (総論・各論) 口腔外科学 (宮崎 正)</p> <p>MGH 口腔外科マニュアル</p> <p>口腔外科ハンドマニュアル (クインテッセンス出版)</p> <p>OFP を知る サイコ・デンティストリー</p>						
成績評価の方法	出席状況 (講義・実習), 実習プロダクト, TBL (チーム基盤型学習) 内容および定期試験結果を総合評価する。筆記試験は、総論および各論を併せて行う。						

授業科目	口腔病態学 III		授業担当	高橋 哲			
授業細目	口腔外科疾患の診察と臨床検査学		責任者	顎顔面・口腔外科学分野			
曜日一時限	火- 1・2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口唇・口腔・顎顔面領域に症状を生じる各種疾患を診断するために必要な基本的診察と各種検査について理解させる。</p> <p>概要：基本的診察方法、臨床検査、画像診断、有病者歯科治療を学ぶ</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：基本的診察と各種検査について理解する。</p> <p>個別目標：① 病歴の聴取と身体所見の記載について理解する。 ② 臨床検査の意義およびその概要を理解する。 ③ 画像診断について理解する。 ④ 有病者歯科治療を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	口腔外科学総論（口腔外科学診断法）				高橋 哲	
	2, 3	口腔外科疾患の基本的診察（病歴採取と身体所見の記載法）				森 士朗	
	4~7	臨床検査学（血液、生化学、血清、尿、心電図）				下田 元	
	8	口腔顎顔面領域の疾患に対する画像診断法				千葉雅俊	
9	有病者の口腔外科処置				下田 元		
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 口腔外科の基本となる診察法と臨床検査、画像診断について学ぶ重要な講義となる。 ● 授業への出席者のみに資料を配布する。必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の17:00-18:00にoffice hourを設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C棟5階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	下記のテキストを参考に、主要な診断方法にどのようなものがあるのかを予習して欲しい。また講義の内容を整理して覚えること。						
テキスト・教材・参考書等	新口腔外科学（総論・各論） 口腔外科学（宮崎 正） MGH 口腔外科マニュアル 臨床検査法提要（改訂第32版） 臨床研修イラストレイテッド基本手技「診察と検査」						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態学 III		授業担当	高橋 哲			
授業細目	口腔外科領域に生じる各種疾患 1、インプラント		責任者	顎顔面・口腔外科学分野			
曜日-時限	火-1,2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN319J DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する頻度の高い疾患の病態、診断と治療について理解させる。歯科インプラント治療のうち、外科について理解させる。</p> <p>概要：炎症性疾患、アレルギー、口腔粘膜疾患、外傷、顎関節疾患、デンタルインプラント</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口唇・口腔・顎顔面領域に症状を呈する頻度の高い疾患の病態、診断と治療について理解する。</p> <p>個別目標：① 炎症・アレルギー疾患について理解する。 ② 口腔粘膜疾患の種類と特徴を理解する。 ③ 外傷の診断と治療を理解する。 ④ 顎関節疾患の診断と治療を理解する。 ⑤ インプラントの外科治療を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	10~15	口腔顎顔面領域の炎症とアレルギー				森 士朗	
	16~19	口腔粘膜疾患				森 士朗	
	20, 21	口腔顎顔面領域の嚢胞				宮下 仁	
	22~25	口腔顎顔面領域の外傷				山内健介	
	26~29	顎関節疾患				千葉雅俊	
	30	デンタルインプラント				高橋 哲	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常臨床で遭遇する基本的な外科疾患の診断と治療を学ぶ大切な講義である。 ● 授業への出席者のみに資料を配布する。必ず出席し、遅刻、居眠りなどしないように。 ● 授業中でも不明な点があれば積極的に質問することが学生全員のより深い理解につながる。ためらわずに発言すること。 ● 授業期間中、授業当日の 17:00-18:00 に office hour を設ける。授業内容について質問があれば前もって連絡の上授業担当者の部屋（C 棟 5 階）に気軽に質問に来るように。 						
予習・復習	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法を理解して欲しい。						
テキスト・教材・参考書等	<p>最新口腔外科学（総論・各論） 口腔外科学（宮崎 正） インプラント外科手術のスキルアップ ， インプラントのための骨造成法（医学情報社） 口腔外科ハンドマニュアル（クインテッセンス出版） TMD を知る</p>						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態学 III		授業担当	高橋 哲			
授業細目	手術学総論・各論 偶発症		責任者	顎顔面・口腔外科学分野			
曜日・時限	金-2	対象年次 学期	4年次 7セメスター	講義室名	B2 講義室	科目番号	DDE-DEN320J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：手術の適応と禁忌、消毒と滅菌の概念を理解させる。</p> <p>概要：抜歯を中心とした口腔外科手術の適応と患者への対応を学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：手術の適応と禁忌、消毒と滅菌の概念を理解する。</p> <p>個別目標：① 手術の器具を理解する。 ② 各種手術の特徴を理解する。 ③ 抜歯の方法および偶発症を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	手術学総論				高橋 哲	
	2~7	手術学各論（抜歯と歯牙移植および小手術）				山内健介、 宮下 仁、 森 士朗	
	8	抜歯と偶発症				野上晋之介	
アドバイス	手術に際して口腔顎顔面領域の解剖の知識の大切さを理解する。 抜歯その他の手術に対する準備項目を覚える。						
予習・復習	成書で予習しておくことで、講義の理解が深まる。各種疾患の病態と診断に基づいた治療法を理解して欲しい。						
テキスト・教材・参考書等	図説：口腔外科手術学（上・中・下）、抜歯の臨床						
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数						

授業科目	口腔病態外科学ⅣA		授業担当	正木英二			
授業細目	歯科麻酔学Ⅰ（臨床生理と麻酔・全身管理の基礎）		責任者	歯科口腔麻酔学分野			
曜日-時限	金-1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	B2講義 室	科目番号	DDE-DEN321J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：麻酔・全身管理に必要な生理・薬理を理解する。 概要：麻酔学の概論について説明を受け、周術期全身管理に必要な生理学・薬理学の流れを学ぶ。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：麻酔管理に必要な麻酔関連薬と周術期管理に必要な臓器の生理学・薬理学を学ぶ。 個別目標：① 麻酔関連薬の作用、役割を理解する。 ② 重要臓器の役割その生理的な働きを説明できる。 ③ 麻酔関連薬の重要臓器に与える影響について説明できる。</p>						
	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1	麻酔医学総論					正木英二
	2	静脈麻酔薬					的場あつ子
	3	吸入麻酔薬					正木英二
	4	局所麻酔薬					水田健太郎
	5	筋弛緩薬					城戸幹太
	6	歯科領域における局所麻酔法					安田真
	7	循環生理と麻酔					水田健太郎
	8	呼吸生理と麻酔					的場あつ子
	9	中枢神経と麻酔					安田真
	10	自律神経系生理薬理と麻酔					城戸幹太
	11	歯科領域の痛みへの対					山内正憲 医学系研究科
	12	免疫系と麻酔					城戸幹太
	13	小児の循環と呼吸生理					蔵谷紀文 埼玉小児医療センター
	14	血管内液と電解質、血液凝固系生理と麻酔					安井豊 厚木病院
	15	肝、腎、内分泌生理と麻酔					的場あつ子
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 成書その他による予習を行ってから授業に臨むことが望ましい。 ● 麻酔・全身管理を行ううえで生理学・薬理学は必須の基礎知識であるため、もう一度生理学・薬理学の概要を理解したうえで授業に臨む。 ● 歯科口腔領域に必要な基礎生理以外の生理学・薬理学が必要であることを理解し麻酔の実際を学ぶ。 ● 本授業を十分に理解したうえで、歯科麻酔学Ⅱ（5年次1学期）を受講する。 						
予習・復習	限られた授業時間内で理解を深めるためには、麻酔学の教科書および生理学・薬理学の教科書による予習・復習は必須である。内容を理解しないまま授業が進むとさらなる理解不足が生じるため、十分な予習・復習をもって授業に臨むこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学（医歯薬出版）・標準生理学（医学書院）						
成績評価の方法	本授業終了後は試験を行わず、歯科麻酔学Ⅱ（5年次1学期）終了後に本授業分もまとめて筆記試験で評価する。						

授業科目	口腔病態外科学IVB		授業担当	正木英二			
授業細目	歯科麻酔学Ⅱ (麻酔・全身管理の臨床)		責任者	歯科口腔麻酔学分野			
曜日・時限	金-1	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A3講義 室	科目番号	DDE-DEN321J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：麻酔、周術期全身管理の臨床ならびに救急蘇生法を理解する。</p> <p>概要：実際の周術期管理に必要な麻酔ならびに管理方法を学ぶ。この中には様々な疾患を持った患者さんの管理が含まれ、したがってこれら疾患の治療法等について知識を習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：実際に臨床で用いられるの麻酔法、周術期管理を学ぶ。</p> <p>個別目標：① 実際の麻酔方法の適応とその手順をを説明できる。 ② 手術を受けられる患者が持つ合併症について理解する。 ③ 救急蘇生法を理解し説明できる。</p>						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	術前評価麻酔管理				正木英二	
	2	気道管理				水田健太郎	
	3	モニタリング				城戸幹太	
	4	体液管理				的場あつ子	
	5	神経鎮静法				安田真	
	6	外来、障害者、歯科麻酔の特殊性				水田健太郎	
	7	循環、呼吸器合併症を持った患者の麻酔				正木英二	
	8	小児、高齢者の麻酔				的場あつ子	
	9	長期予後と麻酔				加藤正人 国際医療福祉大学	
	10	ショックと救急蘇生				水田健太郎	
	11	血液疾患、凝固障害を持った患者の麻酔				安田真	
	12	肝・腎合併症ならび糖尿病を持った患者の麻酔				安井豊 厚木病院	
	13	アナフィラキシーショック				輪嶋善一郎 東京医大	
	14	体温異常と悪性高熱症				天笠澄夫 済生会栗橋病院	
	15	術後管理と麻酔合併症				城戸幹太	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 歯科麻酔Ⅰで学んだ基礎知識が授業の理解に必須である。 ● これまで学んだ麻酔・全身管理の基礎および臨床の知識に基づき、救命救急や疼痛管理といった関連病態への対応を学ぶ。 ● 多くの内科的知識が必要となってくるため、隣接医学で学んだ、特に、循環、呼吸、神経、肝、腎疾患の病態生理等を復習してくるのが望ましい。 						
予習・復習	限られた授業時間内で理解を深めるためには、麻酔学の教科書および生理学・薬理学・内科学の教科書による予習・復習は必須である。内容を理解しないまま授業が進むとさらなる理解不足が生じるため、十分な予習・復習をもって授業に臨むこと。						
テキスト・教材・参考書等	歯科麻酔学(医歯薬出版)・標準生理学(医学書院)全身管理・麻酔マニュアル(口腔保険協会)、新薬理学入門(南山堂)						
成績評価の方法	筆記試験で評価する。						

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由			
授業細目	医の原則と社会との関わり		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：適切な歯科医療を社会で実践するために、歯科医師の基本的理念と関連法規の知識および法歯学の概要を習得する。</p> <p>概要：歯科医師として社会での医療保健活動を実践する際に必要な、医療人としての基本的理念と守るべき関連法規等の社会の決まりと法歯学を学習する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：歯科医師の基本的理念と関連法規、法歯学を理解する。</p> <p>到達目標：① 歯科医師の基本的理念と医の原則を説明する。 ② 歯科関連法規とその項目を列挙する。 ③ 法歯学の意義を説明する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	歯科医師としての基本的な考え方や倫理観を養い、歯科医師が必要な基本的な医の原則を身につける				眞木 吉信 (東京歯科大学)	
	3・4	医療法、歯科医師法等の医事法制の理解 社会保障制度と医療保険制度の理解				"	
	5・6	災害時における個人識別の方法と歯科医師の果たすべき役割など主題として歯科法医学を解説する				鈴木 敏彦	
	7・8	現在における最先端の法歯学研究を紹介し、社会との関わり合いを解説する				舟山真人 (医学系研究科)	
アドバイス	<p>医療人は、人の命を預かる使命から、確実に理解し行動しなければならない医の原則を守り通さなければならない。歯科医師も、他の多くの医療系職種と同様にその責務を持つ。さらに、歯科医療特有の様々な関連法規や決まり事があるので、これも完全に理解しなければならない。歯科医療を行い基本の心構えの授業であるので、内容を確実に学ぶこと。</p> <p>東日本大震災時には、歯科医師は医療救護を行う一方で、身元確認の業務も実施した。法歯学は急な事変が起きた場合に対応しなければならない分野であるので、その基本を理解すること。</p> <p>本授業に関する様々なニュースや話題がメディア上で時折注目を浴びている。これらの情報を良く理解し、社会における歯科医師の責務を深く考察して欲しい。これは授業の理解を深めるであろう。</p>						
予習・復習	<p>予習は、法規等の概念的な内容が多くを占めることから、指定許可書の該当部分を確実に理解してから授業に臨むこと。授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	スタンダード社会歯科学（石井拓男、岡田真人、尾崎哲朗、平田幸夫編集）、学建出版						
成績評価の方法	出席状況、およびレポートを総合評価する。						

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由			
授業細目	歯科の歴史と現在の医療		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：現在までの医療の歴史を学び、歯科医療保健を歴史面から理解する。</p> <p>概要：医療の歴史を学ぶことから、医療の本質を考え、さらに現行の医療システムへ視線を移すことで、日本の医療の特徴と問題点、歯科管理学を把握する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：医の成り立ちと歴史、現在の歯科管理学を理解する。</p> <p>到達目標：① 主な歯学史の出来事を列挙する。 ② 日本の医療制度を説明する。 ③ 歯科管理学の項目を列挙する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	ヒポクラテス「医療とは何か」				永田 和弘 (永田歯科医院)	
	2	咬合器の歴史				"	
	3	レオナルド・ダ・ヴィンチ「解剖学」				"	
	4	パーシャルデンチャーの歴史				"	
	5・6	歯科管理学総論。				眞木 吉信 (東京歯科大学)	
7・8	歯科管理学の実際と問題点。				"		
アドバイス	<p>歯科の歴史を訪ねる旅は、あなた自身を訪ねる旅である。講義を通して千年前のあなた自身を見いだすであろう。歯科学には種々の素質・才能の分野が用意されているので、あなたは歯科学という場で必ず生かされる。</p> <p>歯科に関わる様々なニュースや話題がメディア上で注目を浴びている。これらの情報を良く理解することは授業の理解を深めるであろう。</p>						
予習・復習	<p>予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応、関連法規等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	授業に際して指定する。						
成績評価の方法	出席状況、およびレポートを総合評価する。						

授業科目	社会歯科学		授業担当	小関 健由			
授業細目	医療保障と歯科		責任者	予防歯科学分野			
曜日-時限	月-3・4	対象年次 学期	3年次 6セメスター	講義室名	B1講義室	科目番号	DDE-DEN231J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科医業を行うために、日本の医療システムと医療保障を理解する。</p> <p>概要：歯科医業を行う際に必須である医療システムと医療保障の仕組みを理解すると共に、世界の医療事象を把握して日本の医療をグローバルな視点から理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：日本の医療システムと医療保障を理解する。</p> <p>到達目標：① 日本の医療システムを説明できる。 ② 日本の医療保障の制度を説明できる。 ③ グローバルな視点から日本の医療の特徴を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1・2	国際協力のあり方について				小坂 健	
	3・4	社会保障制度・医療保障と歯科保健				小坂 健	
アドバイス	<p>歯科医師は多彩な国際的活動を実践している。これらの活動をとおして、日本の歯科医療をグローバルな視点から見つめた場合の特徴と問題点を理解する。さらに、社会保障制度・医療保障を理解し、歯科医療・保健のあり方を考える。</p> <p>本講義の話題に関する様々なニュースや話題がメディア上で注目を浴びている。これらの情報を良く理解して欲しい。これは授業の理解を深めるであろう。</p>						
予習・復習	<p>予習は、授業内容のキーワードを情報検索し、社会の話題とそれに対する社会や行政の対応等を確認すること。授業後の復習は、教科書から系統的に知識を確認すること。</p>						
テキスト・教材・参考書等	授業に際して指定する。						
成績評価の方法	出席状況、およびレポートを総合評価する。						

授業科目	隣接医学		授業担当	若森 実			
授業細目			責任者	学部教務委員会			
曜日一時限	9セメスター:水- 1・2 9セメスター:木- 1・2 10セメスター:月-1・2・3・4 10セメスター:火- 1・3・4	対象 年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A1講義室 B1講義室	科目番号	DDE-DEN333J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 歯科医療を全身からとらえ、全身と口腔との関連を理解させる。</p> <p>概要: 内科学及び外科学を学ぶとともに、歯学領域と関連が深く歯科医療を遂行する上で必要となる耳鼻咽喉科学、眼科学、皮膚科学、小児科学、婦人科学及び精神科学等を統合的に学ぶ。これらの講義においては、頻度の高い疾患に関する確実な知識と口腔領域との関連性を理解するとともに、治療上の留意点を学ぶ</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 歯科医療を全身からとらえ、全身と口腔との関連を把握する。</p> <p>個別目標: ① 内科学的な観点から、全身と口腔との関連を説明できる。 ② 外科学的な観点から、全身と口腔との関連を説明できる。 ③ 耳鼻咽喉科学、眼科学、皮膚科学等、隣接医学の観点から口腔との関連を説明できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	詳細は、別途通知する。					
アドバイス	授業には必ず出席すること。						
予習・復習	範囲が膨大であるため、復習を欠かさないこと。						
テキスト・教材・参考書 等	別途指示する。						
成績評価の方法	出席及び試験により評価する。						

授業科目	総合歯科学		授業担当	菊池 雅彦			
授業細目	態度・臨床技能実習(1)		責任者	総合歯科診療部			
曜日一時限	金-3・4・5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 歯科外来	科目番号	DDE-DEN334J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 臨床実習に参加する学生に必要とされる態度と基本的臨床技能を習得する。同時に、コア科目の知識を整理する。</p> <p>概要: 臨床実習を開始するために必須の臨床能力を実習によって習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 臨床実習に必要な基本的臨床能力を習得する。</p> <p>個別目標: ① 医療面接ができる。 ② 患者への説明・指導ができる。 ③ 基本的な臨床手技ができる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	総合歯科学オリエンテーション、共用試験(CBT/OSCE)について (B3 講義室にて)					菊池 雅彦 CBT 実施責任者、 OSCE 実施責任者
	3・4	ブラッシング指導、フッ化物塗布					予防歯科
	5・6	初診患者の医療面接(急性症状/慢性症状)、口腔内状態の記録					口腔診断科
	7・8	エックス線撮影の説明、エックス線写真の取扱いと読影					口腔診断科
	9・10	バイタルサイン、心肺蘇生					歯科麻酔疼痛管理科
	11・12	概形印象採得、テンポラリークラウンの作製					咬合修復科、 咬合回復科、 高齢者歯科治療部
	13・14	欠損補綴の治療方針の説明、支台歯形成、レストシートの形成					咬合修復科、 咬合回復科、 高齢者歯科治療部
アドバイス	実習の順番は担当科・部の都合により変更することがあるので、初回オリエンテーションで配布する授業日程に従うこと。						
予習・復習	下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修した科目についてしっかりと復習すること。						
テキスト・教材・参考書 等	臨床実習開始前の「共用試験」第14版(平成28年)(初回に必ず持参のこと)その他適宜紹介する。						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、共用試験(CBT/OSCE)の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。						

授業科目	総合歯科学		授業担当	菊池 雅彦			
授業細目	態度・臨床技能実習(2)		責任者	総合歯科診療部			
曜日一時限	金-3・4・5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	B3講義室 B3実習室 歯科外来	科目番号	DDE-DEN334J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的: 臨床実習に参加する学生に必要とされる態度と基本的臨床技能を習得する。同時に、コア科目の知識を整理する。</p> <p>概要: 臨床実習を開始するために必須の臨床能力を実習によって習得する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標: 臨床実習に必要な基本的臨床能力を習得する。</p> <p>個別目標: ① 医療面接ができる。 ② 患者への説明・指導ができる。 ③ 基本的な臨床手技ができる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者
	1・2	保護者へのブラッシング指導、予防填塞					小児歯科
	3・4	保隙装置の説明、矯正装置の説明					小児歯科、 矯正歯科
	5・6	歯周病の病状の説明、スケーリング・ルートプレーニング、ラバーダム防湿、根管治療					歯内療法科、 歯周病科
	7・8	浸潤麻酔、レジン充填、修復用隔壁の装着、う蝕象牙質の除去					総合歯科診療部、 保存修復科
	9・10	縫合、頭頸部の診察					歯科顎口腔外科
	11・12	手洗いと滅菌グローブの着用、普通抜歯					歯科顎口腔外科
	13・14	CBT :平成29年7月13日(木)					CBT 実施責任者
	15・16	OSCE:平成29年7月22日(土)					OSCE 実施責任者
アドバイス	実習の順番は担当科・部の都合により変更することがあるので、初回オリエンテーションで配布する授業日程表に従うこと。						
予習・復習	下記資料の課題と学習目標について、よく予習しておくこと。履修した科目についてしっかりと復習すること。						
テキスト・教材・参考書 等	臨床実習開始前の「共用試験」第14版(平成28年)(初回に必ず持参のこと)その他適宜紹介する。						
成績評価の方法	出席状況、履修態度、共用試験(CBT/OSCE)の成績を基に総合的に評価する。共用試験の合格を単位修得の要件とする。						

授業科目	アドバンス I (生体材料学)		授業担当	高田 雄京			
授業細目	生体材料科学		責任者	歯科生体材料学分野			
曜日一時限	火-2	対象年次 学期	4年次 8セメスタ ー	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN801J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科医療の最前線で使われる歯科生体材料やデバイスの基礎を理解し、材料の特性を踏まえた臨床応用を学習する。。						
学習の到達 目標	歯科医療の最前線で使われる歯科生体材料やデバイスの基礎及び材料特性を踏まえた臨床応用例を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1~5	総論 -チタンとチタン合金の基礎と応用				高田雄京、高橋正敏 (歯科生体材料学分野)	
	6・7	チタンの生体反応、表面性状と表面処				埜 隆夫 (東京医科歯科大学)	
	8・9	生体用磁性材料とデバイス				高田雄京 (歯科生体材料学分野)	
	10	生体用高分子材料				細谷 誠 (東北医科薬科大学病院)	
	11	臨床と材料1 (インプラントの補綴臨)				笠原 紳 (薬師堂歯科)	
	12	臨床と材料2 (臨床における歯科材料のアレルギー)				佐藤秀樹 (荒町さとう歯科医院)	
	13	歯科における次世代の加工法 (CAD/CAM)				菊地聖史 (鹿児島大学)	
	14	臨床病理における生体材				清水良央 (口腔病理学分野)	
	15	歯科材料の安全				平 雅之 (岩手医科大学歯学部)	
アドバイス	興味のある先端技術があればインターネットなどで情報を収集し、講義に出席すること。出席を重視する講義なので欠席しないこと。						
予習・復習	講義後は、配布資料をファイルし、重要事項をノートにまとめること。						
テキスト・教材・参考書等	赤川安正、他編、よくわかる口腔インプラント学、医歯薬出版、 Dental Materials and Their Selection Third Edition (Quintessence Publishing Co, Inc) 等						
成績評価の方法	レポート、出席率、小テストなど						

授業科目	再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ		授業担当	笹野 泰之 顎口腔形態創建学分野			
授業細目	再生・創建医歯学Ⅰ・Ⅱ		責任者	鈴木 治 顎口腔機能創建学分野			
曜日-時限	火-1,2	対象年次 学期	9セメスター	講義室名	B3 講義室	科目番号	DDE-DEN811J DDE-DEN812J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：プレ大学院授業として、再生・創建医歯学の基盤となる研究を分かり易く紹介し、さらに関連する学術情報に自主的に触れさせることで研究意識を涵養する。</p> <p>概要：ティッシュ・バイオロジー（細胞組織生物学）とティッシュ・エンジニアリング（組織工学）に関する広範な研究分野の講義を受講し、さらに演習で関連する学術情報を収集して課題についてレポートを纏める。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：再生・創建医歯学の基盤となる学術情報に触れる。</p> <p>個別目標：① ティッシュ・バイオロジーの学術情報を概説できる。 ② ティッシュ・エンジニアリングの学術情報を概説できる。 ③ 関連する学術情報の収集方法を学ぶ。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容			担 当 者		
	1	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（1）			笹野泰之 中村恵 (顎口腔形態創建学分野)		
	2	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（2）			根本英二 (歯内歯周治療学分野)		
	3	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（3）			福島秀文 (先端再生医学研究センター)		
	4	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（4）			犬塚 博之 (先端再生医学研究センター)		
	5	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（5）			高井俊行 (加齢医学研究所・遺伝子 導入研究分野)		
	6	Ⅰ ティッシュ・バイオロジー（6）			網塚憲生 (北海道大学・大学院歯学 研究科)		
	7	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（1）			鈴木治		
	8	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（2）			穴田貴久 (顎口腔機能創建学分野)		
	9	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（3）			塩飽 由香利 (顎口腔機能創建学分野)		
	10	Ⅱ ティッシュ・エンジニアリング（4）			川下将一 (医工学研究科)		
11 以降	Ⅰ,Ⅱ 演習			笹野泰之 鈴木治			
アドバイス	● 新聞や科学雑誌等から各自の関心のある再生医歯学関連の情報を収集しておくことが望ましい。						
予習・復習	● 関心を持った内容について、自主的にさらに深く学んでほしい。教員への積極的な質問を歓迎する。						
テキスト・教材・参考書等	授業で随時紹介する。						
成績評価の方法	出席とレポート提出による。						

授業科目	アドバンスⅣ (口腔病態科学Ⅰ)		授業担当	○高橋 信博 真柳 弦 口腔生化学分野 課題解決型高度医療人材養成プログラム			
授業細目	イノバイティブ基礎歯学 コース		責任者				
曜日-時限	火- 1	対象年次 学期	4年次 8セメスター	講義室名	A1講義室 B3実習室	科目番号	DDE-DEN813J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的:健康長寿を育むためのあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療について理解する。</p> <p>概要:5大学連携事業である課題解決型高度医療人材養成プログラム「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」のコア科目を中心に講義を行う。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標:将来の歯学・歯科医療のあり方について、具体的に考察できる。</p> <p>個別目標:①異分野融合型の歯学および先端歯科医療について説明できる。 ②正常な咀嚼・嚥下運動の遂行を担う生体機能について理解する。 ③要介護高齢者に対する歯科訪問診療と摂食嚥下支援を行うために必要な知識を習得する。 ④適切な患者対応を行うためのコミュニケーションに関する知識、技能、態度を習得する。 ⑤硬組織バイオロジーに関する知識を統合整理し、長寿社会における歯科医療の位置づけを確認する。 ⑥スポーツ歯学、周術期の歯科医療について理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	課題解決型高度医療人材養成プログラムが目指すこと				東北大学 真柳 弦	
	2	異分野融合型先端歯学・歯科医療:先端的歯科医療とは				東北大学 佐々木 啓一	
	3	異分野融合型先端歯学・歯科医療:異分野融合型歯学とは				東北大学 高橋 信博	
	4・5	摂食嚥下のメカニズム				新潟大学	
	6・7	地域連携と摂食支援				日本歯科大学	
	8・9	テイラード・コミュニケーション概論				東京歯科大学	
	10・11	長寿を支える硬組織バイオロジー				東京医科歯科大学	
	12・13	スポーツ歯学				東北大学 口腔システム補綴学分野	
14・15	周術期の歯科医療				東北大学病院 周術期口腔支援センター		
アドバイス	講義の内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。						
予習・復習	講義担当者より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
テキスト・教材・参考書等	講義担当者より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	出席、レポート等から総合的に判断する。 連絡先:真柳 弦 genm@dent.tohoku.ac.jp						

授業科目	アドバンスV (口腔病態外科学 II)		授業担当	高橋 哲 顎顔面・口腔外科学分野			
授業細目	口腔と全身		責任者				
曜日-時限	金-2	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	A3 講義室	科目番号	DDE-DEN814J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：口腔と全人的歯科医療を实践するために、口腔と全身との双方向的な関わりについて理解させる。</p> <p>概要：口腔病異変を引き起こす全身疾患、全身疾患を引き起こす口腔病変、全身疾患と口腔機能、顎機能、有病者、高齢者の治療、歯科疾患における全身的偶発症について学ぶ</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：口腔と全人的歯科医療を实践するために、口腔と全身との双方向的な関わりについて理解する。</p> <p>個別目標：① 口腔病異変を引き起こす全身疾患を理解する。 ② 全身疾患を引き起こす口腔病異変を理解する。 ③ 口腔機能および顎機能と全身の関係を理解する。 ④ 有病者、高齢者の特徴と歯科治療上の問題的を理解する。 ⑤ 歯科疾患における全身的偶発症を理解する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1 (4月8日)	全身疾患と口腔病変 1. 口腔病変を引き起こす全身疾患				笹野高嗣 (口腔診断学 分野)	
	2 (4月15日)	全身疾患と口腔病変 2. 全身疾患を引き起こす口腔病変				飯久保正弘 (口腔診断 学分野)	
	3 (4月22日)	全身疾患と口腔病変 3. 全身疾患と口腔粘膜病変				菅原由美子 (口腔診断 学分野)	
	4 (5月6日)	全身疾患と口腔病変 4. 全身疾患と口腔機能				佐藤しづ子 (口腔診 断学分野)	
	5 (5月13日)	口腔顎顔面の再建外科治療				高橋 哲 (顎顔面・口腔 外科学分野)	
	6 (5月20日)	顎顔面の変形・奇形と健康				山内健介 (顎顔面・口 腔外科学分野)	
	7 (5月27日)	顎関節の機能と疾患				千葉雅俊 (顎顔面・口 腔外科学分野)	
	8 (6月3日)	有病者・高齢者への治療				下田 元 (顎顔面・口腔 外科学分野)	
9 (6月10日)	口腔顎顔面領域の慢性痛				千葉雅俊 (顎顔面・口 腔外科学分野)		

10 (6月17日)	口腔癌と免疫機構	森 士朗 (顎顔面・口腔外科学分野)
11 (6月24日)	外来障害者歯科麻酔の特殊性	安田 真 (歯科口腔麻酔学分野)
12 (7月1日)	人工呼吸と術後管理	城戸幹太 (歯科口腔麻酔学分野)
13 (7月8日)	歯科治療における全身偶発症	安田 真 (歯科口腔麻酔学分野)
14 (7月15日)	予備	
アドバイス	身疾患の部分症状あるいは初発症状が口腔に現れることがある。逆に、口腔病変が原因となり全身疾患を引き起こす場合もある。全身と口腔の関わりを理解することは、診断および治療を行う上で重要である。	
予習・復習	下記テキストで該当部分の内容について予習、復習を行い理解を深める。	
テキスト・教材・参考書等	Oral Diagnosis and Radiology(口腔診断学分野製作) 有病者・高齢者歯科治療マニュアル(医歯薬出版)	
成績評価の方法	筆記試験、講義出席回数	

授業科目	合同講義		授業担当	五十嵐 薫			
授業細目			責任者	口腔障害科学分野			
曜日・時限	水-3・4	対象年次 学期	5年次 9 Semester	講義室名	A1 講義室	科目番号	DDE-DEN815J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科領域の疾患・治療等に関するテーマについて、複数の専門領域にわたる知識や問題点の総合的な理解を図り、学際的な問題への取り組み方、問題解決能力を習得する。基礎系及び臨床系複数分野の教員がそれぞれの立場から講義・解説する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科領域の疾患・治療等に関する諸問題への学際的な取り組みを理解する。 個別目標：① 歯科領域の疾患・治療等に関する学際的な背景や問題点を説明できる。 ② これらの学際的な問題への取り組み方や解決方法を説明できる。						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担当者
	1・2	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床					口腔障害科学
	3・4	顎関節症の疼痛、成因、診断、治療					加齢歯科学
	5・6	メカノバイオロジーの歯学臨床と基礎					顎口腔矯正学
	7・8	閉塞性睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療					口腔システム補綴学
	9・10	歯科用インプラントの臨床					顎顔面・口腔外科学
	11・12	摂食からのヘルスプロモーション 味覚障害と栄養障害について					口腔診断学
	13・14	歯周病巣局所における host-parasite interaction					歯内歯周治療学
	15・16	歯学発の医療機器・技術イノベーション (課題解決型高度医療人材養成プログラム講義)					佐々木 啓一
	17・18	口腔から始まる再生医療 (課題解決型高度医療人材養成プログラム講義)					福本 敏
	19・20	口腔が支える食と健康 (課題解決型高度医療人材養成プログラム講義)					若森 実
	21・22	異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション (課題解決型高度医療人材養成プログラム講義)					小関 健由
	23・24	社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理 (課題解決型高度医療人材養成プログラム講義)					小坂 健
アドバイス	講義の担当分野、内容、順番及び講義室は、都合により変更されることがある。						
予習・復習	講義担当分野より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
テキスト・教材・参考書等	講義担当分野より別途指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	担当教員の評価を集計して判定する。						

授業科目	合同講義		授業担当	○笹野 泰之 鈴木 敏彦				
授業細目	医の倫理・社会の倫理		責任者	歯学部教務委員会				
曜日・時限	木-3, 4	対象年次 学期	9セメスター	講義室名	B1 講義室	科目番号	DDE-DEN815J	
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：臨床実習を目前に控えた時期に、倫理観、社会性および職業観について深く考え将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持たせ、倫理観を醸成する機会とする。</p> <p>概要：学内外から招聘する多彩な講師の講義を受講し、「医療倫理」「生命倫理」「社会倫理」「研究倫理」に関して広く学ぶ。</p>							
学習の到達 目標	<p>一般目標：多彩な分野の講師から直接講義を受け、医療者として具備すべき倫理について学ぶ。</p> <p>個別目標：① 医療倫理、生命倫理の基本について概説できる。 ② 社会倫理、研究倫理の基本について概説できる。 ③ 将来の歯科医師、歯学研究者としての自覚を持つ。</p>							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容					担 当 者	
	1	医療倫理と医療安全 I					総合歯科診療部、予防歯科学、口腔診断学、歯科薬理学	
	2	医療倫理と医療安全 II					伊藤道哉（医学系研究科講師）	
	3	臨床倫理学と臨床死生学					清水哲郎（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）	
	4	先天異常にかかわる倫理					安田峯生（広島大学名誉教授）	
	5	遺伝学的検査の倫理					武藤香織（東京大学医科学研究所 教授）	
	6	薬害肝炎との闘い					山口美智子（薬害肝炎全国原告団代表）	
	7	聴覚障害者の立場から歯科医療に望むこと					松崎 文（宮城教育大学 准教授）	
	8	新生児の倫理：生と死の臨床における歯科医療					武田康男（東アジアグリーフの集い 代表）	
	9	学術研究の倫理					羽田貴史（高度教養教育・学生支援機構 教授）	
アドバイス	● 多彩な講師の講義を直接受講できる貴重な機会なので、自覚をもって授業に臨むこと。質問等による授業への積極的な参加を期待する。							
予習・復習	● 関心を持った内容について、自主的にさらに深く学んでほしい。							
テキスト・教材・参考書等	講師より指示される場合があるので、それに従うこと。							
成績評価の方法	出席とレポート提出により評価する。							

授業科目	歯学基礎演習		授業担当 責任者	口腔生化学 歯科薬理学 口腔微生物学 口腔分子制御学分野 口腔器官構造学 口腔生理学 歯科生体材料学 国際歯科保健学 口腔病理学 顎口腔形態創建学 顎口腔機能創建学 歯科法医情報学分野 難治疾患・口腔免疫学講座			
授業細目							
曜日一時限	第1週 火3,4、木3,4 第2週 火3,4、水5 第3週以降 水5	対象年次 学期	9セメスター	講義室名	各分野研究 室等	科目番号	DDE-DEN819J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：プレ大学院授業として、英語学術論文等の抄読を通して、英語文献の読解力を養う。</p> <p>概要：学生は基礎系分野の中から1分野を選択し演習を受ける。10セメスターの「基礎研究実習」と一貫した授業科目である。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：英語学術文献の読解力を養う。</p> <p>個別目標：① 英語学術文献の読解を経験する。 ② 学術論文の構成（フォーマット）を概説できる。 ③ 学術論文作成に関する倫理の基本を概説できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	第1週	演習内容の説明				授業責任者 (笹野泰之) 各分野演習 担当者	
	第2週 以降	演習				各分野演習 担当者	
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1週の「演習内容の説明」を参考に、受講を希望する演習を各自が選択する。具体的な履修方法は第1週に授業責任者が説明する。 						
予習・復習	<ul style="list-style-type: none"> ● 演習課題となる英語学術文献について、読解の予習と復習を欠かさないこと。 						
テキスト・教材・参考書等	授業で随時紹介する。						
成績評価の方法	出席やレポート提出等による。						

授業科目	歯学臨床ゼミ		授業担当	服部 佳功			
授業細目			責任者	加齢歯科学分野			
曜日-時限	火- 3・4 木- 5	対象年次 学期	5年次 9セメスター	講義室名	当日指定	科目番号	DDE-DEN819J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：歯科医療上の意思決定には、問題発見能力と情報収集能力、臨床推論能力が欠かせない。本授業の目標は、歯科医師に必須のこれらの能力の習得、ならびにそれに必要な態度の涵養である。</p> <p>概要：本授業はPBL形式で実施する。学生は少人数のグループに分かれ、担当教員に加えて、各グループに配されたチューターの指導のもと、グループ討議、自己学習、成果報告のプロセスを実践する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：グループ討議、自己学習、成果報告のプロセスを通じて、自ら考察する能力、目標に向けて他者と協調して行動する態度を身につける。</p> <p>個別目標：① 臨床上の意思決定に必要な医療情報が収集できる。 ② 医療情報に基づき、病態を診断できる。 ③ 診断に基づいて、治療方針を提案できる。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～9	歯科臨床ゼミ・シナリオ1				担当教員	
	10～18	歯科臨床ゼミ・シナリオ2				担当教員	
	19～27	歯科臨床ゼミ・シナリオ3				担当教員	
アドバイス	PBL形式の授業は、統合的で創造的な学習である。グループ内での学習プロセスで他者から学ぶ姿勢やプロセスに能動的に参加する態度を養ってほしい。						
予習・復習	本授業は、自己学習や学習成果の報告用プレゼンテーション資料の作成など、授業時間外の学習過程を含む。						
テキスト・教材・参考書等	特になし。						
成績評価の方法	授業への出席を前提に、授業への積極性、能動性、成果に係る担当教員の評価に基づいて判定する。						

授業科目	基礎研究実習			口腔生化学 歯科薬理学 口腔微生物学 口腔分子制御学分野 口腔器官構造学 口腔生理学 歯科生体材料学 国際歯科保健学 口腔病理学 顎口腔形態創建学 顎口腔機能創建学 歯科法医情報学分野 難治疾患・口腔免疫学講座				
授業細目				授業担当 責任者				
曜日-時限	水 1,2,3,4 木 1,2,3,4 金 3,4	対象年次 学期	10 セメスター	講義室名	各分野研究 室等	科目番号	DDE-DEN820J	
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的: プレ大学院授業として配属基礎系分野で研究実践を体験させリサーチマインドの涵養を目指す。さらに研究実習に伴い研究倫理の基本を理解させる。 概要: 9セメスターに受講する「歯学基礎演習」で選択した基礎系分野で研究実習に取り組む。研究倫理教育プログラム CITI (Collaborative institutional Training Initiative) の受講後、5年次の9月から11月まで、授業時間約200時間を研究実習に当てる。							
学習の到達 目標	一般目標: 実践を通して、研究に携わる責任感と研究への関心を醸成する。 個別目標: ① 研究倫理の基本を概説できる。 ② 研究における情報収集、企画立案、実施、まとめ、報告等のプロセスを概説できる。							
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者		
	第1回	研究倫理教育プログラム CITI 授業				笹野泰之 (歯学部教務委員会)		
	第2回~	各分野での研究実習				各分野担当者		
アドバイス	● 具体的な研究実習内容は各分野担当者が説明する。CITI 授業の受講日程は掲示等で通知する。							
予習・復習	● 各分野担当者が指導する。							
テキスト・教材・参考書等	各分野担当車で随時紹介する。							
成績評価の方法	出席やレポート提出等による。							

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 佐々木 啓一			
授業細目	歯科治療の基礎 (統合型実習)		責任者				
曜日一時限	火-2 金-1・2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3 講義室 B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要	統合型実習模型とシナリオを用いて、基本的な歯科治療における診査、診断、外科的処置を含め、保存的治療、補綴的治療に至るまでの一連の治療の流れを修得する。						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：① 口腔内所見とエックス線検査所見から治療計画を立案できる。 ② 基本的な保存的治療を理解する。 ③ 基本的な外科的処置と補綴的治療を理解する。						
	回数	授業内容					担当者
	1・2	統合型実習の説明、診査、診断、治療計画立案 診査、診断、治療計画立案（口腔診断学分野）					笹野 高嗣・古内寿
	3・4	統合型実習（保存系）					〃
	5・6	統合型実習（保存系）					
	7・8	統合型実習（保存系）					
	9	統合型実習（顎口腔外科学分野）					
	10・11	統合型実習（保存系）					
	12・13	統合型実習（補綴系）					
	14・15	統合型実習（補綴系）					
	16・17	統合型実習（補綴系）					
	18・19	統合型実習（補綴系）					
アドバイス	本実習では、将来的に歯科臨床の実践に必須となる基本的な治療の流れの習得を目的とする。実習に臨むにあたり、実習内容に関する知識を確実に習得し、また、歯科診療を行うにふさわしい服装で臨むこと。						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	スタンダード部分床義歯学（藍 稔編） 学研書院 2006 第 4 版保存修復学 21（永末書店）各分野の実習書						
成績評価の方法	本実習に出席することを必須とし、遅刻・欠席は認めない。実習態度および理解度、制作物等により総合的に評価する。						

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 笹野 高嗣 古内 壽			
授業細目	画像診断学実習		責任者				
曜日一時限	火-2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3 講義室 B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科疾患を診断するための臨床診断および画像診断のプロセスを総合的に修得する。						
学習の到達 目標	一般目標：歯科疾患の画像診断ができる。 個別目標：① 歯科で用いられる画像検査の所見を述べ、正常像と異常像を読影することができる。 ② 画像検査所見をもとに病態を解釈することができる。 ③						
	回数	授業内容					担当者
	1	口腔診断学（総合画像診断実習）					口腔診断学分野 教員全員
	2	口腔診断学（総合画像診断実習）					〃
アドバイス	問診・臨床所見・検査所見をもとに、広い見地から口腔の状態を総合的に判断できる「考える歯科医師」を目指してほしい。ここでは画像診断のプロセスについて総合的に解説する。						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等	・Oral Diagnosis and Radiology 第5版（当分野オリジナル） ・ 歯科放射線学 第5版（古本啓一、岡野友宏、小林馨 編）、医歯薬出版株式会社 ・臨床イメージノート（小林馨、笹野高嗣ら）、永末書店						
成績評価の方法	実習態度および小テスト等を参考に評価する。出席は特に厳しく評価します。						

授業科目	臨床シミュレーション実習		授業担当	○菊池 雅彦 北浦 英樹			
授業細目	歯科矯正学		責任者				
曜日一時限	火-2	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	B3 講義室 B3 実習室	科目番号	DDE-DEN821J
授業の目標 並びに目的 と概要	歯科矯正臨床に特徴的な初診面談、相談ならびにインフォームドコンセントの重要性を理解し、面接技術を習得する。						
学習の到達 目標	一般目標：インフォームドコンセントを理解することおよび面接技術を習得する。 個別目標：① インフォームドコンセントの重要性を理解する。 ② インフォームドコンセントをロールプレイで体感して理解を深める。 ③ 初診面談をロールプレイ体感してで面接技術を習得する。						
	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	インフォームドコンセント				教員全員	
	2	医療面談（矯正相談）				"	
アドバイス	学生同士でロールプレイを行うので臨場感を体感してほしい。						
予習・復習	インフォームドコンセントとは何かを理解しておく。また、講義で配布される講義レジュメを用いて復習することにより理解を深めることを心得ること。						
テキスト・教材・参考書等	テキストは別途配布する。						
成績評価の方法	出席を重視する。						

授業科目	臨床講義 A		授業担当	臨床実習総責任者			
授業細目	A. 人体解剖学総論		責任者				
曜日-時限	金-3・4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	A 1 講義室	科目番号	DDE-DEN401J
授業の目標 並びに目的 と概要	目標と目的：歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するため 概要：日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1～20	各科・部の指導者による講義				各科・部教員	
アドバイス	「詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等							
成績評価の方法	出席、レポート等により総合的に評価						

授業科目	臨床講義B		授業担当	臨床実習総責任者			
授業細目	B. 体幹・体肢		責任者				
曜日一時限	金-3・4	対象年次 学期	6年次 11~12セメ スター	講義室名	A1講義室	科目番号	DDE-DEN211
授業の目的 と概要	<p>目標と目的：歯科臨床における問題解決に必要な知識やエビデンスを習得するため。 概要：日常臨床で重要となる種々のテーマについて各科・部で担当する講義を聴講し、内容を理解する。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標： 個別目標：</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	21~67	各科・部の指導者による講義				各科・部教員	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等							
成績評価の方法	出席、レポート等により総合的に評価						

授業科目	臨床実習 A		授業担当 責任者	臨床実習総責任者			
授業細目	C. 頭部・頸部						
曜日・時限	月～金 1～4	対象年次 学期	5年次 10セメスター	講義室名	東北大学病院 及び A1講義室	科目番号	DDE-DEN402J
授業の目的 と概要	目標と目的： 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等							
成績評価の方法	完了症例数、レポート、修了認定試験等により総合的に評価 なお出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。						

授業科目	臨床実習B		授業担当	臨床実習総責任者			
授業細目			責任者				
曜日一時限	月～金 1～4	対象年次 学期	6年次 11～12セメスター	講義室名	東北大学病院 および A1講義室	科目番号	DDE-DEN412J
授業の目的 と概要	目標と目的： 概要：						
学習の到達 目標	一般目標： 個別目標：						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
アドバイス	詳細については、臨床実習要項を参照のこと						
予習・復習							
テキスト・教材・参考書等							
成績評価の方法	完了症例数、レポート、修了認定試験等により総合的に評価 なお出席状況についても成績評価の際の判断資料とする。						

授業科目	歯学海外研修		授業担当	洪 光			
授業細目			責任者	歯学イノベーションリエゾンセンター 国際連携部門			
曜日一時限	集中講義	対象年次 学期	1～6年次 全セメスター	講義室名	C1セミナ 一室	科目番号	DDE-DEN901J
授業の目標 並びに目的 と概要	<p>目標と目的：本授業の目標は、歯学部学生を世界の歯学基幹校に派遣し、世界各国の口腔保険医療、歯学教育研究、歯科医療現場を体験・実践することにより、国際的視野を養い、学生レベルでの歯学・歯科医療国際ネットワークを早期構築し、歯学部での国際化推進学生リーダーを養成することである。</p> <p>概要：本授業は、歯学部で行っている海外短期派遣留学プログラムに参加することにより、海外連携校指導教員、学生と共に海外の口腔医療、歯科医療現場に参画し、体験型学習を行う。さらに、派遣地の歯学教育研究に関しても体験を行う。</p>						
学習の到達 目標	<p>一般目標：国際的視野を養い、国際交流に積極的に取り組むことができる。</p> <p>個別目標：</p> <p>① 歯科医療事情の相互理解：派遣先国々の歯科医療事情を理解し、日本との相違を説明できる。</p> <p>② 世界各国における歯学教育・研究現状を把握し、それぞれの地域の歯学・歯科レベル向上のために、今からできることを説明できる。</p> <p>③ 英語によるコミュニケーション能力の向上及び国際化視点の涵養：積極的に派遣先の教員、学生とコミュニケーションがとれ、議論するための必要なコミュニケーション能力を向上する。</p> <p>④ 参加学生が帰国後、連携校との交流を継続し、リアルタイムに情報交換を行うなど、歯学・歯科医療 国際ネットワークを形成する。</p>						
授 業 計 画	回数	授 業 内 容				担 当 者	
	1	詳細は、別途通知する。					
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外短期派遣留学プログラムには JASSO による奨学金支援プログラムもあり、奨学金支給資格は GPA による判断されるため、各学年で優秀な成績を収めるよう心がけること。 ● 海外派遣には英語力が要求されるが、ネイティブに話さなければならないことではなく、コミュニケーション能力が大事なので、自信を持って取り組むこと。 						
予習・復習	派遣先の大学情報、国情報などについて事前に予習することが望ましい。						
テキスト・教材・参考書等	講師より指示される場合があるので、それに従うこと。						
成績評価の方法	派遣先教員からの評価レポート及び海外研修終了後のレポートを基に判定する。成績は AA, A, B, C, D 判定とする。						

6. 歯学部・歯学研究科教員名簿

(電話は 022-717- (分野の4ケタ No.))

学部長・研究科長 佐々木 啓一

口腔生物学講座

口腔生物学分野 (8295)

教授 高橋 信博
講師 鷺尾 純平
助教 安彦 友希

歯内歯周治療学分野 (8336)

准教授 根本 英二
助教 八巻 恵子
" 石幡 浩志
" 荘司 佳奈子

歯科薬理学分野 (8311)

教授 若森 実
准教授 中村 卓史
助教 吉田 卓史

<歯周病科>

助教 井川 資英

口腔微生物学分野

口腔分子制御学分野 (8321)

教授 菅原 俊二
講師 多田 浩之
助教 黒石 智誠

口腔機能形態学講座

口腔器官構造学分野 (8283)

教授 市川 博之
助教 佐藤 匡

口腔システム補綴学分野 (8369)

教授 佐々木 啓一
准教授 小川 徹
助教 末永 華子
" 依田 信裕

歯科法医情報学分野 (8269)

准教授 鈴木 敏彦
助教 小坂 萌

<咬合回復科>

助教 埜 総司
" 重光 竜二
" 福島 梓

口腔生理学分野 (8292)

准教授 戸田 孝史
講師 千葉 美麗
助教 工藤 忠明

加齡歯科学分野 (8396)

教授 服部 佳功
 助教 田中 恭恵
 研究助教 猪狩 洋平

〈高齢者歯科治療部〉

助教 山口 哲史
 " 佐藤 智昭
 " 遠藤 耕生
 " 小宮山 貴将

口腔修復学講座

歯科生体材料学分野 (8317)

准教授 高田 雄京
 助教 高橋 正敏

分子・再生歯科補綴学分野 (8363)

教授 江草 宏
 講師 山田 将博
 助教 石橋 実生
 研究助教 原田 章生

歯科保存学分野 (8343)

教授 齋藤 正寛
 講師 半田 慶介
 助教 兼平 正史
 " 小林 洋子

〈咬合修復科〉

助教 奥山 弥生
 " 新部 邦透
 " 鎌野 優弥

〈保存修復科〉

助教 石河 真幸

口腔保健発育学講座

予防歯科学分野 (8327)

教授 小関 健由
 助教 齋藤 恵一
 " 岩永 賢二郎
 研究助教 玉原 亨

顎口腔矯正学分野 (8374)

准教授 北浦 英樹
 助教 竹下 信郎
 " 清流 正弘

〈予防歯科〉

助教 丹田 奈緒子
 " 百々 美奈

小児発達歯科学分野 (8382)

教授 福本 敏
 准教授 山田 亜矢
 助教 新垣 真紀子
 " 小山田 優

〈矯正歯科〉

講師 福永 智広
 助教 吉田 倫子
 " 木村 桂介

〈小児歯科〉

講師 齋藤 幹
 助教 日野 綾子
 " 小野 真理子

口腔障害科分野 (8277)

教授 五十嵐 薫
助教 西村 壽晃

国際歯科保健学分野 (7638)

教授 小坂 健
准教授 相田 潤

口腔病態外科学講座

口腔病理学分野 (8303)

教授 熊本 裕行
助教 清水 良央
" 及川 麻理子

口腔診断学分野 (8390)

教授 笹野 高嗣
講師 飯久保 正弘
助教 古内 壽
" 佐藤 しづ子
" 小嶋 郁穂

<口腔診断科>

講師 阪本 真弥
" 庄司 憲明
助教 菅原 由美子

顎顔面・口腔外科学分野 (8350)

教授 高橋 哲
准教授 永井 宏和
" 山内 健介
講師 下田 元
助教 宮下 仁
" 松井 桂子
" 野上 晋之介

<歯科顎口腔外科>

講師 佐藤 修一
" 千葉 雅俊
" 森 士朗
助教 川井 忠
" 片岡 良浩
" 神田 直典
" 江副 祐史

歯科口腔麻酔学分野 (8420)

教授 正木 英二
准教授 水田 健太郎
助教 的場 あつ子

<歯科麻酔疼痛管理科>

助教 城戸 幹太
" 安田 真

顎口腔創建学講座

顎口腔形態創建学分野 (8287)

教 授 笹 野 泰 之
助 教 中 村 恵

顎口腔機能創建学分野 (7635)

教 授 鈴 木 治
准教授 穴 田 貴 久

歯学イノベーションリエゾンセンター

教 授 ガリクー アリウントゥール
准教授 金 高 弘 恭
" 洪 光
助 教 金 谷 聡 介
" 眞 柳 弦
" 坪 谷 透
" 塩 飽 由 香 利
研究助教 木 山 朋 美
" 室 井 梓

研究助教 三 浦 賞 子
" 矢 島 健 太
" 宮 下 俊 郎
" 石 田 匡 彦
" 関 大 輔
" 大 泉 丈 史
" 杉 山 賢 明

先端再生医学研究センター

准教授 犬 塚 博 之
" 福 島 秀 文
助 教 清 水 康 平

地域医療支援部門

地域口腔健康科学分野 (3576)

教 授 坪 井 明 人 (東北メディカル・メガバンク機構)
助 教 川 嶋 順 子

口腔腫瘍病態学講座（協力講座）

口腔腫瘍制御学分野（8263）

教授 堀内 久徳（加齢医学研究所）

口腔分子腫瘍学分野（8550）

教授 本橋 ほづみ（加齢医学研究所）

難治疾患・口腔免疫学講座（協力講座）

教授 小笠原 康悦（加齢医学研究所）

新生体素材学講座（協力講座）

生体融合素材学分野

教授 後藤 孝（金属材料研究所）

生体機能素材学分野

生体再生歯工学講座（協力講座）

生体再生歯工学分野（8235）

教授 鎌倉 慎治（医工学研究所）

生体適合性計測工学寄附講座

教授 庭野 吉己

講師 中村 圭祐

助教 天雲 太一

次世代歯科材料工学寄附講座

助教 松館 芳樹

口腔免疫病態制御学講座（連携講座）

客員教授 高 木 智 （国立国際医療研究センター研究所）

長寿口腔科学講座（連帯講座）

客員教授 松 下 健 二 （国立長寿医療研究センター研究所）

客員教授 新 飯 田 俊 平 （ ” ” ）

その他（各種事業関係教員）

助 教 西 岡 貴 志 （インターフェイスプロジェクト支援室）

東北大学病院歯科診療部門

<顎口腔機能治療部>

助 教 土 谷 忍
” 滝 澤 愛 子

<障害者歯科治療部>

講 師 猪 狩 和 子
助 教 高 橋 温

<総合歯科診療部>

教 授 菊 池 雅 彦
助 教 泉 田 明 男
” 王 鋭

<感染予防対策治療部>（クリーン歯科治療部）

助 教 遠 藤 英 昭

<顎顔面口腔再建治療部>

准教授 小 山 重 人
助 教 佐 藤 奈 央 子

7. 歯学部・歯学研究科学生相談室

歯学部・歯学研究科では、学部学生および大学院学生を対象として学生の抱える問題に対処すべく「学生相談室」を設けております。勉学、進路、生活に関することはもとより、宗教団体への強制勧誘、セクシュアルハラスメント等々、相談に応じ、必要があればしかるべきサービスや専門家の紹介もいたしますのでできるだけ早く相談してください。

相談内容は秘密事項として扱われますが、相談室のみでは解決できない事柄の場合、相談者の了承のもとに関連する教員や委員会と協議することがあります。

相談時間：担当委員と相談者の都合により随時行います。

受 付：教務係（電話 022-717-8248；e-mail：soudan@dent.tohoku.ac.jp）

相 談 員：[学部学生] 学部教務委員会委員長、学年担当教務委員、学生支援専門委員会委員長
[大学院生] 大学院教務委員会委員長

8. 歯学部・歯学研究科教員（講師以上）オフィスアワー

口腔生物学講座	口腔生化学分野	教授	高橋 信博	月曜日	16時～17時
		講師	鷲尾 純平	火曜日	16時～17時
	歯科薬理学分野	教授	若森 実	木曜日	17時～18時
		准教授	中村 卓史	水曜日	15時～16時
	口腔微生物学分野				
口腔機能形態学講座	歯内歯周治療学分野 (歯周病科)	准教授	根本 英二	火曜日	15時～17時
	口腔分子制御学分野	教授	菅原 俊二	月曜日	16時～17時
		講師	多田 浩之	金曜日	16時～17時
	口腔器官構造学分野	教授	市川 博之	火曜日	16時～17時
口腔修復学講座	歯科法医情報学分野	准教授	鈴木 敏彦	火曜日	7時30分～9時
	口腔生理学分野	准教授	戸田 孝史	火曜日	16時～17時
		講師	千葉 美麗	木曜日	16時～17時
	口腔システム補綴学分野 (咬合回復科)	教授	佐々木 啓一	月曜日	16時～17時
准教授		小川 徹	水曜日	16時～17時	
加齢歯科学分野	教授	服部 佳功	木曜日	16時～17時	
口腔修復学講座	歯科生体材料学分野	准教授	高田 雄京	水曜日	16時～17時
	歯科保存学分野 (保存修復科)	教授	齋藤 正寛	月曜日	16時～17時
		講師	半田 慶介	水曜日	16時～17時
分子・再生歯科補綴学分野	教授	江草 宏	火曜日	16時～17時	
	講師	山田 将博	前期木曜日	17時～18時	
口腔保健発育学講座	予防歯科学分野	教授	小関 健由	火曜日	15時～16時
	小児発達歯科学分野 (小児歯科)	教授	福本 敏	火曜日	16時～17時
		准教授	山田 亜矢	木曜日	12時～13時
		講師	齋藤 幹	水曜日	8時～9時
顎口腔矯正学分野 (矯正歯科)	准教授	北浦 英樹	月曜日	16時～17時	
	講師	福永 智広	火曜日	16時～17時	
口腔障害科学分野	教授	五十嵐 薫	金曜日	16時～17時	
国際歯科保健学分野	教授	小坂 健	木曜日	16時～17時	
	准教授	相田 潤	月曜日	16時～17時	

口腔病態外科学講座	口腔病理学分野	教授	熊本 裕行	月曜日	16時～17時
	口腔診断学分野	教授	笹野 高嗣	月曜日	16時～17時
	(口腔診断科)	講師	飯久保 正弘	月曜日	16時～17時
		講師	阪本 真弥	火曜日	15時～16時
		講師	庄司 憲明	水曜日	16時～17時
	顎顔面・口腔外科学分野	教授	高橋 哲	水曜日	16時～17時
		准教授	山内 健介	月曜日	16時～17時
		准教授	永井 宏和	月曜日	17時～18時
	(顎口腔外科)	講師	下田 元	月曜日	16時～17時
		講師	佐藤 修一	水曜日	16時～17時
		講師	千葉 雅俊	金曜日	16時～17時
		講師	森 士朗	月曜日	16時～17時
	歯科口腔麻酔学分野	教授	正木 英二	月曜日	13時～17時
		准教授	水田 健太郎	月曜日	16時～17時
顎口腔創建学講座	顎口腔形態創建分野	教授	笹野 泰之	金曜日	18時～19時
	顎口腔機能創建分野	教授	鈴木 治	火曜日	16時～17時
		准教授	穴田 貴久	(未定)	
歯学イノベーション リエゾンセンター		准教授	金高 弘恭	木曜日	16時～17時
		准教授	洪 光	火曜日	16時～17時
				木曜日	16時～17時
先端再生医学研究 センター		准教授	犬塚 博之	(未定)	
		准教授	福島 秀文	月曜日	16時～17時
地域医療支援部門	地域口腔健康科学分野	教授	坪井 明人	水曜日	16時～17時
口腔腫瘍病態学 (協力講座)	口腔腫瘍病態学分野	教授	堀内 久徳	(事前に連絡要)	
	口腔分子腫瘍学分野	教授	本橋 ほづみ	(事前に連絡要)	
難治疾患・口腔免疫学 (協力講座)	難治疾患・口腔免疫学分野	教授	小笠原 康悦	月曜日～金曜日 16時～17時 (事前に連絡要)	
新生体素材学 (協力講座)	生体融合素材学分野	教授	後藤 孝	(未定)	
生体再生歯工学 (協力講座)	生体再生歯工学分野	教授	鎌倉 慎治	木曜日	16時～17時
大学病院	障害者歯科治療部	講師	猪狩 和子	月曜日	16時～17時
	総合歯科診療部	教授	菊池 雅彦	月曜日	16時～17時
	顎顔面口腔再建治療部	准教授	小山 重人	木曜日	16時～17時

